

第1章 流域の自然条件

1-1 河川・流域の概要

安倍川は、その源を静岡県静岡市と山梨県南巨摩郡早川町の県境に位置する大谷嶺（標高2,000m）に発し、山間部を流れ中河内川等の支川を合わせながら南流し、静岡平野を形成する扇状地に出て藁科川を合わせ、静岡市街地を貫流し、さらに河口付近で丸子川を合わせ駿河湾に注ぐ、幹川流路延長 51 km、流域面積 567 km²の一級河川である。

安倍川流域は、静岡県中部に位置し、県都静岡市1市に含まれ、流域の土地利用は、山地等が約 93%、水田や茶畑等の農地が約 3%、宅地等市街地が約 4%となっている。下流には我が国の根幹をなす国道1号、JR東海道新幹線などの交通網や政治、経済、教育、文化、情報など中枢管理機能が集積しており、静岡市を中心とする静清庵地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。

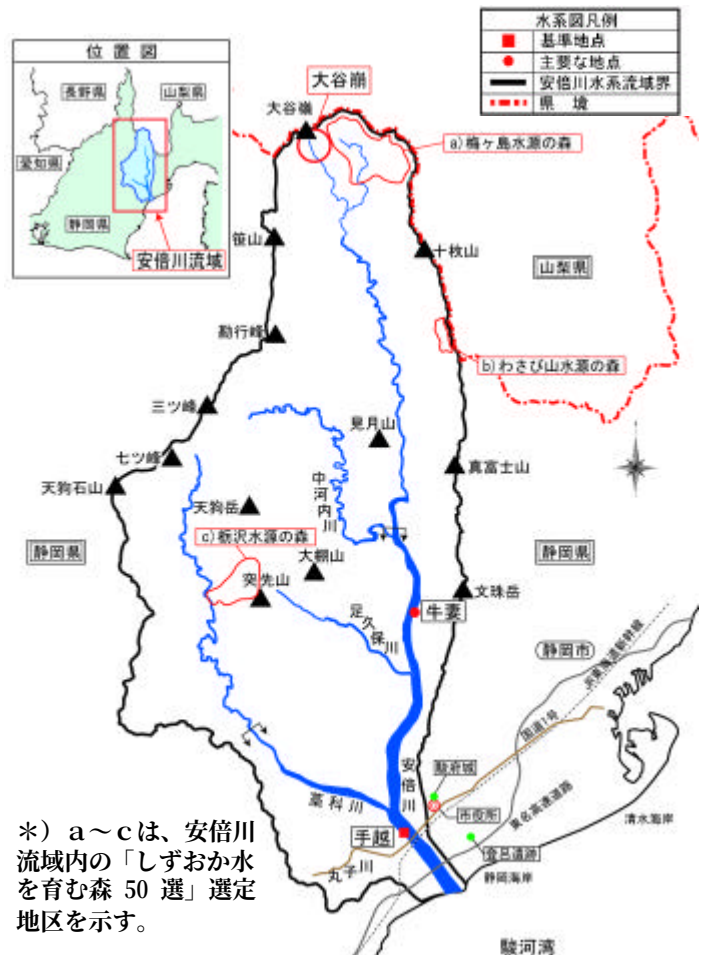
流域内において「しずおか水を育む森 50 選」に3地区が選定されるなど、豊かな自然環境を有するとともに、水質は良好で、伏流水が水道用水、工業用水等に利用されている。

多数の崩壊地を抱える上流部は、植林されたスギ等の針葉樹林とシデ等の落葉広葉樹林で構成され、クマタカをはじめニホンカモシカ、ホンドモモンガ等の動物が生息し、溪流には、アマゴ、カジカ等が生息している。

山間部を流れる中流部は、スギ、ヒノキ等の人工林が多く、河岸にはコナラ群落、シイ、カシなどの樹林が連続している。魚類では、アユ、オイカワなどが生息している他、洪水による河床変動を受ける川原にはヤナギ類が点在し、ツマグロキチョウ等の昆虫類が確認されている。

網状河川となる下流部は、洪水時には河床や流路が大きく変動するため河道内の樹木は少なく、流水が伏没する区間も見られ、河床や流況が不安定であることから生物相は豊かではないが、砂礫地に営巣するコアジサシやチドリ類等が確認されている。

また、安倍川は、弥生時代後期の生活様式、農耕文化を今に伝える登呂遺跡に見られるように、古来から人々に豊かな恵みの水を与えてくれる母なる川であった。



図ー1.1 安倍川流域図

1-2 地形

安倍川は、その源を静岡県静岡市大谷嶺（標高 2,000m）に発し、本川が流域の東側に偏って流れているため、中河内川・足久保川・蘆科川などの大きな支川はいずれも右岸側から流入し、左岸側からは短小な急流支川が流入するのみである。

流域の東側にある山稜は、ほぼ南北の直線状に連なる急峻な山地で、北から南へ十枚山（1,726m）・真富士山（1,343m）・文珠岳（1,041m）と次第に低くなり、文珠岳から南で急に高度を減じ、静岡平野に至っている。流域の西側にある山稜は、笹山（1,763m）・勘行峰（1,450m）が北から南にかけて伸び、勘行峰からは天狗石山（1,366m）へと南西方向に伸びている。

安倍川の河岸沿いの地形は、上流部に大谷崩の形成と関係のある砂礫段丘が発達しているが、孫佐島より下流は、概ね埋積谷の状態となっている。牛妻より下流では、谷底平地が出現し、さらに下流に至ると扇状地性の静岡平野が開け、海岸に流出した土砂は静岡・清水海岸を形成している。



図-1.2 安倍川流域の地形

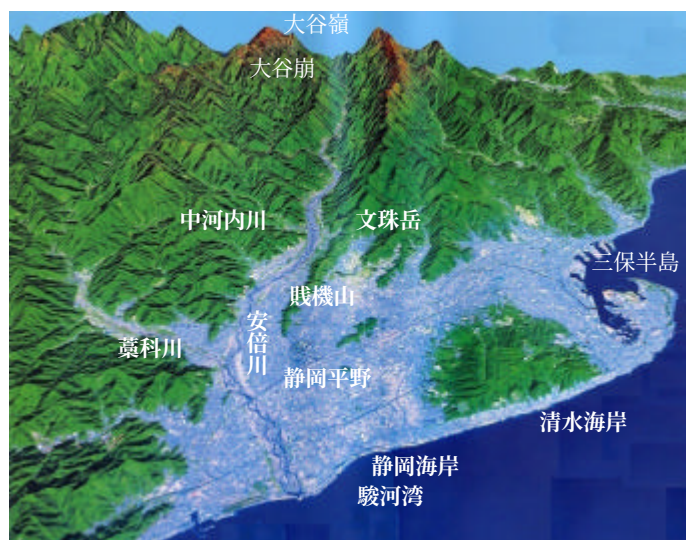


図-1.3 安倍川鳥瞰図
「Agency/ARTBANK Product / SHASHINKAGAKU」
(承認番号 平9総使第53号より転載)

1-3 地質

流域の地質は、日本の地質構造上からみると、西南日本外帯の最東端に位置している。

西南日本と東北日本とを分ける糸魚川―静岡構造線は、流域の北部では東縁分水界の十枚山から文珠岳を連ねる山稜のわずかに東を南東に走り、南部では賤機山の東側に出ている。この構造線から東の部分はフォッサマグナと呼ばれる大きな地溝帯に当たり、主として新第三紀か第四紀に属する地層岩石が分布している。一方、この線から西は、より古い古第三系から古生界に属する地層が分布している。

安倍川の流域の大部分を占める瀬戸川層群は、主に砂岩・頁岩およびこれらの互層からなり、凝灰岩・チャート・石灰岩・玄武岩・斑れい岩・輝緑岩・蛇紋岩も含んでいる。その堆積時代は、貝化石から漸新世中期（3千万年以前）、浮遊性有孔虫化石から始新世～暁新世（約6千万年以前）とされている。

瀬戸川層群の西側にある三倉層群は中生界と考えられており、糸魚川―静岡構造線の西に位置し、これに平行する2本の逆断層、すなわち十枚山付近を通る十枚山構造線と安倍川上流の大谷崩の西を通る笹山構造線で瀬戸川層群に衝上している。

これらの地層は、赤石山地東南縁の地域から西南日本（静岡県西部・紀伊半島南部・四国南部・九州南部にかけての地域）へと連なっており、いずれも半深海から浅海にたまった厚い堆積物で、一般的には四万十帯という名で知られている。

瀬戸川層群・三倉層群とも十枚山構造線と笹山構造線の横ずれ運動によって、著しく破碎を受けているため、風化しやすく、かつ壊れやすい地層となっている。このような地質のため、山地崩壊をひきおこす有力な要因になっていると考えられる。また、このような地質の永い間の侵食によって安倍川の深い谷が形成されたものと思われる。

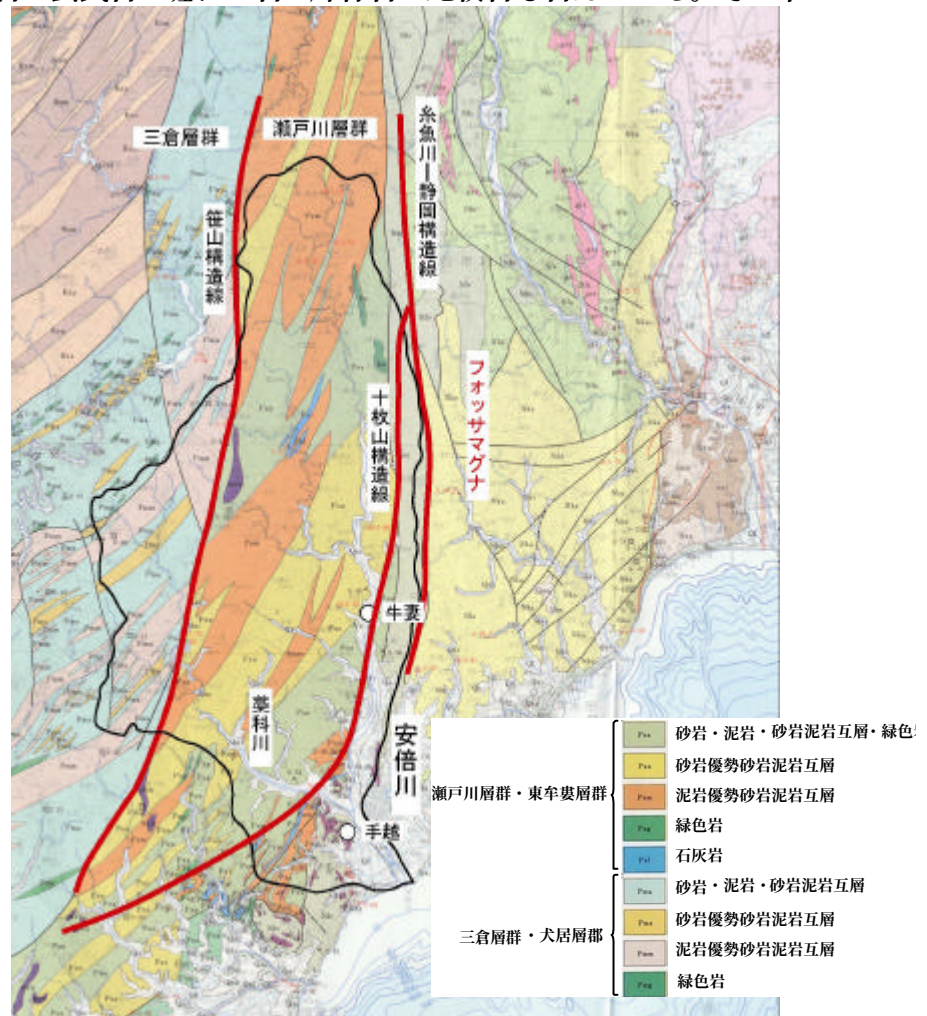


図-1.4 安倍川流域地質分布図

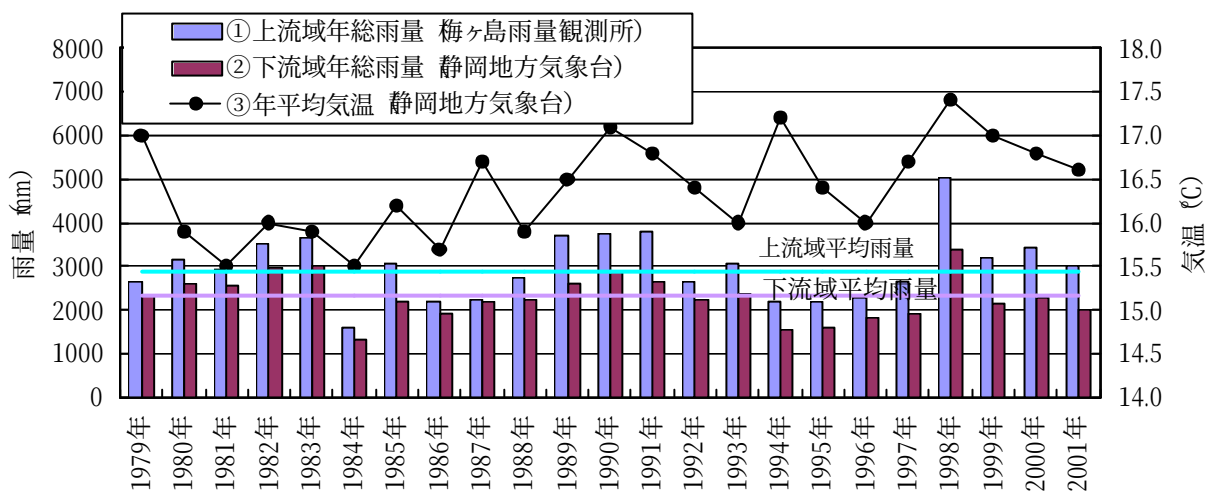
（出典：「中部地方土木地質図 解説書」中部地方土木地質図編纂委員会（財）国土開発技術研究センター発行）

1-4 気候・気象

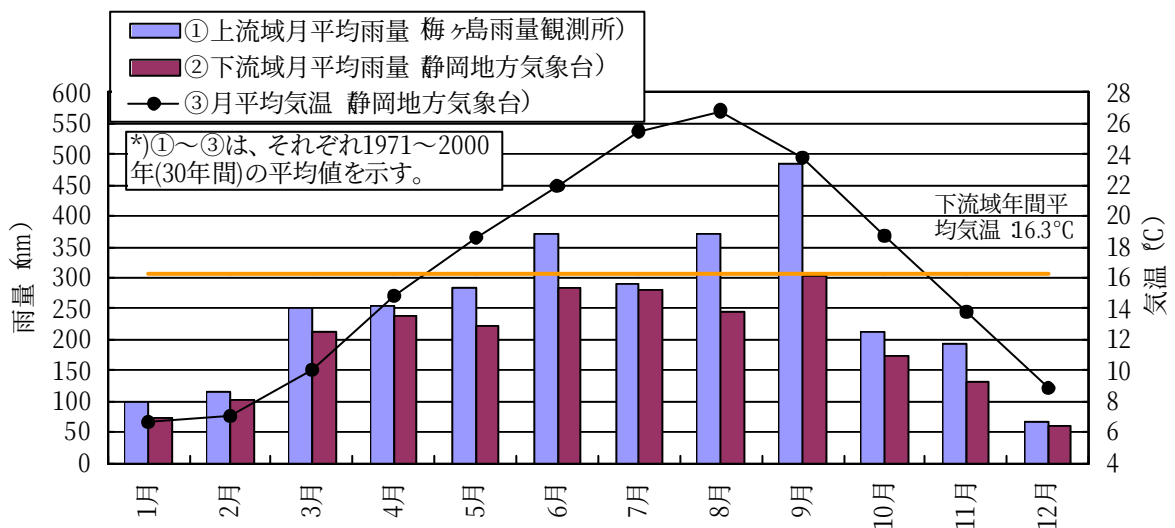
安倍川流域の気候は、表日本式太平洋岸型気候の特徴を示しており、全国的に見ても温暖な気候条件である。しかし、海岸に近い下流域の平野部に比べ、上流域の山間部は気温の格差が大きく、冬季の寒冷、夏季の昇温が目立つ内陸性気候であり、夏季の強雨が目立つところでもある。

安倍川流域は黒潮の影響をうけ、平野部の平均気温は16℃程度で、冬季の日照時間も多く、極めて温和なところである。

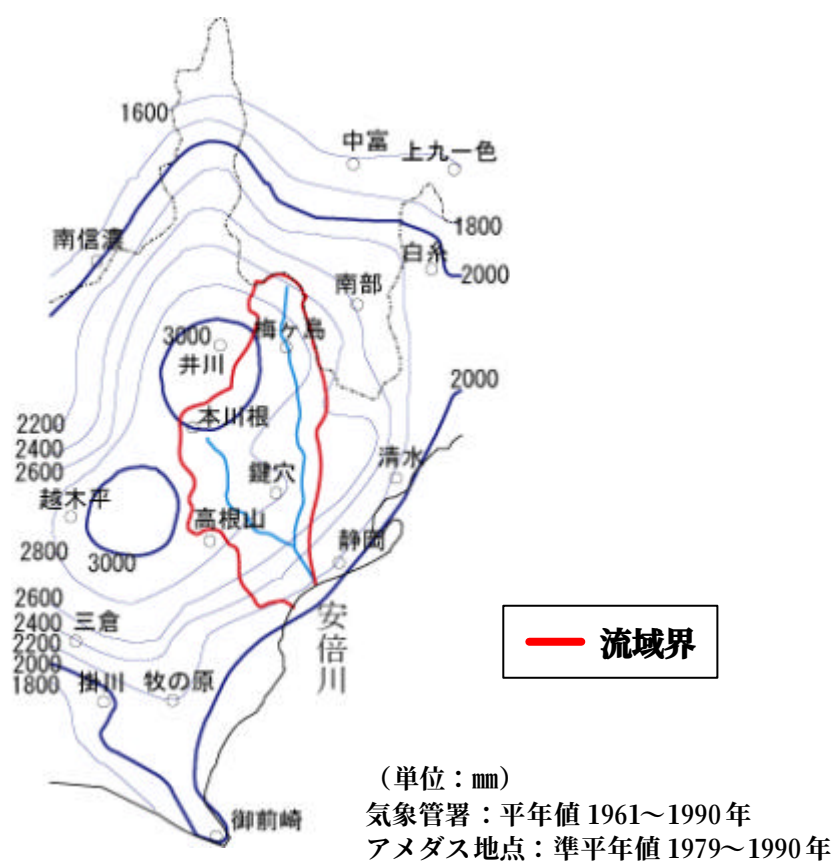
また、平野部の年間平均降水量は2,200 mm程度であるが、上流域の年間平均降水量は2,800 mmを越えており、多い年には5,000 mm以上を記録したこともある。



図－1.5 安倍川流域総雨量経年変化図



図－1.6 安倍川流域の月平均気温の変化



図－1.7 安倍川流域の年平均降水量分布図

(出典：「しずおかの河川・海岸」平成 12 年 3 月 静岡県土木部河川砂防総室)

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

①自然環境の概要

安倍川^{あべかわ}は流路延長が比較的短く、1,500m～2,000m 級の高山から一気に駿河湾に注いでいるため河口部でも約 1/250 の急勾配であり、わが国屈指の急流河川である。源流部には日本三大崩れのひとつに数えられる大谷崩をはじめ多数の崩壊地があり、特有の自然景観を有しているとともに、上流域からおびただしい砂礫を流出しており、静岡市街地をひかえる下流部の扇状地も川状はかなり不安定で、古くからしばしば洪水の被害を受けてきた。

安倍川最上流部は、赤石山脈^{あかいし}の前山を形成する起伏の大きな山地帯で、これらの山々は奥大井県立自然公園^{おくおおい}に指定されている。全般に急峻で谷が深く、山地の崩壊も多い。大谷崩を含む安倍川上流部の地質を構成する砂岩と頁岩は、断層・褶曲によって破砕が著しく、全体が極めてもろい地盤となっている。上流部の山地には、自然植生のブナ・ミズナラ・コメツガの原生林や、オオイタヤメイゲツをはじめとしたカエデ類の純林、代償植生のアカシデ・イヌシデ群落、スギ・ヒノキの人工林などが分布している。このような樹林地帯には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に基づく国内希少野生動植物種に指定されているクマタカをはじめ、同じく樹林の環境に依存するレッドデータブック準絶滅危惧種ヤマネ、静岡県版レッドリスト情報不足種ホンダモモンガ、ニホンカモシカ、中・高山帯の溪流周辺に生息する静岡県版レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類ヒダサンショウウオ・ハコネサンショウウオなどの動物が生息している。



大谷崩

安倍川上流にあり、日本三大崩れの一つ。1707（宝永4）年の大地震で本格的な崩落が始まり、今までに崩落した土砂の量は約1億2000万立法メートルといわれる。



ハコネサンショウウオ

標高 500m 以上の山から亜高山帯に生息する。（下土居知子氏 撮影）

溪流は静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種カジカ、同リスト部会注目種アマゴ等の清流を好む魚類等が生息しているとともに、多くの滝や河岸段丘崖など変化に富んだ景観を形成している。

中流部の沿川にはスギ・ヒノキの人工林が多く、河岸にはコナラ群落、シイ・カシ萌芽林などの樹林が連続する。林内には、無脊椎動物レッドリスト（環境庁）準絶滅危惧種オオムラサキ、静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種モリアオガエルなどが確認され、ホンドモモンガ・ニホンカモシカ・ウスバシロチョウ・クロコノマチョウなどが生息している。

下流部には、安倍川の流出土砂によって形成された扇状地面上に静岡市の市街地や田園地帯が広がり、山裾にはスギ・ヒノキの人工林と、温暖な気候を特徴づける茶畑やミカン畑が連なっている。

②安倍川流域の生物

多数の崩壊地を抱える上流部は、植林されたスギ等の針葉樹林とシデ等の落葉広葉樹林で構成され、山伏岳から安倍峠にかけての標高が高い山には自然植生のヤマボウシ・ブナ群落、イヌブナ群集、八紘嶺^{はっこうり}にはコメツガ群落などが見られる。安倍川の河川敷は全般に植生の分布が少なく裸地化したところが多いが、上流部の比較的安定したところではヤナギ・ヤシャブシ等の河畔林が見られ、急峻な峡谷部にはシイ・カシ等の萌芽林やコナラ群落等が分布している。また中・下流部は河床が安定せず流路が絶えず変化するため、高水敷にはヤナギ類が点在し、川原にはカワラヨモギ・オオアレチノギク群落といった不安定な川原に代表される植物が見られる。一方、河口付近では、シオクグ・ハマヒエガエリなどの植物が見られる。中・下流部および藁科川には流水縁等に生育するレッドデータブック準絶滅危惧種カワヂシャが広い範囲で確認されているほか、河口付近の浅い水域にはレッドデータブック準絶滅危惧種ミクリが確認され、ガマなどの湿性植物が生育している。

安倍川流域にすむ哺乳類は、上流部には周辺の豊かな樹林環境を反映してヤマネ、ホンドモモンガのほか、タヌキなどが生息している。また中流部には、コウベモグラ・タヌキ・イタチ・ネズミ類・ハクビシン・ニホンイノシシなど、下流部ではタヌキ・イタチ・コウベモグラ・ネズミ類などが確認されている。また、中



ミクリ

池や溝など浅い水中に生える多年草。絶滅が危惧されている特定種。



ホンドモモンガ

低山帯から亜高山帯の森林に棲息し、夜行性で樹上で行動する。

流部および藁科川ではススキ・オギなどイネ科の植物を利用して球形の巣を作る、静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種カヤネズミが確認されている。

安倍川流域にすむ両生・爬虫類では、上流部には中・高山帯に生息するヒダサンショウオ・ハコネサンショウウオ、静岡県版レッドリストの準絶滅危惧種カジカガエル、同リストの情報不足種ナガレタゴガエルなどの溪流や山地にすむ種類が確認されている。中流部では、カジカガエル・モリアオガエル、静岡県版レッドリストの部会注目種アズマヒキガエルのほか、ツチガエル・ヌマガエル・カナヘビ・ヒバカリ・ヤマカガシなどが確認されている。下流部では静岡県版レッドリスト分布上注目種ニホントカゲ、同リスト部会注目種トノサマガエルのほか、アマガエル・ヌマガエル・ツチガエル・カナヘビ・アオダイショウなど平地に多く見られる種類が確認されている。



カジカガエル
山地の溪流や周辺の森にすむ
(下土居知子氏 撮影)



ヒダサンショウウオ
山地の溪流や周辺の森にすむ



ナガレタゴガエル
低山地の森林地帯の溪流にすむ。タゴガエルに似るが水かきがよく発達している。

安倍川流域にすむ魚類では、上流部にはカジカ・アマゴのほか、イワナなどの溪流魚が見られる。中流部では静岡県版レッドリスト部会注目種タカハヤ・シマドジョウが確認されているほか、アユ・ウグイ・オイカワ・ズナガニゴイなど、河川中流域の瀬や淵の環境に生息する種類が多い。下流部ではレッドデータブック準絶滅危惧種シロウオや、静岡県版レッドリストの準絶滅危惧種カマキリのほか、ウナギ・オイカワ・ウグイ・アユ・ヌマチチブ・回遊性ヨシノボリなどが確認されている。また、安倍川・藁科川ではレッドデータブック情報不足種に該当し地下水中で生活するイドミミズハゼが確認されている。



アマゴ
年間を通して水温が 20℃以下の
渓流域に生息する。
(村上俊明氏 撮影)



アユ
夏の香り高い魚として水産資源としても貴重



カマキリ (アユカケ)
川の中流域を中心に生息し、産卵期
に川を下り沿岸近くで産卵する。

安倍川流域にすむ鳥類は、上流部ではクマタカ、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）に指定されている国内希少野生動植物種オオタカをはじめ、レッドデータブック準絶滅危惧種ハイタカ、静岡県版レッドリスト絶滅危惧ⅠＢ類コノハズク、同絶滅危惧Ⅱ類カワセミのほか、オシドリ・ヤマセミなどが確認されている。中流部では種の保存法による国内希少野生動植物種ハヤブサ、静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種イカルチドリのほか、カワセミ・ヤマセミ・コチドリ・イソシギ・サギ類などが確認されている。イカルチドリ・コチドリ・イソシギは広い砂礫地を好む鳥類である。下流部では、砂州によって河口に形成された広大な静水域があり、水際はサギ類やシギ類がエサ場として利用しているほか、カモメ類・カモ類・カワウやチドリ類などの集団越冬地となっている。また河口部では、魚類食のレッドデータブック準絶滅危惧種ミサゴのほか、セキレイ類やその他のズズメ目も多く確認されている。また、広大な川原の砂礫地にはレッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類コアジサシ、静岡県版レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類シロチドリ、イカルチドリなど、砂礫地で営巣する鳥類が確認されている。



カワセミ

平地から低山の河川、湖沼に生息し、都市公園にも見られる。小魚を食べ、その美しさから広く親しまれている。

（下土居知子氏 撮影）



ミサゴ

湖沼・大河川・海岸など生息し魚食性。
（下土居知子氏 撮影）



コノハズク

深い森の中で繁殖する。フクロウの仲間。



コアジサシ

広大な川原の砂礫地を好んで生息している。

（下土居知子氏 撮影）

安倍川流域の昆虫類は、上流部の山岳地帯では無脊椎動物レッドリスト（環境庁）準絶滅危惧種に該当するクモマツマキチョウが確認されているほか、中流部ではオオムラサキ、静岡県版レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類ハネビロエゾトンボなどが確認されている。まとまった河畔林が少ない下流部では、河川敷の昆虫類は、全体的に草地性の普通種が多い。中・下流部の河川環境と関わりの深い特徴的な種として、草地性のシブイロカヤキリモドキ・クロモンヒラナガゴミムシ、カワラケツメイを食餌植物とする無脊椎動物レッドリスト（環境庁）絶滅危惧Ⅱ類のツマグロキチョウ、ヤナギを食餌植物とする静岡県版レッドリスト分布上重要種コムラサキ、樹林性のウシカメムシ・ウスバカミキリ・ネプトクワガタ、川原に生息する静岡県版レッドリスト準絶滅危惧種ヤマトバッタ、同リスト情報不足種ハマスズのほかカワラゴミムシなど、水生の同リスト絶滅危惧

Ⅱ類ハネビロエゾトンボのほかヤブヤンマなどがあげられる。



オオムラサキ
雑木林に生息、食餌植物はエノキ。
(大封裕介氏 撮影)



コムラサキ
食餌植物はコゴメヤナギ。
(大封裕介氏 撮影)



ハネビロエゾトンボ
細流を伴う湿地や、落ち葉等が
堆積した流れの緩い小河川などに
すむ。

中・下流部は河床が不安定であることから、河川敷における植物相と昆虫相は上流から下流に向かうにつれ種類数が少なくなる傾向が見られるが、鳥類や魚類は河口域における確認種類数が多く、流域全体を見ると多様な生物種が確認されている。

2-2 河川及びその周辺の自然環境

①上流部の自然環境

安倍川上流部は、植林されたスギ等の針葉樹林とシデ等の落葉広葉樹林で構成され、濁川からコンヤ沢の源流部にはブナ・ミズナラの原生林が残存するほか、^{みこうち}三河内川の源流部はオオイタヤメイゲツをはじめとするカエデ類の純林の分布地となっている。さらに安倍の大滝や^{さんだん}三段の滝、^{あかみず}赤水の滝などの点在する滝が変化に富む渓谷美を形成している。河川にはイワナ・アマゴ・タカハヤ・カジカ等の溪流魚が生息し、溪流周辺には中・高山帯に分布しているヒダサンショウウオ・ハコネサンショウウオ・ナガレタゴガエルなどが確認されている。



安倍の大滝

安倍川の支流、逆川の安倍の大滝。日本の滝百選に選ばれている



オオイタヤメイゲツ林

三河内川の源流部にはオオイタヤメイゲツなどのカエデ類の純林がある。



赤水の滝

②中流部の自然環境

安倍川中流部は、スギ、ヒノキ等の人工林が多く、山間部を流下する流路は蛇行し、点在する淵と長く続く早瀬や平瀬が特徴的で、流入する支流には^{くろべ}黒部沢の^{てんじん}天神滝、^{やま}八重沢の大滝等の景勝地がある。

河川敷には裸地の川原が広がっているが、流路が不安定なため河川敷全般に植生の分布は少なく、オオヨモギ・フジアザミ・カワラハハコなど川原特有の植物が生育し、比較的安定したところはヤナギ林・ヤシャブシ林等の河畔林も見られる。

河畔のヤナギ林はヤナギ類を食樹とするコムラサキの生息場所であり、カワラケツメイの生育している川原はツマグロキチ



河川敷のヤナギ林

河川敷の比較的安定した場所にはヤナギの疎林が見られる（15km 付近）。



ツマグロキチョウ

食餌植物はカワラケツメイ。
(大封裕介氏 撮影)

ョウの生息環境となっている。魚類では、アユ、オイカワなどが生息している。

また川原の広い裸地はイカルチドリのほかコチドリ・イソシギなど砂礫地を好む鳥類の生息場所となっている。

③下流部の自然環境

下流部は扇状地を形成し、広い低水敷の中を流路は網状に流れる。洪水時には河床や流路が大きく変動するため、河道内の樹木は少なく、比高の大きい場所ではコゴメヤナギ群落なども見られるがその面積は小さい。渇水時には流水が伏没する区間も見られ、河床や流路が不安定であることから、生物相は豊かでないが、特有の自然環境が形成されている。

河口から 1.25 km 付近の右岸には湧水を水源とするクリークがみられ、ここでは地元ボランティアによる環境づくりがなされ、地域の人々には、緑が多く水の流れに淀みのない魅力的な場所、自然体験学習ができる場所となっている。河口から 5.5 km に^{わらしな}藁科川が合流し、合流点付近には河道中央に浮かぶように見える舟山がある。舟山ではアラカシなどの常緑広葉樹の自然林と林床にシダ類が生育し、砂礫河川で流路が安定せず裸地が多い安倍川においては特異な植物相を形成している。

河口部は発達した砂州により広い汽水の静水域が形成され、水際の浅瀬はサギ類のエサ場として重要な機能を果たしているほか、カモメ類・カモ類・カワウ・チドリ類などの集団越冬地としても利用されている。また、回遊性の魚類であるシロウオや、カマキリなどが確認され、産卵場所となっている可能性が高い。

川原の広い裸地は、コアジサシ・シロチドリ・イカルチドリなど砂礫地に営巣する鳥類の生息場所となっている。



安倍川河口部

河口は発達した砂洲でふさがれ、広い静水域が見られる。



安倍川 1.25k 付近右岸のクリーク
湧水を水源とするクリーク。



舟山

河道中央に浮かぶように見える舟山。アラカシなどの常緑広葉樹林と林床はシダ類が生育する。

また、河口部の植物では、河川の水際に生育するカワヂシャのほか、抽水植物のミクリ、干潟に生育する塩性植物でレッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類のシバナ、流れの緩やかな水域に生育する沈水植物のホザキノフサモなどが確認されており、生育立地の多様さを物語っている。

④^{わらしな}藁科川の自然環境

藁科川は水田地帯に人家が点在する山間地を蛇行しながら流下し、安倍川 5.5 km 右岸に合流している。

河道は砂礫州によって瀬と淵が形成されており、流路沿いにはツルヨシ群落やクズ・ススキ等の草本群落、コゴメヤナギ群落などが認められている。藁科川の 1.5 km 付近には舟山同様に岩盤上に成立している^{こがらし}木枯の森があり、アラカシなどの常緑広葉樹の自然林が残っている。

^{こがらし}木枯の森は平安時代から駿河国の歌枕として名高く、「森はうへきの森。岩田の森。^{こがらし}木枯の森」等と詠まれ、静岡県の名勝に指定されてきた。

木枯の森の上流側にある水たまりはカモの集団分布地となっており、カワラケツメイを食草とするツマグロキチョウのほか、無脊椎動物レッドリスト（環境庁）絶滅危惧Ⅱ類ミヤマシジミ、コムラサキなど、昆虫類の良好な生息場所となっている。また川原の広い裸地はチドリ類等、砂礫地を好む鳥類の生息場所となっている。



木枯の森
河川に形成された小島で常緑広葉種の貴重な自然林が残る。

⑤ 安倍川における重要な種

既往の河川水辺の国勢調査により確認された種、または文献による記載が確認されている重要な種は、以下に示す特定種一覧表のとおりである。特定種は、植物8種、両生類7種、爬虫類1種、哺乳類5種、鳥類19種、魚類12種、底生動物2種、陸上昆虫類15種である。

●安倍川で確認された植物の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
カワラノギク	危惧 IB/ (静岡レッドリスト) 危惧 IB	×	×	×	△	聞き取り調査
ミゾコウジュ	準危惧/ (静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×	×	×	聞き取り調査 (場所不明)
シバナ	危惧Ⅱ/ (静岡レッドリスト) 危惧 IB	×	×	○	×	
カワラニガナ	危惧Ⅱ/ (静岡レッドリスト) 準絶滅	○	○	○	×	
ウスゲチョウジタデ	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×	○	×	
キンラン	危惧Ⅱ/ (静岡レッドリスト) 準絶滅	×	○	×	×	
ミクリ	準危惧/ (静岡レッドリスト) 準絶滅	×	×	○	×	
カワヂシャ	準危惧	×	○	○	○	

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧ⅠA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック8植物Ⅰ」(環境庁、2000)における絶滅危惧ⅠA類

危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト(静岡県、2003.4)における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

(静岡レッドリスト) 危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

(静岡レッドリスト) 危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1(直)：平成11年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、2002)

水国2(直・砂)：平成5年度安倍川・大井川生物調査業務委託(静岡河川工事事務所、1994)

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

●安倍川で確認された両生類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ヒダサンショウウオ	(静岡レッドリスト) 危惧Ⅱ類	○	○	×	×	
ハコネサンショウウオ	(静岡レッドリスト) 危惧Ⅱ類	○	×	×	×	
カジカガエル	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	○	○	○	
モリアオガエル	(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	○	×	×	
アズマヒキガエル	(静岡レッドリスト) 部会注目	○	○	×	×	
ナガレタゴガエル	(静岡レッドリスト) 情報不足	○	○	×	×	
トノサマガエル	(静岡レッドリスト) 部会注目	×	○	○	○	

国定：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧ⅠA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック3 爬虫類両生類」（環境庁、2000）における絶滅危惧ⅠA類

危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

(静岡レッドリスト) 危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

(静岡レッドリスト) 危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

水国1（直・砂）：平成9年度安倍川（安倍川・藁科川）小動物調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1993）

水国3（直・砂）：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1992）

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

●安倍川で確認された爬虫類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ニホントカゲ	(静岡レッドリスト) 分布上	○	○	○	○	

国定：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧ⅠA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック3 爬虫類両生類」（環境庁、2000）における絶滅危惧ⅠA類

危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

(静岡レッドリスト) 絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

(静岡レッドリスト) 危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

(静岡レッドリスト) 危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

(静岡レッドリスト) 準絶滅：同上 準絶滅危惧

(静岡レッドリスト) 不足：同上 情報不足

(静岡レッドリスト) 部会注目：同上 部会注目種

(静岡レッドリスト) 分布上：同上 分布上注目種

文献1：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1992）

文献2：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1993）

文献3：平成9年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1998）

水国1（直・砂）：平成9年度安倍川（安倍川・藁科川）小動物調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1993）

水国3（直・砂）：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1992）

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

●安倍川で確認された哺乳類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ヤマネ	準危惧/（静岡レッドリスト）情報不足	△	×	×	×	
カヤネズミ	（静岡レッドリスト）準絶滅	×	○	×	○	
ホンドモモンガ	（静岡レッドリスト）情報不足	△	△	×	×	
キクガシラコウモリ	（静岡レッドリスト）準絶滅	○	×	×	×	
ニホンリス	（静岡レッドリスト）部会注目	○	○	×	×	

国定：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧ⅠA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック1 哺乳類」（環境庁、2002）における絶滅危惧ⅠA類

危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

（静岡レッドリスト）絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

（静岡レッドリスト）危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

（静岡レッドリスト）危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

（静岡レッドリスト）準絶滅：同上 準絶滅危惧

（静岡レッドリスト）不足：同上 情報不足

（静岡レッドリスト）部会注目：同上 部会注目種

（静岡レッドリスト）分布上：同上 分布上注目種

水国1（直・砂）：平成9年度安倍川（安倍川・藁科川）小動物調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1993）

水国3（直・砂）：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1992）

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

●安倍川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	薬科川	備考
オオワシ	国天/保存/危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）分布上	×	×	△	×	
ミサゴ	準危惧/（静岡レッドリスト）部会注目種	×	×	○	×	
クマタカ	保存/危惧ⅠB/（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	△	×	×	×	
イヌワシ	危惧ⅠB/（静岡レッドリスト）危惧ⅠA類	△	×	×	×	
コノハズク	（静岡レッドリスト）危惧危惧ⅠB	×	△	×	×	
ブッポウソウ	（静岡レッドリスト）危惧危惧ⅠA	×	△	×	×	
オオタカ	保存/危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	×	×	△	×	
ハヤブサ	保存/危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	×	△	△	×	
チュウサギ	準危惧	×	△	○	×	
ハイタカ	準危惧/（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	×	×	△	○	
コアジサシ	危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）危惧ⅠB	△	△	△	○	
コジュリン	危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	×	×	△	×	
ヤマセミ	（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	△	○	×	○	
イカルチドリ	（静岡レッドリスト）準絶滅	×	○	○	○	
シロチドリ	（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	×	×	○	○	
タゲリ	（静岡レッドリスト）準絶滅	×	×	×	△	
ヤマドリ	（静岡レッドリスト）準絶滅	×	×	×	△	
タカブシギ	（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ	×	×	×	△	
ヨシゴイ	（静岡レッドリスト）危惧ⅠB	×	×	○	△	

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧ⅠA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック2 鳥類」（環境庁、2002）における絶滅危惧ⅠA類

危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

（静岡レッドリスト）絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

（静岡レッドリスト）危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

（静岡レッドリスト）危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

（静岡レッドリスト）準絶滅：同上 準絶滅危惧

（静岡レッドリスト）不足：同上 情報不足

（静岡レッドリスト）部会注目：同上 部会注目種

（静岡レッドリスト）分布上：同上 分布上注目種

水国1（直）：平成10年度安倍川（安倍川）鳥類調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直）：平成6年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1995）

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

●安倍川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
スナヤツメ	危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）危惧ⅡB	×	×	×	×	場所不明
メダカ	危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ類	△	△	△	×	
シロウオ	準危惧/（静岡レッドリスト）危惧ⅠA	×	×	○	×	
イドミミズハゼ	不足/（静岡レッドリスト）危惧ⅠA	△	△	△	△	
カマキリ（アユカケ）	（静岡レッドリスト）準絶滅	△	○	○	○	
カジカ	（静岡レッドリスト）準絶滅	×	○	×	×	
シマドジョウ	（静岡レッドリスト）部会注目	○	○	○	○	
タカハヤ	（静岡レッドリスト）部会注目	○	○	×	○	
タモロコ	（静岡レッドリスト）部会注目	×	×	○	△	
カワアナゴ	（静岡レッドリスト）部会注目	×	×	○	×	
カワヨシノボリ	（静岡レッドリスト）部会注目	×	○	○	○	
アマゴ	（静岡レッドリスト）部会注目	○	○	×	△	

国定：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧ⅠA：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック4 汽水・淡水魚類」（環境庁、2003）における絶滅危惧ⅠA類

危惧ⅡB：同上 絶滅危惧ⅡB類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

（静岡レッドリスト）絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

（静岡レッドリスト）危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

（静岡レッドリスト）危惧ⅡB：同上 絶滅危惧ⅡB類

（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

（静岡レッドリスト）準絶滅：同上 準絶滅危惧

（静岡レッドリスト）不足：同上 情報不足

（静岡レッドリスト）部会注目：同上 部会注目種

（静岡レッドリスト）分布上：同上 分布上注目種

水国1（直）：平成12年度安倍川水系（安倍川・藁科川）魚介類調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成7年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1996）

水国3（砂）：平成4年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1993）

水国4（砂）：平成3年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1992）

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

●安倍川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
モノアラガイ	準危惧/(静岡レッドリスト) 準絶滅	×	○	×	○	
ニホンアミカモドキ	危惧Ⅱ	×	△	×	×	

国定：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧Ⅰ：「無脊椎動物レッドリスト」（環境庁、2000）における絶滅危惧Ⅰ類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

（静岡レッドリスト） 絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

（静岡レッドリスト） 危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

（静岡レッドリスト） 危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

（静岡レッドリスト） 危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

（静岡レッドリスト） 準絶滅：同上 準絶滅危惧

（静岡レッドリスト） 不足：同上 情報不足

（静岡レッドリスト） 部会注目：同上 部会注目種

（静岡レッドリスト） 分布上：同上 分布上注目種

水国Ⅰ（直）：平成12年度安倍川（安倍川・藁科川）底生動物調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国Ⅱ（直・砂）：平成9年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1998）

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

●安倍川で確認された陸上昆虫の特定種一覧表

種名	指定区分	上流部	中流部	下流部	藁科川	備考
ツマグロキチョウ	危惧Ⅱ	○	○	△	○	
ミヤマシジミ	危惧Ⅱ/（静岡レッドリスト）準絶滅	×	△	△	△	
オオムラサキ	準危惧/（静岡レッドリスト）部会注目種	△	○	×	×	
ヘイケボタル	（静岡レッドリスト）準絶滅	×	○	×	○	
ハネビロエゾトンボ	（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ	×	○	×	×	
クモマツマキチョウ	準危惧/（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ	△	×	×	×	
チャマダラセセリ	危惧Ⅰ/（静岡レッドリスト）危惧ⅠB	×	△	×	×	
オオチャイロハナムグリ	準危惧/（静岡レッドリスト）情報不足	△	×	×	×	
ギンイチモンジセセリ	準危惧/（静岡レッドリスト）分布上	△	×	×	×	
ベニヒカゲ	準危惧/（静岡レッドリスト）分布上	△	×	×	×	
フジミドリシジミ	（静岡レッドリスト）部会注目種	△	△	×	×	
ヤマトバッタ	（静岡レッドリスト）準絶滅	×	○	×	×	
ヒゲコガネ	（静岡レッドリスト）情報不足	×	×	○	○	
コムラサキ	（静岡レッドリスト）分布上	○	○	○	○	
ハマスズ	（静岡レッドリスト）情報不足	×	○	×	×	

国天：国指定天然記念物

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種

危惧Ⅰ：「無脊椎動物レッドリスト」（環境庁、2000）における絶滅危惧Ⅰ類

危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

準危惧：同上 準絶滅危惧

不足：同上 情報不足種

（静岡レッドリスト）絶滅：静岡県版レッドリスト（静岡県、2003.4）における絶滅種

（静岡レッドリスト）危惧ⅠA：同上 絶滅危惧ⅠA類

（静岡レッドリスト）危惧ⅠB：同上 絶滅危惧ⅠB類

（静岡レッドリスト）危惧Ⅱ：同上 絶滅危惧Ⅱ類

（静岡レッドリスト）準絶滅：同上 準絶滅危惧

（静岡レッドリスト）情報不足：同上 情報不足

（静岡レッドリスト）部会注目：同上 部会注目種

（静岡レッドリスト）分布上：同上 分布上注目種

水国1（直）：平成13年度安倍川水系（安倍川・藁科川）陸上昆虫等調査報告書（静岡河川工事事務所）

水国2（直・砂）：平成8年度安倍川・大井川生物調査業務委託（静岡河川工事事務所、1997）

*)○：河川水辺の国勢調査確認種

△：「文献調査」、「聞き取り調査」

×：確認なし

区間別環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地・繁殖地など

区間	環境要素	種群	代表的種	集団分布地・繁殖地など
上流 大河内砂防ダム(34km)より上流	溪流	魚類	イワナ・アマゴ*・ニジマス・タカハヤ*・メダカ*・カマキリ* シマドジョウ*・イドミミズハゼ*	冷水性魚類生息域
	瀬と淵	植物	オオヨモギ・フジアザミ・カワラハハコ・ヤナギ・ヤシャブシ林 カワラニガナ*	
	清流	鳥類	イヌワシ・クマタカ*・オシドリ・ヤマセミ*・キセキレイ・イワツバメ コアジサシ*	イワツバメの集団繁殖地
	大谷崩	両生・爬虫類	ヒダサンショウウオ*・ハコネサンショウウオ*・タゴガエル ナガレタゴガエル*・アズマヒキガエル*・ニホントカゲ*	
		哺乳類	ホンドモモンガ*・ヤマネ*・ニホンカモシカ・コウベモグラ・ノウサギ アカネズミ・タヌキ・イタチ・キクガシラコウモリ*・ニホンリス*	
		昆虫	ウスバシロチョウ・ツマジロウラジャノメ・ツマグロキチョウ* クモツマキチョウ*・ウラクロシジミ・ヒメオオクワガタ・ オオムラサキ*・コムラサキ*・アカタテハ・ハグロトンボ	
安倍川中流・支川 13.5～34.0 km	広い川原	魚類	アマゴ*・アユ・タカハヤ*・カジカ*・ズナガニゴイ・オイカワ・ウグイ アブラハヤ・カマキリ*・シマヨシノボリ・オオヨシノボリ・メダカ* カワヨシノボリ*・シマドジョウ*・イドミミズハゼ*・モノアラガイ*	アユ産卵場所
	平瀬・早瀬	植物	ケヤキ・ハンノキ林・ヤナギ林・ツルヨシ草地・単子葉草本群落 ・ヤシャブシ・カワヂシャ*・カワラニガナ*・キンラン*	
	ヤナギ林	鳥類	ヤマセミ*・カワセミ・フッポウソウ*・コノハズク*・ハヤブサ* イカルチドリ*・コチドリ・イソシギ・サギ類・スズメ・カワラヒワ ツバメ・ハシボソガラス・チュウサギ*・コアジサシ*	スズメ・ツバメのねぐら
	伏流水	両生・爬虫類	ヒダサンショウウオ*・モリアオガエル*・カジカガエル*・トノサマガエル* タゴガエル・ツチガエル・ヌマガエル・アマガエル・ナガレタゴガエル* アズマヒキガエル*・カナヘビ・ヒバカリ・ヤマカガシ・ニホントカゲ*	
	支流(中河内川・河内川)	哺乳類	ニホンカモシカ・ホンドモモンガ*・コウベモグラ・ノウサギ アカネズミ・カヤネズミ*・タヌキ・ニホンリス*	
		昆虫	ニホンアミカモドキ*・ツマジロウラジャノメ・チツゼミ・ムカシトンボ ヘイケボタル*・ハネビロエゾトンボ*・シブイロカヤキリモドキ クロモンヒラナガゴミムシ・ウシカメムシ・ウスバカミキリ ネプトクワガタ・コムラサキ*・ハマスズ*・カワラゴミムシ・ヤブヤンマ クロコノマチョウ・ツマグロキチョウ*・ミヤマシジミ*・オオムラサキ* ヤマトバツタ*	
下流 0～13.5 km	汽水・砂州・扇状地	魚類	ウグイ・スミウキゴリ・ヌマチチブ・カマキリ*・シロウオ* イドミミズハゼ*・アユ・ウグイ・ウナギ・オイカワ・ヌマチチブ カワヨシノボリ*・カワアナゴ*・タモロコ*・シマドジョウ*・メダカ*	シロウオ・カマキリ産卵場所
	草原	植物	コゴメヤナギ林・カワラヨモギ・オオアレチノギク・シオクグ ハマヒエガエリ・シバナ*・ホザキノフサモ・ミクリ*・カワヂシャ* カワラニガナ*・ウスゲチョウジタデ*	
	ヨシ群落	鳥類	ウミネコ・ユリカモメ・コアジサシ*・カワウ・カモ類・アオサギ・ ミサゴ*・シロチドリ*・イカルチドリ*・ヨシゴイ*・オオワシ* オオタカ*・ハヤブサ*・チュウサギ*・ハイタカ*・コジュリン*	カモメ類・カモ類の集団越冬地
	ヤナギ林	両生・爬虫類	トノサマガエル*・ツチガエル・ヌマガエル・アマガエル カナヘビ・ニホントカゲ*・アオダイショウ・カジカガエル*	
	湧水	哺乳類	ハクビシン・タヌキ・イタチ・コウベモグラ・ネズミ類	
		昆虫	コムラサキ*・ミヤマシジミ*・ツマグロキチョウ*・ヒゲコガネ*	
藁科川	平瀬	魚類	オイカワ・ウグイ・アブラハヤ・アユ・カマキリ*・モノアラガイ* ズナガニゴイ・カワヨシノボリ*・イドミミズハゼ*・シマドジョウ* タカハヤ*・タモロコ*・アマゴ*	
	川原	植物	コゴメヤナギ林・ツルヨシ群落・カワヂシャ*・カワラノギク*	
		鳥類	ヤマセミ*・カワセミ・カワウ・セグロセキレイ・タカブシギ*・ヨシゴイ* ハイタカ*・コアジサシ*・イカルチドリ*・シロチドリ*・タゲリ* ヤマドリ*	カモ類集団越冬地
		両生・爬虫類	ツチガエル・ヌマガエル・トノサマガエル*・アマガエル・ カナヘビ・ニホントカゲ*・カジカガエル*	
		哺乳類	タヌキ・イタチ・コウベモグラ・カヤネズミ*・ネズミ類	
		昆虫	ツマグロキチョウ*・ミヤマシジミ*・コムラサキ*・ヒゲコガネ* ヘイケボタル*	

*特定種

⑥安倍川を特徴づける場所

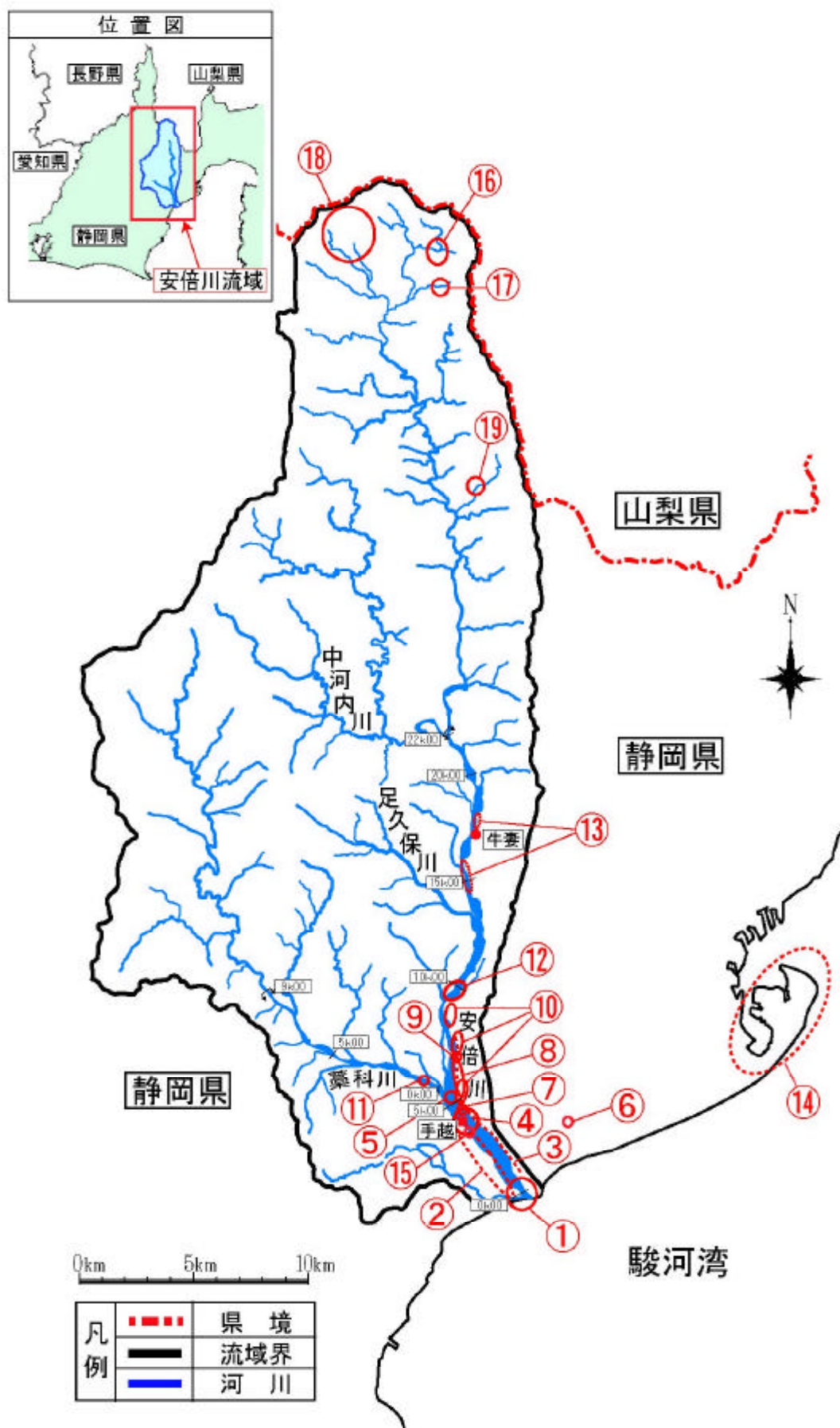
安倍川を特徴づける場所（安倍川らしさを代表する場所）として、有識者ヒアリング（平成 13 年 2 月～3月調査）及び学識経験者等で構成される「安倍川流域懇談会」（平成 13 年 3 月～7 月開催）において、以下の 19 箇所が抽出されている。

安倍川を特徴づける場所一覧表

No	安倍川らしさを代表する場所	位 置	内 容
①	河口地区	河口（-0.3k～0.5k）	富士山や南アルプス、伊豆半島を背景に、広い砂礫堆の間を流れる安倍川と海岸を見ることができる場所である。また、河口部の野鳥や水辺の植物を観察できる。
②	右岸から富士山を背景に見る安倍川	安倍川右岸（0.2k～4.2k 付近）南安倍川橋、静岡大橋、駿河大橋、安倍川橋	右岸から見る安倍川は、富士山や南アルプス、賤機山、市街地が一体となった景観を感じさせる。
③	緊急用河川敷道路	安倍川（0.7k～7.5k 付近）左岸高水敷上	震災時には、緊急用道路として人員や救援物資を円滑に運搬し、平時にはジョギングや散歩、サイクリング等で川に親しみのもてる空間となっている。
④	広大な河川敷を利用した花火大会	安倍川左岸 5k 付近	広い河川敷を利用して行われる安倍川花火大会は、多くの市民に親しまれており、その歴史も 50 年と長い。
⑤	ふなやま 舟山	安倍川と藁科川の合流点（安倍川 5.3k 付近）	安倍川の特徴的な河川景観として地域住民に親しまれている。また、古くからの悲しい伝説と、昔ながらの河川工法である川倉（牛粋）が残っており、歴史的雰囲気なたたえている。
⑥	弥生時代後期の稲作文化を伝える登呂遺跡	静岡市登呂	登呂遺跡は、安倍川の氾濫で自然にできた堤防の上に発達した集落が洪水で埋没したものであり、豊かな伏流水がもたらした稲作文化を示すものと言える。
⑦	親水公園	安倍川橋上流左岸（5.0k 付近）	高水敷を利用した親水公園は、水遊びや憩いの場として地域住民に親しまれている。
⑧	安倍川と藁科川の合流点付近の薩摩土手	安倍川左岸（3.5k～7.0k 付近）	徳川家康が駿府に隠居する際に築堤したもので、この付近は駿府の町づくりを象徴する地域である。
⑨	やなぎはし 柳橋スポーツ広場	安西橋上流左岸（6.2k 付近）	市民の憩いの場として活用されている広場。河川敷のスポーツ公園、水遊びなど様々な目的で楽しむことができる。
⑩	かすみでい 霞堤	安倍川左岸 7～10k 付近、左岸 13～14k 付近、藁科川右岸 1k、4k 右岸付近など	霞堤は、急流河川「安倍川」の水害、治水の歴史を物語る場所である。先人の知恵を知ることができる安倍川の歴史的な財産である。

安倍川を特徴づける場所一覧表

No	安倍川らしさを 代表する場所	位 置	内 容
⑪	^{こがらし} 木枯の森	^{まきがやばし} 牧ヶ谷橋上流（藁科川 1.5k 付近）	水面と緑のコントラストは美しく、古くは紅葉、しぐれ、雪の名所として古歌に詠まれた場所でもある。歴史的なロマンがあふれ、地域住民にも親しまれている。
⑫	狩野橋上流の砂礫が堆積する河原	狩野橋上流（安倍川 9.5k 付近）	狩野橋上流の砂礫堆積地は河原砂漠的なイメージがあり、水と砂利による「川ずれ」（流路変動）の作用や、急な傾斜を流れ下る安倍川を実感させる。
⑬	伏流水の取水口とヤナギ林	安倍川左岸 15k 付近	安倍川の伏流水を静岡市の上水として取水している。この付近のまとまったヤナギ林は、安倍川の自然を代表する場所である。
⑭	^{みほ} 三保半島	三保半島	三保の松原は万葉の昔から数多くの歌に詠まれ、愛され続けている白砂青松の景勝地となっている。
⑮	清流のアユ釣り	安倍川右岸 4k 付近	市内の身近な場所でアユ釣りが楽しめる。大河内砂防えん堤より下流は横断構造物がないため天然アユが遡上する。
⑯	上流の溪流や滝の景観	安倍の大滝、三段の滝、赤水の滝、黒部沢、逆川、三河内川、中河内川	水源地の滝と溪流の景観は、水質の良好な安倍川のイメージに相応しい。
⑰	^{うめがしま} 梅ヶ島等の金山	静岡市梅ヶ島	梅ヶ島では昔から砂金の採取が行われていた。本格的に金鉱石の採取が始まったのは、今川氏の時代からである。
⑱	^{おおやくずれ} 大谷崩	安倍川 51k 付近	日本三大崩れの一つである大谷崩は、ダイナミックで荒々しい安倍川の象徴的な景観である。
⑲	わさび栽培発祥の地（有東木）	静岡市 ^{うとうぎ} 有東木	今から約 400 年前、有東木で自生していた「わさび」を水を引いて栽培したのが始まりといわれている。



安倍川らしさを代表する場所



①河口地区
(出典:「静岡・清水海岸保全事業概要
パンフ」静岡県静岡土木事務所)



②右岸から富士山を背景に見る安倍川



③緊急用河川敷道路



④広大な河川空間を利用した花火大会



⑤舟山



⑥安倍川の稲作文化を伝える登呂遺跡



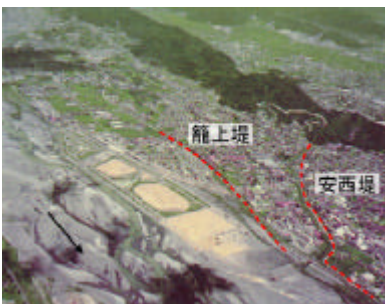
⑦親水公園



⑧安倍川と藁科川の合流点付近の
薩摩上手



⑨柳橋スポーツ広場



⑩霞堤



⑪木枯の森



⑫狩野橋上流の砂礫堆積の河原



⑬伏流水の取水口とヤナギ林



⑭三保半島
(出典:「静岡・清水海岸保全事業概要
パンフ」静岡県静岡土木事務所)



⑮清流のアユ釣り



⑯上流の溪流や滝の景観
(安倍の大滝)



⑰梅ヶ島等の金山
(出典:静岡市市勢要覧)



⑱大谷崩



⑲わさび栽培産地の地(有東木)

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

(1) 特徴的な河川景観

安倍川最上流部は、^{おくおおい}奥大井県立自然公園に指定されており、緑豊かなすぐれた自然環境が数多く残されている。安倍川上流部には^{おおやくずれ}大谷崩をはじめとして、山間溪流及び埋積谷とともに、多くの滝や河岸段丘崖など変化に富んだ河川景観が見られる。中流部には蛇行する流れが形成する早瀬や淵がみられ、広い川原が形成されており、中流部の特徴的な河川景観を呈している。また、静岡市の市街地を貫流する下流部には扇状地が形成され、河道には砂州の発達した網状流路がみられるなど、下流部特有の河川景観をみせている。

安倍川流域の代表的な河川景観としては、上流部では^{おおやくずれ}大谷崩、安倍の大滝が、中下流部では^{ふなやま}舟山・^{こがらし}木枯の森等があげられる。

^{おおやくずれ}大谷崩は日本三大崩れの一つに数えられる崩壊地であり、安倍川を特徴付けている。

安倍の大滝は、日本の滝百選（*1）に選定されるとともに、観光名所として賑わいをみせている。

安倍川と藁科川の合流点付近には、河道内の小島となっている舟山があり、安倍川の特徴的な河川景観として地域住民に親しまれている。

また、^{わらしな}藁科川の最下流部には、河道内に^{こがらし}木枯の森があり、平安時代から^{するが}駿河国の歌枕として名高く、静岡県の名勝に指定されてきた。

①^{おおやくずれ}大谷崩

日本三大崩れの一つに数えられる崩壊地の景観が安倍川を特徴付けている。



（*1）日本の滝百選：平成2年に、環境庁と林野庁の協力を得て、緑の文明学会、グリーンルネッサンス、緑の地球防衛基金の3つの団体の主催による日本の滝選考会が選定した滝。

②^{あべ おおたき}安倍の大滝

安倍川上流部の支川である^{さかさがわ}逆川の豊かな水が落差約90m、垂直に切り立った岩の上から力強く流れ落ちる。(出典：安倍川溪流環境整備計画パンフレット)



③^{ふなやま}舟山

安倍川と藁科川の合流点付近の河道中央部に形成されており、特徴的な河川景観として地域住民に親しまれている。



④^{こがらし もり}木枯の森

藁科川の中州に形成されている小さな森で、平安時代から駿河国の歌枕として名高い場所である。





2-4 河川にまつわる歴史・文化

古来より安倍川は、平時には人々に豊かな恵みの水を与えくれる母なる川であった。しかし、その急峻な地形と崩れやすい地質に加え、流域の降水量が多いこともあり、いったん洪水となるとその流れは狂暴な濁流と化し、多くの災害をひきおこしてきた。それらの幾多の洪水により運ばれた土砂により、下流部の肥沃な静岡平野が形成された。そこでは登呂の稲作文化が発展するとともに、その後も東西文化の要所として歴史的な発展をとげ、流域の人々のくらしと川との色濃い関わり合いの中から、この地の歴史と文化が生み出されてきた。

安倍川流域に人が住み始めたのは、遺跡等の調査によりおよそ1万年以前の先土器時代といわれている。縄文時代には平野部から山間部に至る広い範囲に人々の生活の場が広がった。弥生時代に入ると、稲作技術の伝来により生活の中心が下流部の沖積平野に移っていった。特に、弥生時代後期の集落様式と当時の農耕文化を知る上で貴重な遺跡として有名な登呂遺跡からは、水田跡、井戸跡、用水路跡、丸木船など“人と川”との深い関わりがみてとれるさまざまな遺物が出土している。

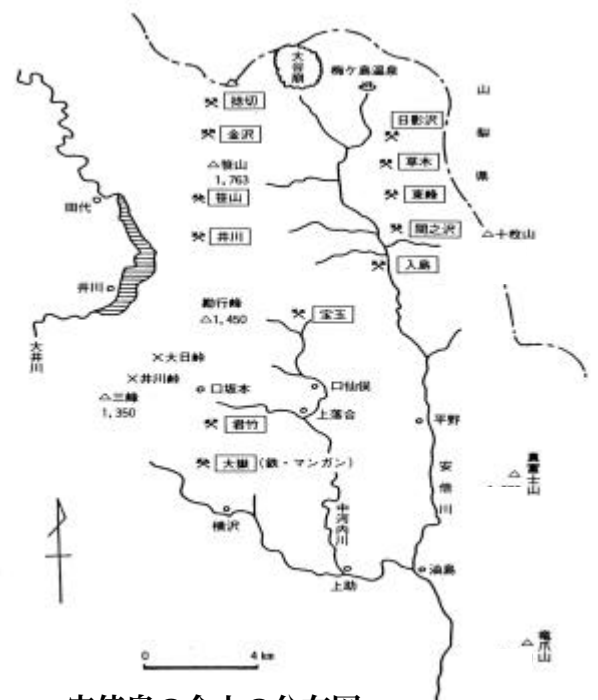
安倍川の河川名となっている“安倍”の語源については、この地に居住した阿部氏に由来する説が最も有力と考えられている。^{するがのくにしんふうとき}「駿河国新風土記」に「安倍という語意は”饗（あえ）”の遺名として考えられ、政治的行事である饗宴^{きやうえん}を担当していたために安倍という姓になった」と述べられている。

その後、奈良時代には国府が置かれ、「万葉集」にも見られるように「市」が形成され、この地方の文化の中心的位置をしめるようになった。また、東西交流の動脈として東海道が発展し、安倍川下流部には左岸に駿河府中^{するがふちゅう}が、右岸には手越の宿^{てごし}、丸子の宿^{まりこ}といった宿場が形成されていった。



安倍川流域の現状

0km 5km 10km



安倍奥の金山の分布図

(出典：「静岡の地学」)

このように兩岸に宿場が形成されたのは安倍川の流れが常に変化し容易に渡ることができず川留めされたことを示している。

その後、^{いまがわ}今川氏の時代には、今川館を中心とした城下町が発展し、交通路の整備、安倍奥の梅ヶ島^{うめがしま}金山をはじめとする金山の開発などが行なわれた。

そして、^{とくがわいやす}徳川家康の領国時代に入ると、大規模な駿府^{すんぶ}のまちづくりが行われた。駿府城の築城とともに、城下町の整備・拡張や駿府用水^{すんぶようすい}の建設、また流域内において次々と新田開発が行われ、新田を守るために川側に堤防（霞堤）の築堤が盛んになった。

この新田開発は、また人々と洪水とのたたかいでもあった。安倍川における新田開発の特徴は、新田を洪水から守るため堤防（霞堤）を新田の川側に修築したことである。安倍川流域で新田開発が始まったのは 1500 年代末頃といわれている。

この後も明治期の^{わらしな}藁科川の治水碑や中流部左岸の^{もろおか}諸岡山にある横堤の改築に伴う有功堤碑^{ゆうこうていひ}、さらに大正期の大水害後の堤防改修に尽力した知事の名を残す「湯浅堤」^{ゆあさてい}にちなむ安倍川修堤碑など、流域のあちこちに多くの治水碑が残されており、人々と水とのきびしいたたかいの歴史を物語っている。

一方、安倍川は人々に洪水の災厄をもたらすだけでなく、田畑を潤し、飲水を与え、生物を育むという豊かな恵みを与えてくれている。安倍川での水利用の代表的なものとしては、慶長 12 年（1607 年）徳川家康が駿府城の修築を行った際、それに並行して安倍川の水を取水して利用した「駿府用水」である。この用水は飲料水ではなく、駿府城下から出る中水（雨水）の処理機能を有し、町の浄化のみならず火災時には防火用水としても役だっていたものである。

その後も新田などのかんがい用水として利用され、明治期には宝暦年間以来の組合が安倍川および鯨ヶ池^{くじらがいけ}の水利用のため、豊田村^{とよだむら}外三か村かんがい用水組合として設立され、流域の開墾に大きな役割を果たした。



駿府用水図
(出典：「静岡市史」)

古くより多くの旅人達がそれぞれの運命を背負い、哀しみや喜びを胸に安倍川を渡っており、それらの旅情は歌となり日記となり物語りとなって書き残されてきた。代表的なものは、本川下流部の万葉集歌碑や藁科川に残る中勘助^{なかかんすけ}の詩碑や木枯の森に残る花野井有年^{はなのいありとし}の歌碑・本居宣長の碑などがあげられる。

安倍川流域の民俗芸能ごよみ

名 称	施 行 日	所 在 地	備 考
日向の七草祭 (田遊び)	旧 1 月 7 日	日向・福田寺観音堂	旧暦を守り、だいたい 2 月に行われる。同じ演目が二度繰り返される。
梅ヶ島新田の神楽	旧 2 月初午	梅ヶ島新田・稲荷神社	大井川・安倍川流域に広く分布する神楽の「安倍井川型」に属する代表的な神楽である。
湯の森神楽	4 月 1 日 10 月 10 日	湯の森・白髭神社	新田と戸持の両集落が奉納していたが、最近では新田の人たちが主力となっている。
平野の神楽	4 月 3 日 10 月 16 日	平野・白髭神社	
廿日会祭の古式稚 児舞楽 (*2)	4 月 5 日	浅間神社	静岡まつりの最中に行われるため注目する人が少ない。蛇の模型を持って舞う演目はここだけのもの。
口坂本の神楽	7 月 15 日	口坂本・白髭神社	「安倍井川型」の湯立て神楽
有東木の盆踊り	8 月 14 日 8 月 15 日	有東木・東雲寺	
平野の盆踊り	8 月 14 日 8 月 15 日	平野・少林院	
梅ヶ島の盆踊り		梅ヶ島本村	明治 40 年まで行われていたが、同年 8 月藤代の土砂崩れ被害以降絶えてしまった。
中平の盆踊り		中平	大正時代に 2・3 年行ったが、今は絶えている。
渡の盆踊り		渡	昭和 40 年頃まで行われていた。
八幡神社の子供相 撲	8 月 15 日	八幡・八幡神社	相撲は裸の技舞である。この日は境内で軍配の玩具が売られる。
柿島の神楽	10 月 10 日	柿島・白髭神社	4 年に一度、飾り立ての呪術が優れている。「安倍井川型」の代表的なもの。
清沢の神楽(峰山)	10 月 13 日	黒俣(峰山)・子之神社	
清沢の神楽(中塚)	10 月 14 日	黒俣(中塚)・子之神社	現在行われていない。

(*2) 浅間神社の祭りを廿日会祭と称するのは、江戸時代以前には 2 月 20 日が祭日だったからで、明治時代にはいったん衰え、再興した時、旧暦の季節に合わせて 4 月に祭りを移したもので、現在は桜の季節に行われている。(出典：「静岡県の祭ごよみ」静岡県民族学会編)

[安倍川にまつわる歴史・文化]

① 登呂遺跡

登呂遺跡（約 1800 年前）は、かつての安倍川の氾濫によってできた微高地（自然堤防）上に発達したものだといわれている。

昭和 27 年特別史跡に指定されてから考古学者をはじめ、社会科研究の資料として全国から学生や生徒の参観が絶えない。遺跡は、住居跡、倉庫跡、水田跡、森林跡などが明らかにされ、現在、家屋と倉庫を復元し、当時の建築様式を知ることができる。弥生時代後期の農耕文化を知る上で貴重な遺跡として全国的に有名である。



登呂遺跡

安倍川の氾濫によってできた微高地（自然堤防）上に発達し、弥生時代後期の集落が栄えたとされ、弥生時代後期の農耕文化を知る上で貴重な遺跡として有名。

② 安倍金山

安倍川上流では古くから砂金が採取されていた。金山採掘が歴史の表舞台に登場したのは今川氏の領国（1351～1568）になってからである。井川・梅ヶ島・大河内・玉川などの各金山は今川氏の安倍金山と総称され、今川氏の治領時代には梅ヶ島金山が中心で、享禄年間（1528～1532）が元栄の時代といって最盛期であった。その後、今川氏の滅亡にともない武田氏の領有になり、武田氏亡き後は徳川氏の領有となった。

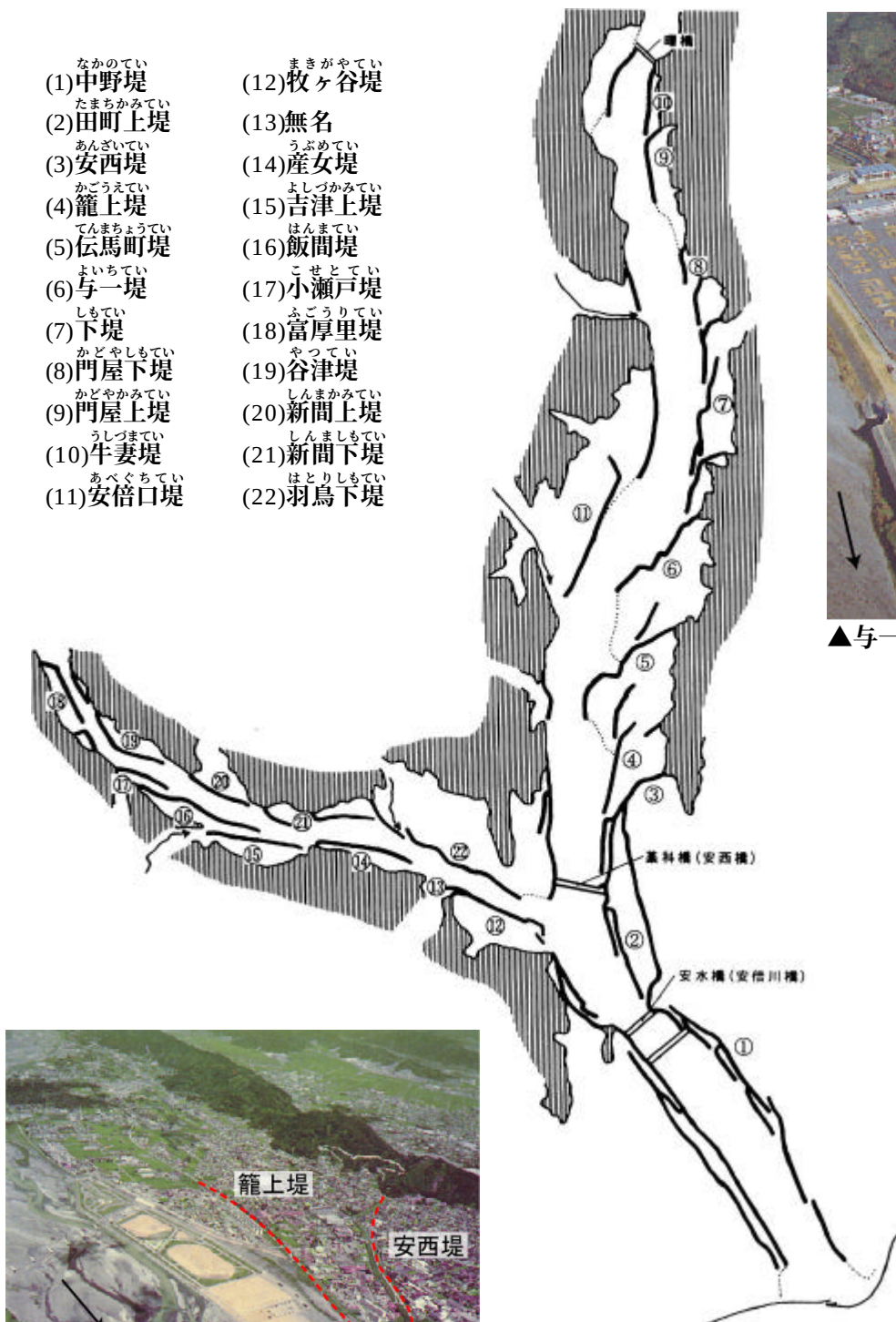


梅ヶ島の金山

今川氏の治領期には梅ヶ島の金山が中心で元栄といって最盛期であった。（出典：静岡市市勢要覧）

③霞堤の分布

- | | |
|----------------------|----------------------|
| (1) 中野堤
なかのてい | (12) 牧ヶ谷堤
まきがやてい |
| (2) 田町上堤
たまちかみてい | (13) 無名 |
| (3) 安西堤
あんざいてい | (14) 産女堤
うぶめてい |
| (4) 籠上堤
かごうえてい | (15) 吉津上堤
よしづかみてい |
| (5) 伝馬町堤
てんまちょうてい | (16) 飯間堤
はんまてい |
| (6) 与一堤
よいちてい | (17) 小瀬戸堤
こせとてい |
| (7) 下堤
しもてい | (18) 富厚里堤
ふこうりてい |
| (8) 門屋下堤
かどやしもてい | (19) 谷津堤
やつてい |
| (9) 門屋上堤
かどやかみてい | (20) 新聞上堤
しんまかみてい |
| (10) 牛妻堤
うしづまてい | (21) 新聞下堤
しんましもてい |
| (11) 安倍口堤
あべぐちてい | (22) 羽鳥下堤
はとりしもてい |



▲籠上堤・安西堤

▲霞堤の分布

安倍川・蘆科川における直轄管理区間の堤防は、本川下流部の堤防を除きほとんどが霞堤となっている。

④ 薩摩土手

古くから薩摩土手は薩摩（島津）藩が築堤したと伝えられてきたが、近年の研究では資料・文献上、薩摩藩が慶長年間に築いたという確かな記載のないことがわかっている。

有史以来の大築堤工事によって、田畑は潤い、また安倍川の西からの攻撃を押さえる重要な堀の役目も持つことになった。

現在の安倍川左岸を駿河大橋（3.5k 付近）から安西堤（6.5k 付近）を沿って賤機山に向かって伸びている。



薩摩土手

（出典：静岡市市勢要覧）

⑤ 駿府城址

徳川家康は、関ヶ原の合戦に勝利し、慶長 8 年（1603）江戸に幕府を開いて後、すぐ慶長 10 年（1605）に將軍職を秀忠に譲った。

慶長 12 年（1607）駿府に隠居し、元和 2 年（1616）死去するまでの 9 年間、実際の決定権を持ち“大御所政治”として駿府で采配を振るった。

家康は駿府を隠居の地と定めるとすぐ、城の修築に掛かり、わずか 5 ヶ月間で出来上がり入城した。家康は城の修築とともに、駿府の町づくりも行った。



駿府城址

（出典：静岡市市勢要覧）

⑥ 藁科川治水碑

藁科川の治水に努めた 36 人の功績を称えた徳富蘇峰の詩が刻まれている。木枯の森（藁科川 1.5k 付近）の八幡神社の前に建てられている。



藁科川治水碑

⑦ 安倍川修堤碑

大正 3 年の水害で被害を受けた堤防の改修に尽力を注いだ湯浅知事の功績を讃え、大正 13 年 8 月に地元の有志により建てられた記念碑で、碑の建っている堤防（6.5k 左岸付近）は「湯浅堤」と呼ばれている。



安倍川修堤碑

⑧ 有功堤碑

安倍川中流部左岸の諸岡山にある石碑で洪水に効果のあった横堤（13.0k 左岸付近）が安政2年6月の洪水で流出し、その後廃止されたが村民の強い要望により明治8年2月に改めて築造された。この碑には横堤の有効性が述べてある。



有功堤碑

⑨ 川越え風景

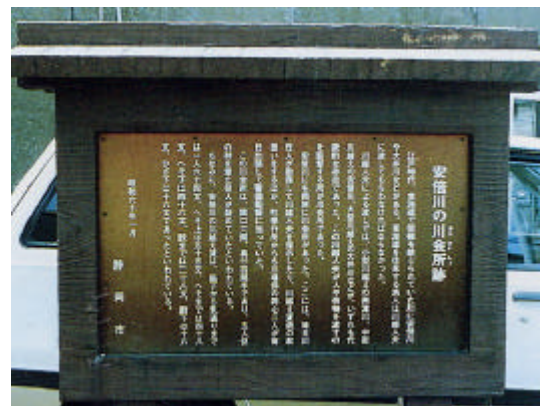
安倍川に古くから渡し船があったが、江戸時代の正徳年間（1711～1716）に川越の制度が設けられ、堤添町・弥勒町・手越村（4k 付近）に川会所が置かれ、明治3年（1870）まで約 150 年間続いた。川越えの様子を再現したのはこの写真にある一度だけである。



川越え風景（岩本昭市氏撮影）

⑩ 川会所跡の説明板

川会所は川役人が勤務し、川越人足の監督や川越料金の取り扱いをしていた所である。現在の安倍川橋（4k 付近）左岸に位置する。



川会所跡の説明板

⑪ 安倍川義夫の碑

大事な財布を落とした旅人と落と物に気が付いて届けた川越人足・喜兵衛の双方の善行を称え、昭和4年に安倍川橋（4k 付近）の東端に立てられた石碑。

財布を届けてもらった旅人は、感謝して礼金を渡そうとしたが、固辞されたため、町奉行所へ申し出た。奉行所は旅人に礼金を返し、改めて自分の金を川越人足に与えたといわれている。



安倍川義夫の碑

⑫ 安倍川架橋碑

安倍川橋（4k 付近）の架橋を記念して弥勒公園内に建立された石碑。題字は徳川家達により書かれたもの。



安倍川架橋碑

⑬ わさび栽培発祥の地

大河内^{おおごうち}の有東木^{うとうぎ}はわさび発祥の地として知られている。口碑^{こうひ}によると 300 年ほど前から始まり、当初は村民が野生のわさびを自家用に食していたのが、次第に栽培が進み、天明^{てんめい}9 年（1798）ごろから商品として売り出された。安倍川地域のわさび栽培はこの有東木^{うとうぎ}を中心に、俵峰^{たわらみね}や梅ヶ島^{うめがしま}などで行われている。



わさび発祥の地記念碑

安倍川上流の有東木はわさび栽培の発祥の地。400 年前の慶長年間に始まったとされている。
（出典：「しずおか水を育む森 50 選」
静岡県森林保全課）

⑭ 中流部の斜面に広がる茶畑

安倍茶は室町時代には全国的に知られており、江戸時代には徳川将軍家の御用茶となり茶の栽培も盛んに行なわれ重要な産業として発展している。



中流部の斜面に広がる茶畑

⑮ 牧ヶ谷にある川除地蔵

安倍川・藁科川流域には各所に地蔵尊像が見られる。藁科川 1.8k 付近右岸などの川辺りに建つ「川除地蔵^{かわよけじぞう}」は川の災害から人々を守るように祈願を込めて建てられたものである。



牧ヶ谷にある川除地蔵

①⑥ ^{なかのしんでん}中野新田にある^{かわよけ}川除地蔵

藁科川 2.5k 付近左岸の中野新田にある^{かわよけ}川除地蔵は、江戸時代中期以前に築造された堤防の上に祀られており、地蔵尊像には安永9年（1780）11月の年紀銘がある。



中野新田にある川除地蔵

①⑦ ^{たわらざわ}俵沢にある水神社

安倍川 21.5k 付近左岸の堤防の上に祀られた水神社。6月中旬の田植え終いに幟が張られ豊作祈願が行なわれる。稲作に必要な水を得るために、また洪水から水田を守るために堤防に祈りを込めたのであろう。



俵沢にある水神社

①⑧ ^{うしづま}牛妻にある水神社

牛妻の坂下地区の北端で曙橋（17k 付近）の手前に祭られた水神社。牛妻は安倍川上流部への船運の基地で、船頭や筏師が自分達は勿論のこと、船や筏の安全をも祈願したのであろう。



牛妻にある水神社

⑲ 弥勒にある水神社

『駿河国新風土記』に江戸時代の寛文年間（1661～1673）に祀られたとある。東海道（安倍川橋 4.0k 付近）を行き交う人々に水の害が及ぼさないよう祈ったのであろう。



弥勒にある水神社

⑳ 浅間神社

浅間神社は、神部神社・浅間神社・大歳御祖神社の三社を総称したもので、古くから信仰を集めているが、特に徳川氏の崇敬が厚く、現在ある社殿も徳川氏によって建てられている。

4月に行なわれる廿日会祭は、静岡まつりと連同して盛大に行なわれている。

第二次世界大戦後、名称を富士山本宮浅間神社と変更し、さらに昭和 57 年 3 月 11 日富士山本宮浅間大社と変更して現在に至っている。



浅間神社

7 歳で人質として駿府に送られた竹千代（後の徳川家康公）は 14 歳の時に、浅間神社で元服式を行ったといわれている。

（出典：静岡市市勢要覧）

㉑ 木枯の森・舟山

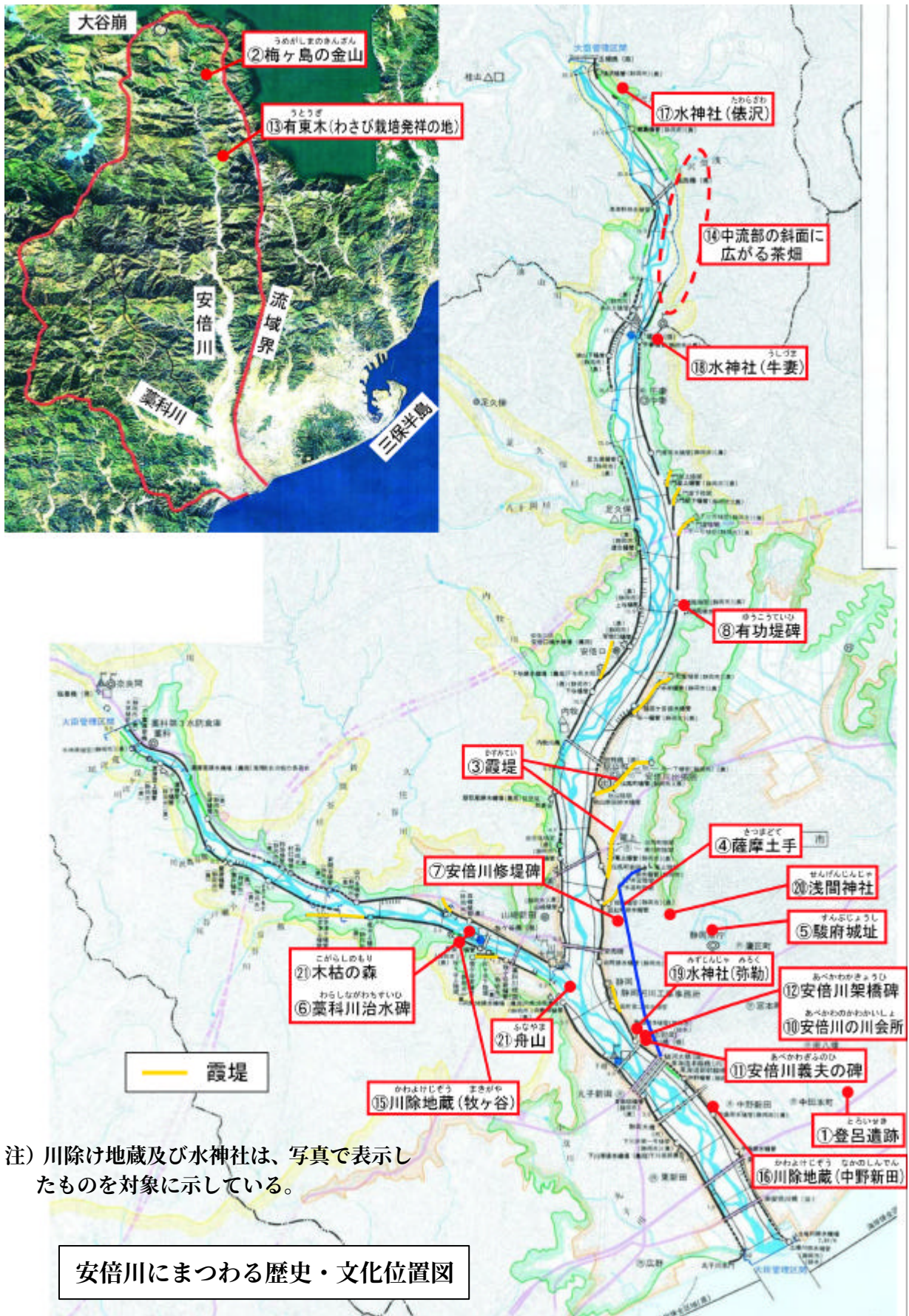
安倍川・藁科川流域は古くから木材の産地で人々の生活は樹木と深いつながりがあった。

藁科川の木枯の森（藁科川 1.5k 付近）及び安倍川の舟山（安倍川 5.5k 付近）は、藁科川上流の日向の里（藁科川 17k 付近）に伝わる「木魂伝説」に由来する場所で、村人の樹木に対する信仰と深い関わりがあった



木枯の森

木枯の森は駿河国の歌枕として名高い場所であり、「森はうへきの森。岩田の森。木枯の森」等と詠まれている。



2-5 市民活動

安倍川流域の河川に関連した市民団体としては、「安倍川フォーラム」が、水辺への関心、自然環境に対する市民意識の高まりにつなげていくことを目標に安倍川を守り育てる活動を行っている。

また、静岡県内の河川で活動している市民団体として「静岡流域ネットワーク」があり、静岡県内のさまざまな「川・池・沼」を舞台に活動している個人や団体の方に「自分たちの川、池、沼」を発表してもらい、会場全員による公開審査を行うという「しずおか川自慢大賞」開催などの活動を行っている。



イベント開催状況

安倍川フォーラムでは、きれいな安倍川を守り育てるイベントを開催し、地域の人々が参加している。



いかだ流し

安倍川フォーラム主催イベントで行われた「いかだ流し」の再現。

2-6 自然公園等の指定状況

安倍川流域の北端沿いの十枚山～大谷嶺～笹山～勘行嶺にかけての地域は奥大井県立自然公園に指定されており、南アルプス登山の南玄関口としても知られている。特に、静岡県と山梨県との県境になっている安倍峠付近では、全国的にも珍しいオオイタヤメイゲツの巨木群が見られ、学術参考保護林となっている。流域内には、鳥獣保護区7カ所、銃猟禁止区域2カ所が指定されている。

また、安倍川流域では、梅ヶ島水源の森、わさび山水源の森、栃沢水源の森の3地区が静岡県により「しずおか水を育む森 50 選」に選定されている。



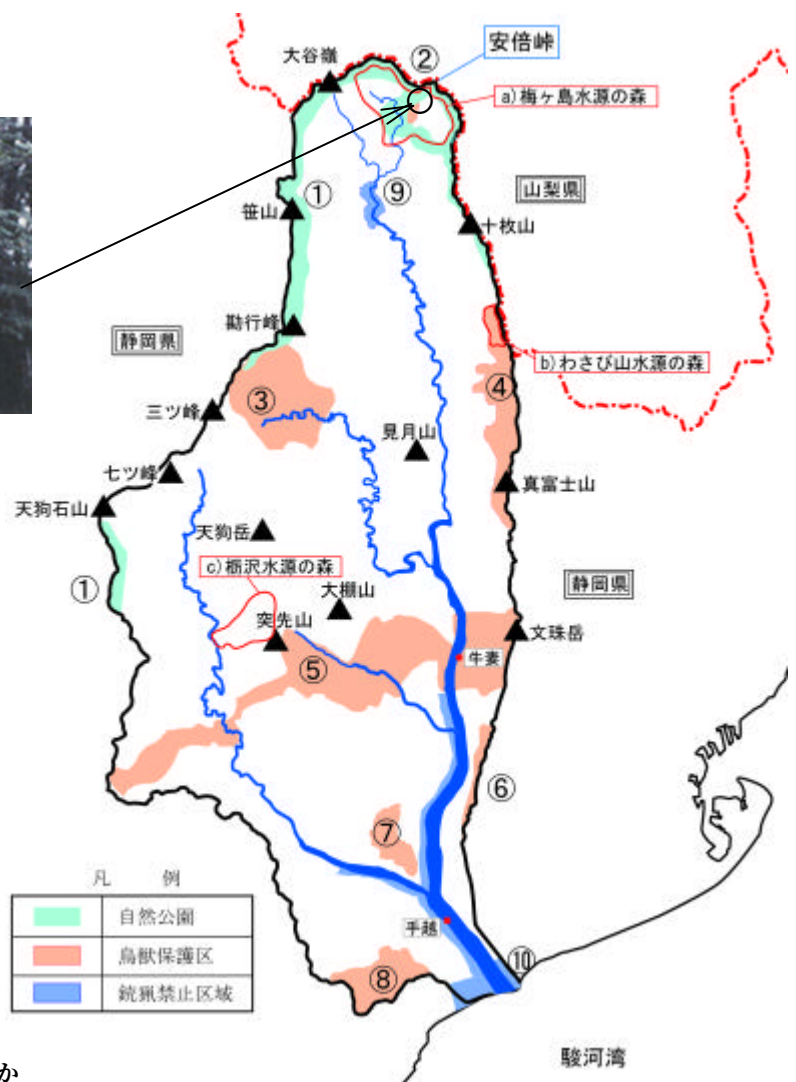
オオイタヤメイゲツ林

自然公園	
①	奥大井県立自然公園

鳥獣保護区	
②	梅ヶ島中学校野鳥愛護林
③	区坂本鳥獣保護区
④	大河内鳥獣保護区
⑤	東海自然歩道静岡鳥獣保護区
⑥	賤機山鳥獣保護区
⑦	洞慶院鳥獣保護区
⑧	高草山鳥獣保護区

銃猟禁止区域	
⑨	コンヤ沢温泉銃猟禁止区域
⑩	安倍川河口銃猟禁止区域

＊）a～cは、安倍川流域内の「しずおか水を育む森 50 選」選定地区を示す。



安倍川流域自然公園・自然環境保全地域配置図
【出典：静岡県鳥獣保護区等位置図（平成14年度）】



a) 梅ヶ島水源の森

この森で育まれた水は、梅ヶ島集落で生活用水として利用されているほか、下流域における水道用水などの供給源となっている。



b) わさび山水源の森

この水源の森から供給される水は、一定の水温で多量な清流が必要とされるわさび栽培の条件を満たしており、400 年もの間わさび栽培に利用されてきた。



c) 栢沢水源の森

栢沢川の清流は、地区の飲料水のほか、お茶やわさび栽培の農業用水として利用されている。

また、この地区は、「静岡茶の始祖」といわれている塙一国師の出生地でもある。

出典：「しずおか水を育む森 50 選」
静岡県森林保全課

「しずおか水を育む森 50 選」：
静岡県内の代表的な水源地帯の森林を広く紹介することを目的として、平成 8 年に静岡県が選定した 50 森林。

安倍川流域における「しずおか水を育む森 50 選」選定地区

	地 区 名	概 要
a	梅ヶ島水源の森	場所：静岡市梅ヶ島 面積：1200ha 主な樹種：スギ、ヒノキ、カエデ等
b	わさび山水源の森	場所：静岡市有東木 面積：167ha 主な樹種：スギ、ヒノキ
c	栢沢水源の森	場所：静岡市栢沢 面積：374ha 主な樹種：スギ、ヒノキ

第3章 流域の社会状況

3-1 人口

安倍川流域の全域を占める静岡市において、平成12年度国勢調査によると常住人口は約71万人であり、近年は人口が横這い傾向である。世帯数は、昭和40年時点で約13万8千世帯から平成12年時点で約25万5千世帯と35年で約2倍程度の増加であるが、1世帯あたりの平均世帯人員は4.2人から2.8人に減少している。

なお、平成15年4月には、静岡市と清水市が合併した。

表-3.1 静岡市の人口及び世帯数の変遷

年度	人口（人）			世帯数（世帯）			一世帯当たり 平均世帯人員	
	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市
昭和40年	367,705	218,559	586,264	87,557	50,530	138,087	4.2	4.3
昭和50年	446,952	243,045	689,997	126,139	66,127	192,266	3.5	3.7
昭和60年	468,362	242,166	710,528	144,899	71,066	215,965	3.2	3.4
平成2年	472,196	241,523	713,719	154,837	75,545	230,382	3.1	3.2
平成7年	474,092	240,174	714,266	165,452	79,997	245,449	2.9	3.0
平成12年	469,695	236,818	706,513	171,496	83,027	254,523	2.7	2.9

出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」

（人口及び世帯数は静岡市と清水市の合計値）

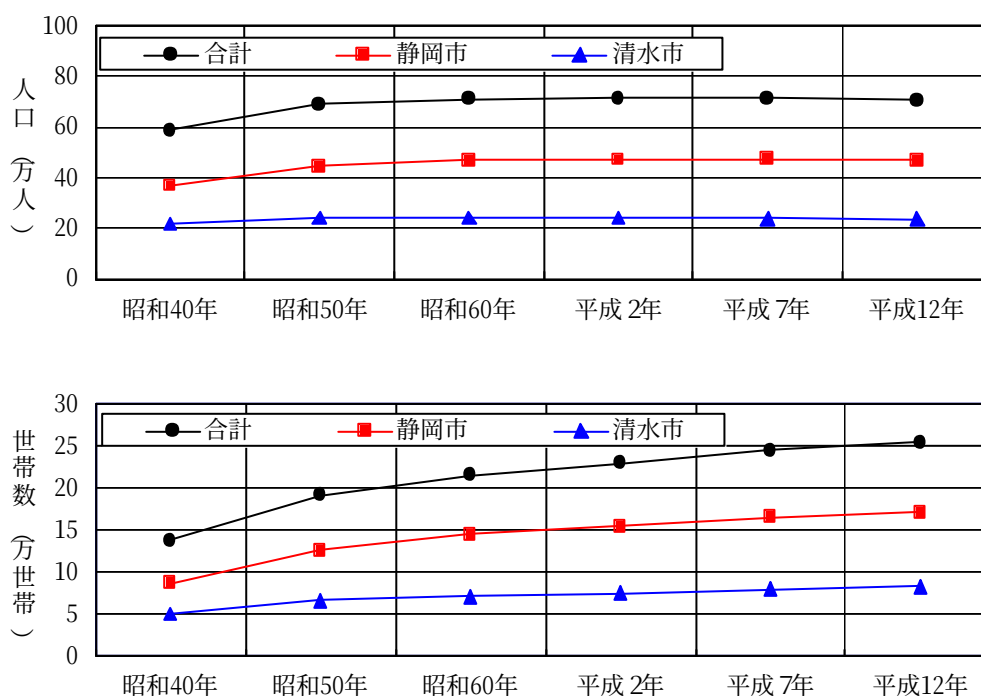


図-3.1 静岡市の人口及び世帯数の変遷

3-2 土地利用

安倍川流域は、静岡県中部に位置し、県都静岡市1市に含まれ、流域の土地利用別面積は、山地等が約93%、水田や茶畑等の農地が約3%、宅地等市街地が約4%となっている。

また、静岡市^{しずおか}における平成12年の土地利用別面積は、山地とその他併せて約79%、水田・畑地等の農耕地が約13%、宅地が約8%となっている。

表－3.2 安倍川流域土地利用別面積表

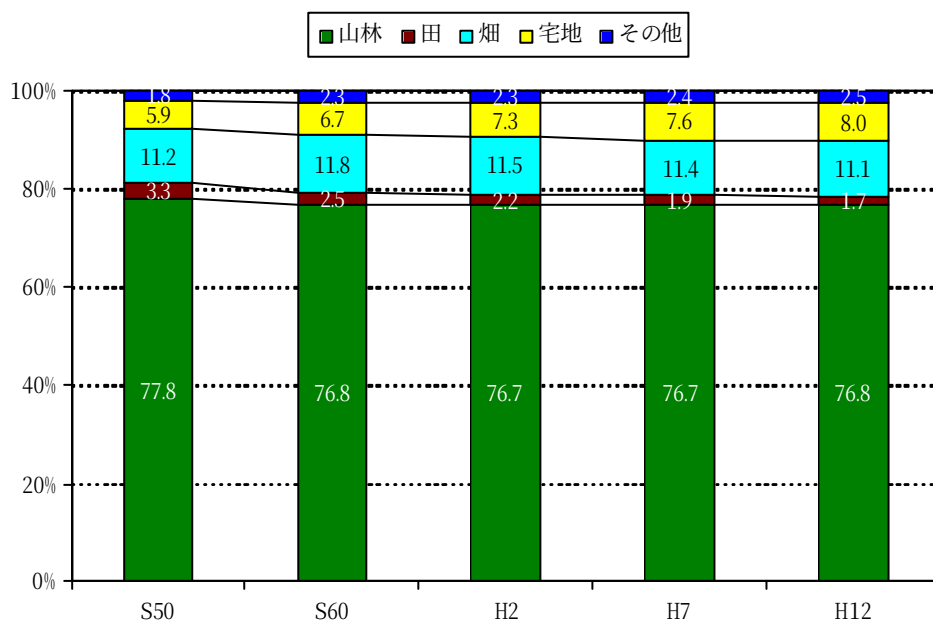
	流域面積	市街地 (人口集中地区)	農 地	山地等
面積 (km ²)	567	20.8	16.1(田 3.1, 畑 13.0)	530.1
割合 (%)	100	4	3	93

(出典：河川現況調査(調査基準年：平成7年度末))

表－3.3 静岡市地目別土地利用面積 (単位：km²)

年度	田			畑			山林			宅地			その他		
	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計
昭和50年	21.3	7.4	28.7	47.9	48.4	96.2	581.5	86.4	667.9	30.0	20.4	50.4	12.3	3.4	15.7
昭和60年	16.2	4.1	20.3	46.9	50.0	96.9	545.4	86.1	631.6	33.4	21.6	55.0	13.4	5.8	19.2
平成2年	14.4	3.4	17.8	45.4	48.3	93.8	537.8	86.1	623.9	34.9	24.5	59.3	14.5	4.3	18.8
平成7年	12.8	2.8	15.5	44.1	47.4	91.5	531.3	85.2	616.5	36.2	25.3	61.5	14.4	4.7	19.1
平成12年	11.4	2.2	13.6	42.6	45.5	88.2	523.6	84.6	608.2	37.4	25.6	63.1	14.5	4.9	19.5

出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」
 その他：原野、池沼、その他
 (土地利用面積は静岡市と清水市の合計値)



図－3.2 静岡市の土地利用別面積割合

3-3 産業・経済

安倍川流域における主要な生産物は、農作物としてみかん、茶、いちご、わさび等があげられ、工芸品としては家具、鏡台、漆器等があり、これらの農産物及び工芸品の生産額は全国的にも優位を占めている。また、鉱工業としては製紙、金属製品、紡績、缶詰等がある。

産業別就業人口の推移を全体でみると、第1次産業（茶、みかん）及び第2次産業は年々減少し、第3次産業が増加している傾向にあり、第3次産業は平成12年時点で全就業人口の約70%を占めている。



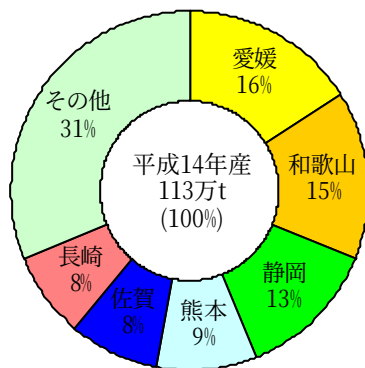
中流部斜面に広がる茶畑

安倍茶は室町時代には全国的に知られており、江戸時代には徳川将軍の御用茶となり茶の栽培も盛んに行われ重要な産業として発展している。

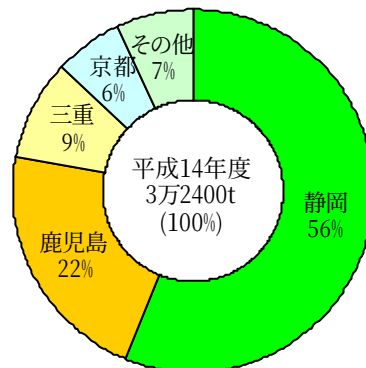


わさび栽培

今から約400年前、有東木で時生していた「わさび」を水を引いて栽培したのが始まりといわれている。



みかんの生産量



茶の生産量

出典：農林水産省HP 統計情報部公表資料
(みかん：平成15年4月18日公表、
茶：平成14年7月16日公表)



家具

静岡家具の源は漆器に始まり、江戸時代の浅間神社造営の際、全国から集まった宮大工・指物師によって培われた。(出典：静岡市市勢要覧)



駿河漆器

木地部門の指物の制作から現在の高級漆器へと発展し、その高度な技術・技法は市の伝統工芸を代表している。(出典：静岡市市勢要覧)



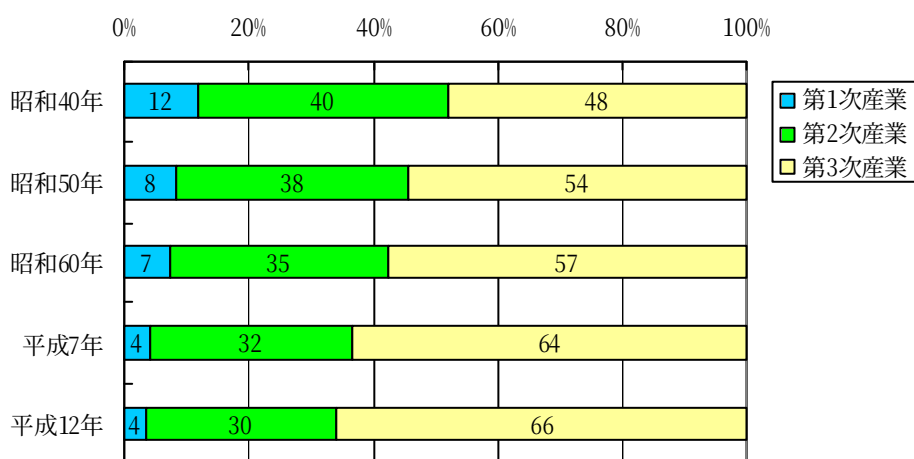
鏡台

ドレッサー・和家具の生産は全国一を誇っている。(出典：静岡市市勢要覧)

表－3.3 静岡市産業別就業人口 (単位：万人)

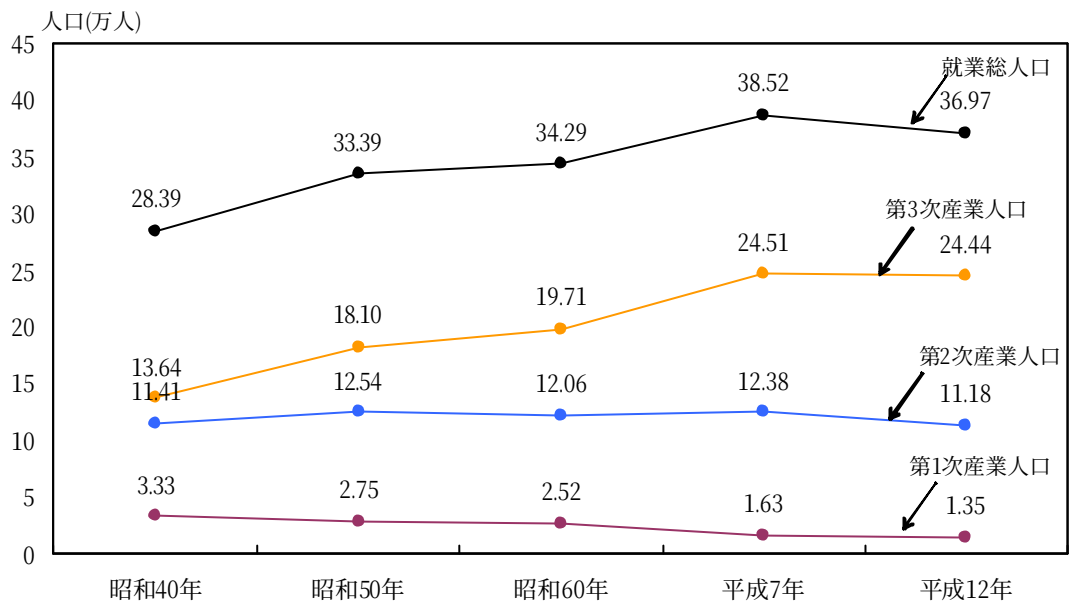
年度	一次産業			二次産業			三次産業		
	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計	静岡市	清水市	合計
昭和40年	1.9	1.5	3.3	6.9	4.5	11.4	9.1	4.6	13.6
昭和50年	1.6	1.1	2.8	7.7	4.8	12.5	12.4	5.7	18.1
昭和60年	1.5	1.0	2.5	7.5	4.5	12.1	13.5	6.3	19.7
平成7年	1.0	0.6	1.6	7.5	4.8	12.4	17.0	7.5	24.5
平成12年	0.8	0.5	1.3	6.8	4.4	11.2	16.9	7.6	24.4

出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」
(産業別就業人口は静岡市と清水市の合計値)



出典：「静岡県統計年鑑 静岡県統計協会」
(産業別就業人口は静岡市と清水市の合計値)

図－3.4 静岡市の産業別の就業人口の割合



図－3.5 静岡市の産業別就業人口の変遷

一方、静岡市による耕地整理事業は早くに完了しており、区画整理事業としては藁科川中流部左岸の新聞ほたる地区(21ha)で県営畑地帯総合事業(担い手育成型)として行なわれている。

また、「静岡県農業農村整備みらいプラン：平成13年～22年度」の策定に伴い、農村整備事業の一環として、本川上流部の有東木地区、藁科川上流部の富沢地区で「ふるさと水と土保全事業」が行なわれている。

本川筋の有東木地区、俵沢地区、油山地区、及び藁科川筋の日向地区、大原地区の各地区では「集落排水事業」が行なわれている。

3-4 交通

安倍川流域では、上流部の梅ヶ島地域は古くから交易上山梨県側とのつながりが深く、主要交通路も甲州へ通ずるものが主であった。

これに比べ、大河内村を経由して静岡に至る道はひどく不完全なものであった。

「安倍街道」の改修前には、安倍川を利用した舟運により、静岡から牛妻まで運び、さらに、そこから中継の舟積みをして上流部まで荷物を運搬していた。

明治10年前後に安倍川通船が開かれ、明治17年に大河内渡本より安倍川に沿って道路が開通されるに至って、静岡市側との交易が主となった。

しかし、この路線も断片的で、明治30年近くまでは安倍川の川原道に頼っており、その通行の困難さは想像を絶するものであった。

「安倍街道」は大正14年に至って県道梅ヶ島静岡線、県道井川静岡線に認定され、以後、道路や橋梁の近代化が昭和初期に推進された。



図－3.6 駿府への街道
(出典：「東海道駿府城下町(上)」
静岡国道事務所)

また、大正5年には、主に材木の搬出することを目的として、静岡市井宮と牛妻間を結ぶ安倍鉄道が開設されたが、大正13年頃から不況色が強まり、昭和7年には営業を中止し廃線となった。その後、静岡鉄道による梅ヶ島温泉までのバスは昭和34年に運転開始された。

現在の主な道路交通網は、静岡市街地を横断する国道1号、静岡バイパス、東名高速道路や海岸沿いを走る国道150号等が東西に発達している。なお、現在、第二東名高速道路が建設中となっている。

鉄道については、静岡駅を中心にJ R東海道本線及びJ R東海道新幹線が静岡市街地を横断している。

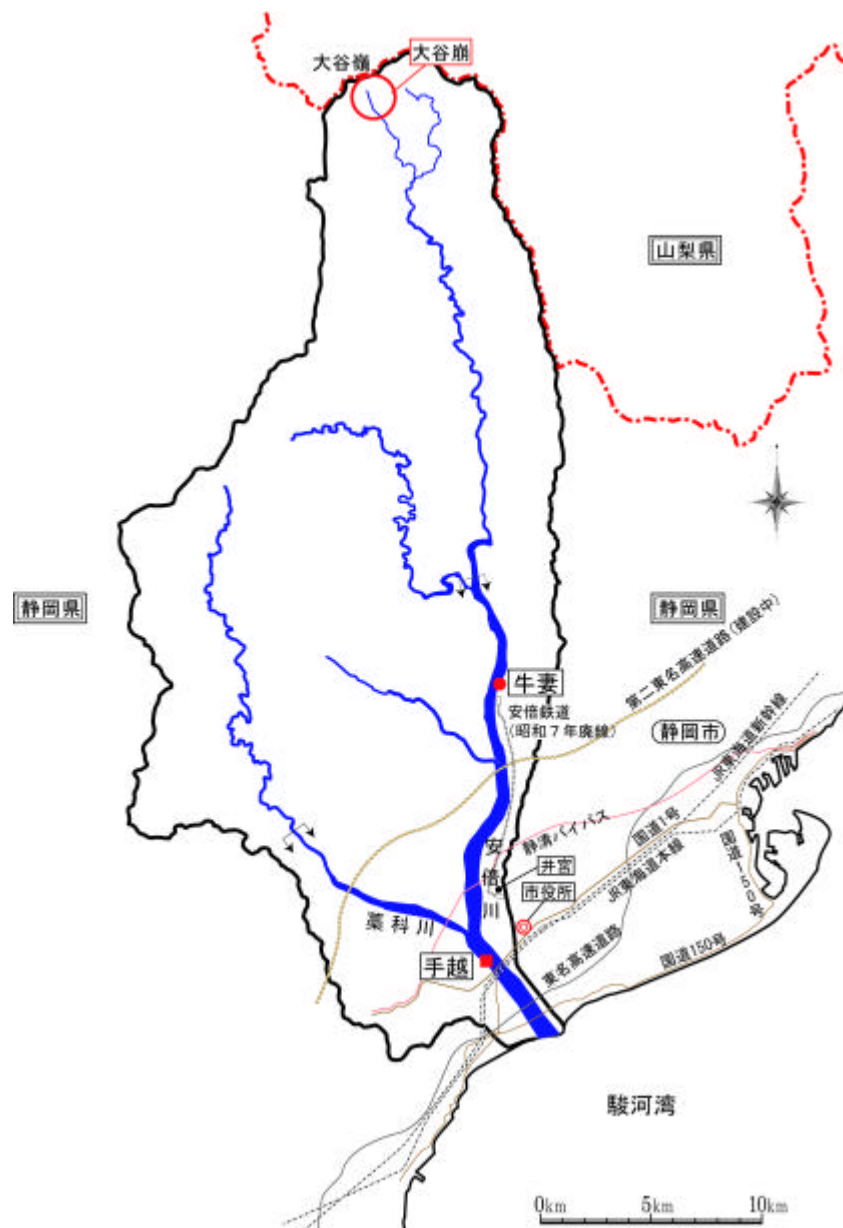


図-3.7 主要交通網図

第4章 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

安倍川^{あべかわ}における過去の洪水は台風に起因するものが多く、浸水被害等により家屋や農作物等に多大な被害をもたらしてきた。

以下に安倍川の過去の主な洪水の一覧表及び主要洪水の概要を示す。

表－4.1 安倍川における主要洪水の概要表

発生年月日	原因	2日雨量 (mm)	地点流量 (m^3/s)	概要・被害等
大正3年8月29日(1914)	台風	327	—	死者行方不明者4人、負傷者78人、家屋全壊62戸、半壊313戸、床上浸水6,556戸、床下浸水1,707戸
昭和16年7月12日(1941)	台風	275	—	浸水被害なし
昭和29年9月18日(1954)	台風14号	254	—	大河内村で土砂崩れが発生し交通が途絶
昭和33年7月23日(1958)	台風	243	—	浸水被害なし
昭和35年8月14日(1960)	台風12号	207	—	大河内村で道路・橋梁が決壊流出
昭和41年9月24日(1966)	台風26号	123	約2,300	梅ヶ島温泉街で土石流災害、家屋全壊9戸、半壊2戸、死者26名
昭和49年7月8日(1974)	台風8号 (七夕豪雨)	508	約3,900	家屋全壊39戸、床上浸水3,808戸、床下浸水4,363棟（静岡市全体、内水被害等）
昭和54年10月19日(1979)	台風20号	153	約4,900	床上浸水34棟、床下浸水45棟（内水被害）
昭和57年8月2日(1982)	台風10号	203	約3,900	浸水被害なし 堤防の一部が欠壊
平成3年9月19日(1991)	秋雨前線・ 台風18号	239	約2,500	床上浸水81戸、床下浸水157戸（静岡市全体、内水被害）
平成12年9月12日(2000)	台風14号	148	約3,200	浸水被害なし

雨量は静岡観測所（気）、大正3年雨量は豊田観測所（県）、流量は手越観測所の値

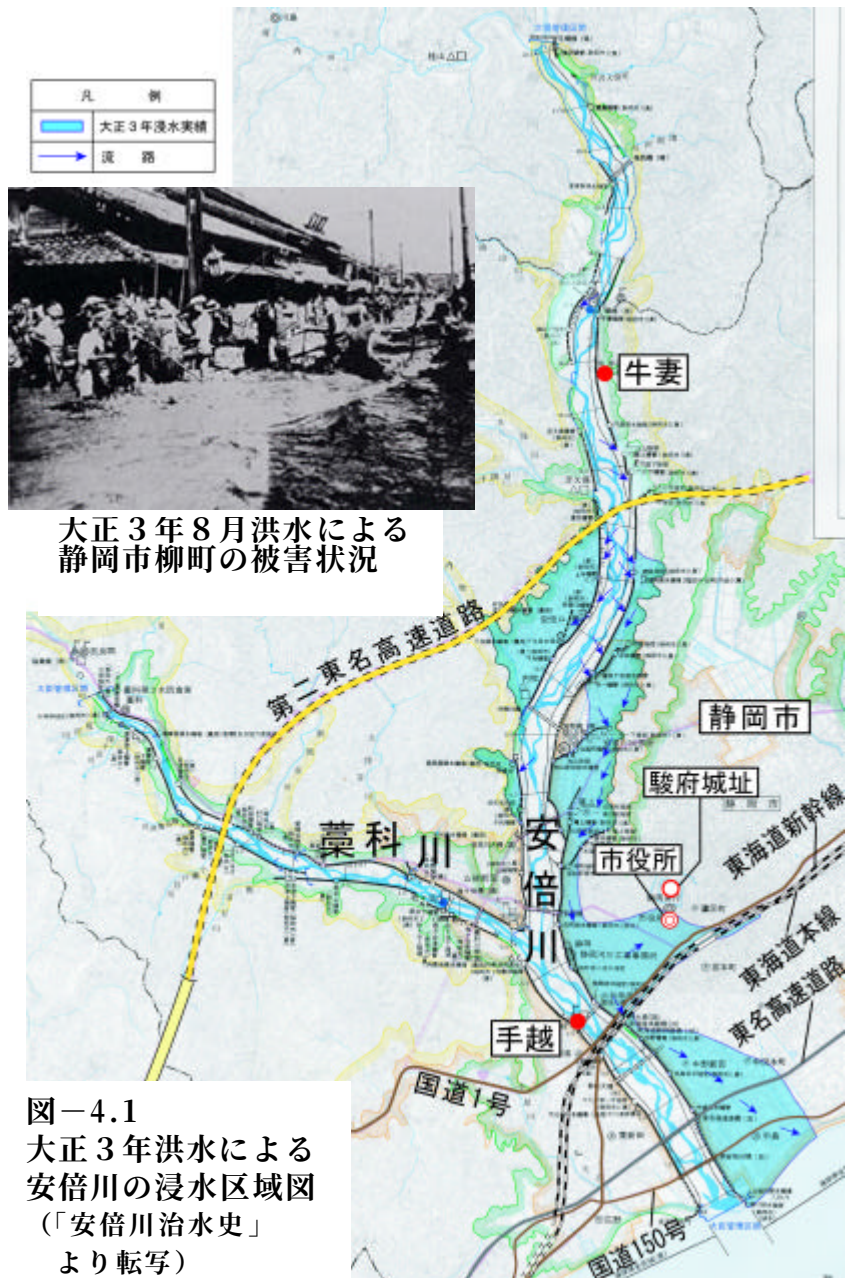
○大正3年8月洪水（台風）

大正3年8月29日に襲来した台風は、小笠原諸島の西方海上を北北西に進み、29日夜浜松付近に上陸した。静岡市では29日昼過ぎら暴風雨となり、安倍川流域の静岡地方気象台で2日雨量327mmを記録した。

この洪水は、霞堤という災害防護方法があるにもかかわらず、濁流が次々と堤防を破壊して災害をもたらしたものであり、文政11年の災害状況によく似ている。

8月30日から9月1日までの被害状況は、死者行方不明者4人、負傷者78人、家屋全壊62戸、半壊313戸、床上浸水6556戸、床下浸水1707戸に及んだ。

このように大きな被害を出したが、被害のほとんどが駿府城址より西側で、東側ではほとんど被害を受けておらず、安倍川の水害の特徴をよく現している。



○昭和16年7月洪水（台風）

7月上旬の不連続の持続により各河川とも小出水であったが、台風の北上接近に伴って10日頃より雨が降り出し、12日に台風は通過した。静岡地方気象台では2日雨量275mmを記録した。

○昭和29年9月洪水（台風14号）

静岡県では17日夜半から時々強いにわか雨があり18日昼過ぎから雨も強くなり、台風が接近した前4時間位が最も強く、静岡地方気象台では2日雨量254mmを記録した。

○昭和 33 年 7 月洪水（台風）

静岡県下では 20 日の晩から雨が降り出し、その後台風が静岡県に近づくにつれて風雨が強くなり安倍川の水位は上昇し台風の最も接近した 23 日 4 時頃牛妻において警戒水位を突破した。

○昭和 41 年 9 月洪水（台風 26 号）

昭和 41 年 9 月 24 日、日本の南にあった秋雨前線を刺激しながら北上してきた台風 26 号は、御前崎の西に上陸し静岡県中央部を縦断して異常な豪雨をもたらした。このため、大河内村立大河内中学校の裏山が 25 日 0 時 30 分頃突然崩壊した。梅ヶ島温泉では 9 月 25 日 0 時頃、突然安倍川に土砂流が発生し、これが氾濫したため旅館をはじめ家屋全壊 9 戸、半壊 2 戸、死者 26 名の被害を出した。



昭和 41 年 9 月洪水
(梅ヶ島温泉街：三河内川 5.0k 付近)

○昭和 49 年 7 月洪水（台風 8 号、七夕豪雨）

昭和 49 年 7 月 1 日、沖の鳥島付近の海上に発生した低気圧は次第に発達しながら西進し、成長して台風 8 号となった。7 月 7 日朝、東海地方の西部にあって停滞気味の梅雨前線は、台風 8 号によって刺激され、勢力を増しながら次第に東方に進み、静岡県下に凄まじい豪雨をもたらし、静岡地方気象台の 2 日雨量は 508 mm を記録した。

静岡市における被害は、雨量が安倍川下流域の平野部に集中したため、上流域の山間地より下流域の被害が甚大であり、死者 23 名、負傷者 28 名、家屋の全半壊 186 戸、浸水家屋 22,769 戸という多大な被害を受けた。これらの被害の大部分は、記録的な豪雨による下流域の山地斜面崩壊と、それに由来する土石流ならびに中小河川の破堤あるいは越流による内水氾濫であった。



図-4.2 昭和 49 年 7 月洪水浸水区域図
(「七夕豪雨：静岡市」より転写)

静岡市周辺では丸子川、長尾川で堤防決壊し、特に丸子川に大きな爪跡を残した。
安倍川では堤防の根固め等に被害があったが、破堤は起こらなかった。

○昭和 57 年 8 月洪水（台風 10 号）

7 月 31 日、関東の南海上から東方へのびて停滞していた梅雨前線が北上し、次第に活動が活発となった。7 月 31 日夜半頃から 8 月 1 日にかけて断続的な大雨が降り、台風 10 号から変わった低気圧は 2 日午後から 3 日にかけて日本海をゆっくり進んだため、南海上から低気圧に向かう暖湿気の流れが持続した。静岡地方気象台では 2 日雨量 203 mm を記録した。

洪水により堤防の一部が欠壊したが、水防活動により破堤は免れている。



昭和 57 年 8 月災害
蛇籠・土嚢による応急工事
(12.0k 付近左岸：福田ヶ谷地先)

○平成 3 年 9 月洪水（秋雨前線と台風 18 号による大雨）

台風 18 号の接近に伴い、日本列島の南岸沿いに停滞していた秋雨前線が刺激され活発化した。梅ヶ島雨量観測所(建)では、19 日 14 時に時間雨量 60 mm、2 日雨量 441 mm を記録した。安倍川の水位が急激に増水し、牛妻水位観測所において、19 日 14 時 30 分最高水位 4.15m（計画高水位 5.51m）を記録した。

このため、静岡市^{なわらざわ}俵沢地区の堤防が洗掘され、危険な状態となったが、地元住民の水防活動により大事には至らなかった。



平成 3 年 9 月災害 俵沢地区
(21.5k 付近左岸)

○平成 12 年 9 月洪水（台風 14 号 東海豪雨）

停滞する秋雨前線及び台風 14 号の影響により南から湿った空気が大量に流れ込み大雨となった。安倍川、大井川流域の各観測所では 9 月 11 日 0 時～12 日 9 時にかけて累計概ね 150 mm～600 mm の大雨となった。

特に梅ヶ島雨量観測所（建）では 2 日雨量 581 mm を記録し、年間平均降水量の 1/4 程度に及ぶ雨量がこの 2 日間で降った。

4-2 治水事業の沿革

安倍川はその昔静岡市付近が湿地帯であった時代には、藁科川と流路を別にし現静岡市の中心部を流れ駿河湾に注いでいた模様である。

室町時代に入ると今川氏が平野の高い部分に城を築こうと幾筋もの支流を西へ追いやり、ほぼ現在の流路を流れるようになったといわれている。

安倍川水系における治水事業は、1500 年代末に始まる新田開発において、新田を洪水から守るために、川側に堤防（霞堤）を築いたことに始まるといわれている。

徳川家康が駿府に移るに及んで、区画整理の一環として慶長年間に築堤を行った。

その後も築堤が行われたが、いずれも霞堤と呼ばれる形式のものであり、万が一破堤した場合でも一線堤、二線堤の役割を持って駿府の町を守っていた。

大正 3 年 8 月には安倍川は未曾有の大洪水に見舞われ、中流部の堤防が破堤し静岡市の大半が浸水するという甚大な被害を被った。

本格的な治水事業は、流域に甚大な被害が生じた大正 3 年 8 月洪水を契機として、基準地点手越における計画高水流量を $3,200\text{m}^3/\text{s}$ とし、牛妻から河口までの区間について昭和 7 年より直轄事業として着手した。

そして、この改修方針を踏襲した直轄河川改修総体計画を昭和 28 年に策定した。

さらに、昭和 16 年 7 月洪水、昭和 29 年 9 月洪水、昭和 33 年 7 月洪水等の出水に鑑み、手越における計画高水流量を $5,500\text{m}^3/\text{s}$ とする直轄河川改修総体計画を昭和

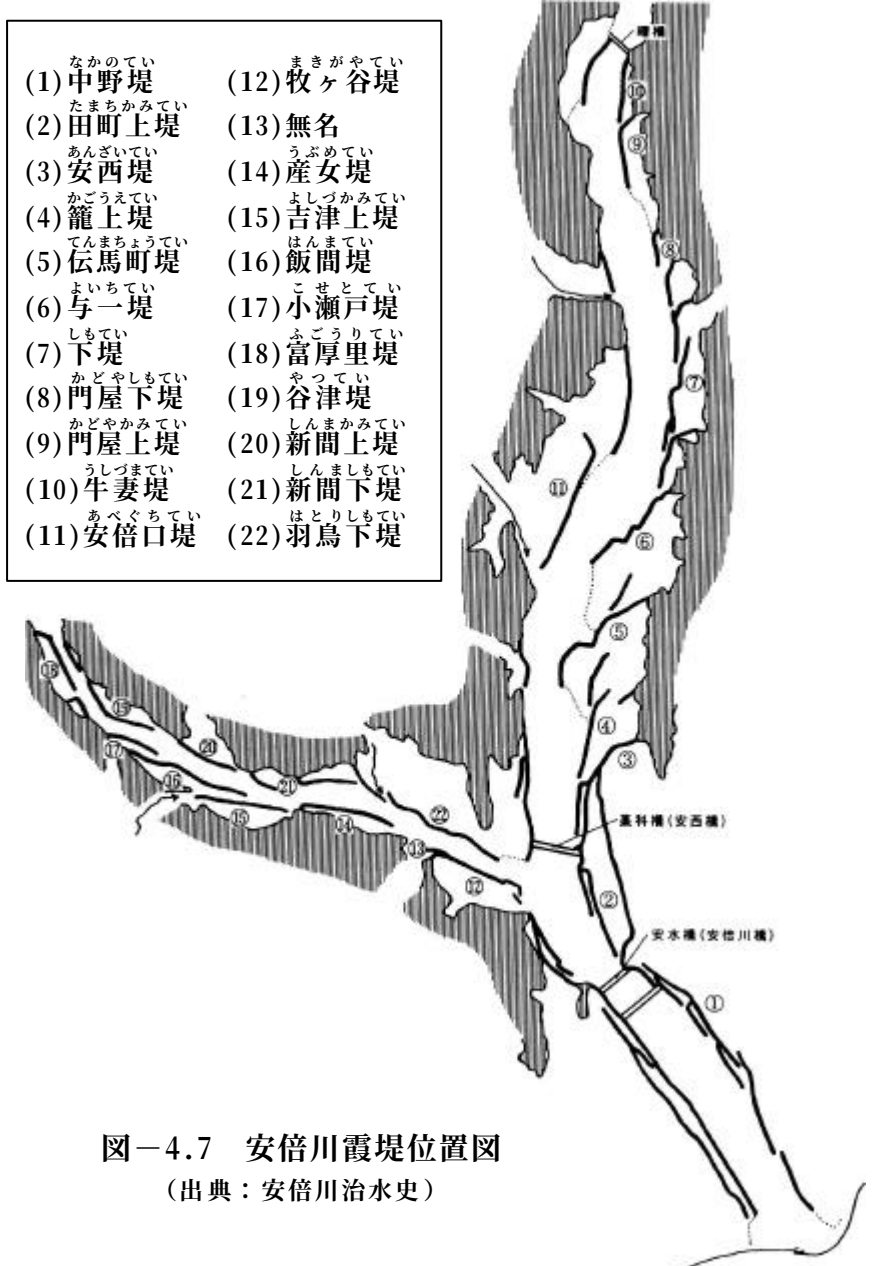


図-4.7 安倍川霞堤位置図

(出典：安倍川治水史)

38 年に決定した。

昭和 41 年には、一級河川の指定を受け、従前の計画を踏襲した工事実施基本計画を策定した。これまでに築堤、護岸や洪水流から堤防を保護するための高水敷等を整備するとともに、市街化の進展に伴い、本川左岸側の霞堤の締め切りを行った。なお、旧霞堤は、現在も二線堤として存置している。

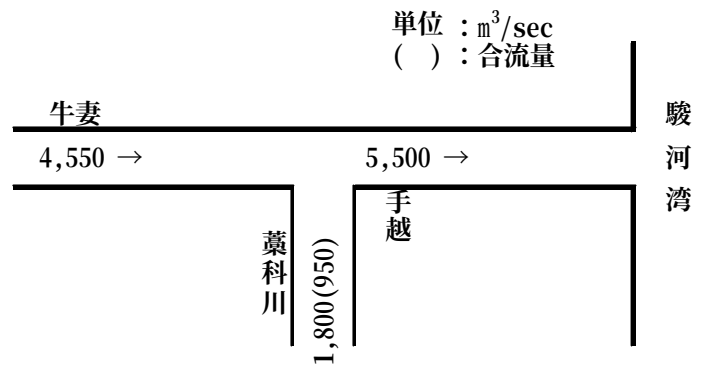
また、河口部においては、高潮

対策事業として昭和 52 年度から昭和 56 年度にかけて高潮堤防を整備した。

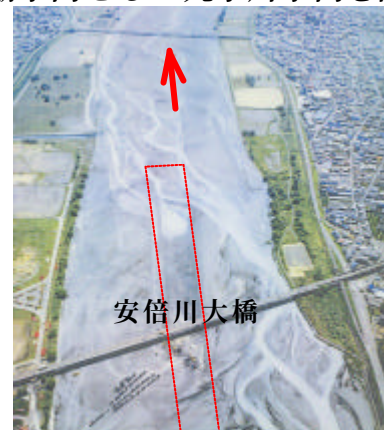
昭和 54 年には静岡県全域が東海地震に係る地震防災対策強化地域に指定され、河口部の高潮堤補強対策や想定される津波に対する防潮水門として丸子川水門を設置し、さらに、震災時に救援物資や人員を安全かつ速やかに運ぶための、緊急用河川敷道路の整備が進められている。

昭和 30 年代の高度経済成長期には、年間平均約 70 万 m^3 に及ぶ砂利採取により直轄管理区間の河床が最大約 2.9m、平均約 1.3m 低下した。その結果、橋梁、護岸など構造物の被災が発生した。また、静岡・清水海岸の侵食をもたらし、その先端は羽衣の松で有名な三保の松原にまで達している。このため、昭和 43 年に直轄管理区間の砂利採取を規制し、平成 6 年には県管理区間の砂利採取が規制され、直轄管理区間の河床は上昇傾向に転じ、海岸の砂浜も復活傾向となっている。

その後、近年では、下流区間において低水路の河床高が高水敷高程度まで上昇し、洪水の流下の支障となるとともに、洪水の主流が高水敷上を流れ、高水敷や堤防が洗掘されるなどの被害が頻繁に発生し、堤防の安全度が著しく低下している。このため、緊急対策として平成 12 年度より河床掘削に着手し、平成 15 年度より堤防の強化に着手した。河床掘削の実施にあたっては、過去の経緯を踏まえ、掘削土砂の一部を海岸への養浜に利用している。



図－4.8 計画高水流量配分図
(工事実施基本計画)



緊急河道掘削
(安倍川 7.0k 付近)



海岸への養浜
(出典：静岡県河川砂防室)

一方、安倍川上流部は日本三大崩れの一つである大谷崩を始めとする多数の崩壊地を抱えており、重荒廃地となっている。

砂防事業については、大正5年に静岡県が本川上流部において関の沢山腹工事に着手したのが始まりであり、昭和12年から本川上流部において直轄砂防事業として、砂防えん堤、山腹工等の整備が進められている。



昭和59年3月撮影

平成13年2月撮影

(出典：静岡県河川砂防室)

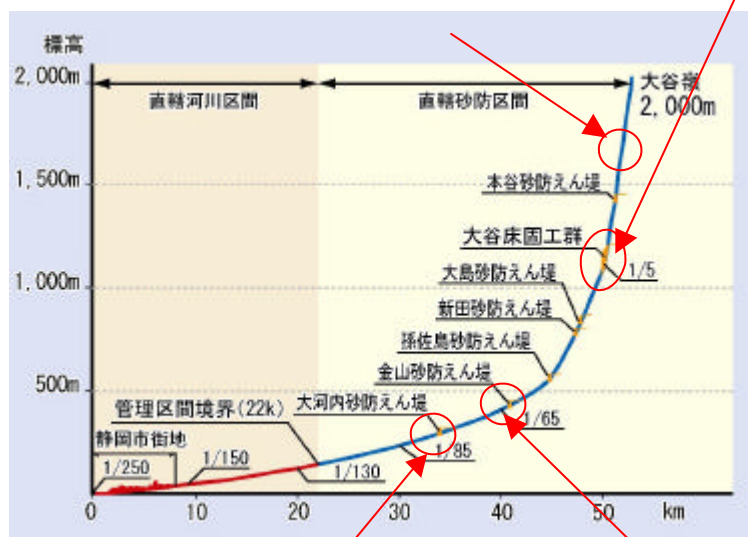
図-4.9 静岡海岸の汀線変化状況



大谷山腹工（平成11年撮影）



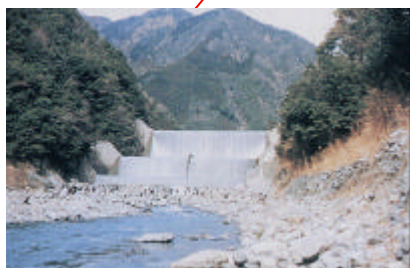
大谷床固工群、大島砂防えん堤
及び大島流路工



安倍川砂防設備諸元表

河川名	設備名	竣工年月	流域面積 (km ²)	貯砂量 (m ³)
安倍川	大河内砂防えん堤	S26.3	94.70	1,340,000
安倍川	金山砂防えん堤	S31.1	50.00	660,000
安倍川	孫佐島砂防えん堤	S57.3	38.80	280,000
大谷川	新田砂防えん堤	S34.5	15.10	160,000
大谷川	大島流路工(1)	S45.3	8.80	—
大谷川	大島流路工(2)	S58.1	8.80	—
大谷川	大島砂防えん堤	S52.7	8.80	410,000
大谷川	大谷床固段階えん堤	S38.12	2.20	—
大谷川	大谷上護岸工	S42.1	2.20	—
大谷川	大谷第2階段えん堤	S49.3	2.20	—
大谷川	大谷第3階段えん堤	S54.1	2.20	—
大谷川	大谷床固工	継続	3.60	—
大谷川	本谷砂防えん堤	S58.2	0.60	28,500

出典：安倍川砂防管内図（平成15年3月）



大河内砂防えん堤（S26.3 完成）



金山砂防えん堤（S31.1 完成）

表－4.2 安倍川水系における治水事業の沿革

西暦	年 号	計画の変遷	主な事業内容
1932	昭和 7 年	国の直轄事業として改修工事に着手 (安倍川の改修計画が策定)	・在来堤防の構築、新堤の築堤、水衝部の護岸水制の新設補強、堤防の安固を目的とした改修工事
	～	【計画流量高水】 安倍川：手越基準地点 3,200m ³ /s、牛妻 1,900m ³ /s 藁科川：1,200m ³ /s	
1944	昭和 19 年		
1945	昭和 20 年		
1949	昭和 24 年		・終戦後の混乱期であり、国の予算が国民生活の安定を目的としたため、直轄河川改修は中断された。
1950	昭和 25 年	治山治水対策要綱策定（昭和 28 年）	・安倍川及び支川藁科川の築堤及び護岸工事 ・災害復旧工事が始まり、護岸及び水制工が施工
1953	昭和 28 年	総体計画の策定 【計画高水流量】 安倍川：手越基準地点 3,200m ³ /s、牛妻 1,900m ³ /s 藁科川：1,200m ³ /s	
1958	昭和 33 年	第一次治水事業 5 ヶ年計画 (計画：昭和 35～39 年度、実施：昭和 35～37 年度) 【計画概要】 本川安倍川及び藁科川の弱小堤及び護岸水制を増強する。 特に静岡市市街地を防御する築堤。	
1963	昭和 38 年	総体計画の改訂 【計画高水流量】 安倍川：手越基準地点 5,500m ³ /s、牛妻 4,550m ³ /s 藁科川：1,800m ³ /s	・安倍川左岸の伝馬町新田と牛妻下地先の築堤、護岸工事 ・支川藁科川では谷津と産女地先の築堤護岸工事及び吉津下堤の護岸水制工事
1964	昭和 39 年	第二次治水事業 5 ヶ年計画 (計画：昭和 40～44 年度、実施：40～42 年度) 【計画概要】 本川安倍川の築堤は、上流：牛妻・油山地先の一部を残し概成するとともに、河川左岸高潮堤を実施する。 支川藁科川は、上流右岸の一部を残し築堤を概成し、水衝部の護岸、水制を施行する。	
1965	昭和 40 年	新河川法の施行	
1966	昭和 41 年	安倍川が一級河川に指定。工事実施基本計画の策定 【計画高水流量】 安倍川：手越基準地点 5,500m ³ /s、牛妻 4,550m ³ /s 藁科川：1,800m ³ /s	
1968	昭和 43 年	直轄管理区間における砂利採取の規制 第三次治水事業 5 ヶ年計画 (計画：昭和 43～47 年度、実施：昭和 43～46 年度) 【計画概要】 安倍川上流・下流地区の河床低下及び水衝部老朽護岸の対策として、護岸補強等を促進する。 都市周辺の土地の高度利用並びに河川管理の強化等を考慮して、田町・伝馬町の霞堤締切りを施す。 河口部については、高潮河口閉塞の対策として左岸導流堤を施工する。	・安倍川左岸の牛妻下堤、伝馬町堤、辰起町堤、秋山新田堤、福田ヶ谷堤の築堤工事及び中島堤の護岸工事 ・安倍川右岸の下川原の堤築堤護岸工事及び慈悲尾堤の護岸工事
1972	昭和 47 年	第四次治水事業 5 ヶ年計画 (計画：昭和 47～51 年度、実施：昭和 47～51 年度) 【計画概要】 市街化区域の霞堤（田町堤、山崎新田堤、福田ヶ谷堤）の締切を実施し、17 km 下流の築堤を概ね完成する。	
1977	昭和 52 年	第五次治水事業 5 ヶ年計画 (計画：昭和 52～56 年度、実施：昭和 52～56 年度) 【計画概要】 高潮堤及び弱小堤の改修を促進し、支川藁科川の引堤用地取得に着手する。	
1979	昭和 54 年	静岡県全域が東海地震に係る地震防災対策強化地域に指定される。	・安倍川左岸田町の築堤護岸工事、福田ヶ谷堤の護岸工事 ・安倍川右岸の津渡野と松野の築堤護岸工事 ・本川右岸の丸子水門新設工事
1982	昭和 57 年	第六次治水事業 5 ヶ年計画 (計画：昭和 57～61 年度、実施：昭和 57～61 年度) 【計画概要】 右岸高潮堤を完成させるとともに、弱小堤の改修を促進し、津波対策事業としての丸子川防潮門に着手し概成する。	
1987	昭和 62 年	第七次治水事業 5 ヶ年計画	
1988	昭和 63 年	工事実施基本計画の部分改定 (計画高水位、計画縦断形、堤防高についての部分改定)	・安倍川左岸田町の築堤護岸工事 ・福田ヶ谷地先では低水路固定工事 ・本川右岸の丸子水門新設工事
1989	平成元年	丸子川水門完成	
2000	平成 12 年	緊急対策として河床掘削に着手	・安倍川の河床掘削
2003	平成 15 年	緊急対策特定事業として堤防強化事業に着手	・安倍川 3.25k～8.5k の左岸堤防強化

第5章 水利用の現状

5-1 水利用の変遷

安倍川の水利用は、古くは駿府城の堀に水を送る「駿府用水」の水源として利用されるとともに城下町の防火用水などに使われてきた。

現在の安倍川の水利用の特徴は、豊富な地下水が利用されていること、水利使用の件数は農業用水の占める割合が大きいことがあげられる。

安倍川流域の水利権に関するかんがい区域は、本川・支川で約 1,100ha となっている。

静岡市上水道の現況は、平成 14 年 3 月現在、給水人口約 436,000 人、最大給水量 176,500m³/日となっている。計画給水量を水源別にみると、安倍川からの伏流水取水は最大 55,600m³/日、地下水取水は最大 166,000m³/日となっており、伏流水取水は全体の約 25%となっている。

また、安倍川の伏流水を利用した静清工業用水は、最大取水量 1.11m³/s 取水している。発電用水としては、支川藁科川上流で最大約 2.615m³/s が利用されており大川発電所（大正 9 年運転開始）及び清沢発電所（昭和 3 年運転開始）で、総最大出力 750kw の電力が供給されている。

伏流水取水している上水・工業用水の水源地は牛妻地内で、この地点は地下 18m に至るまで砂礫層になっており、豊富な伏流水が確保できる場所である。ここで取水された水は、高度差を利用した自然流下方式で静岡市街地に給水されている。

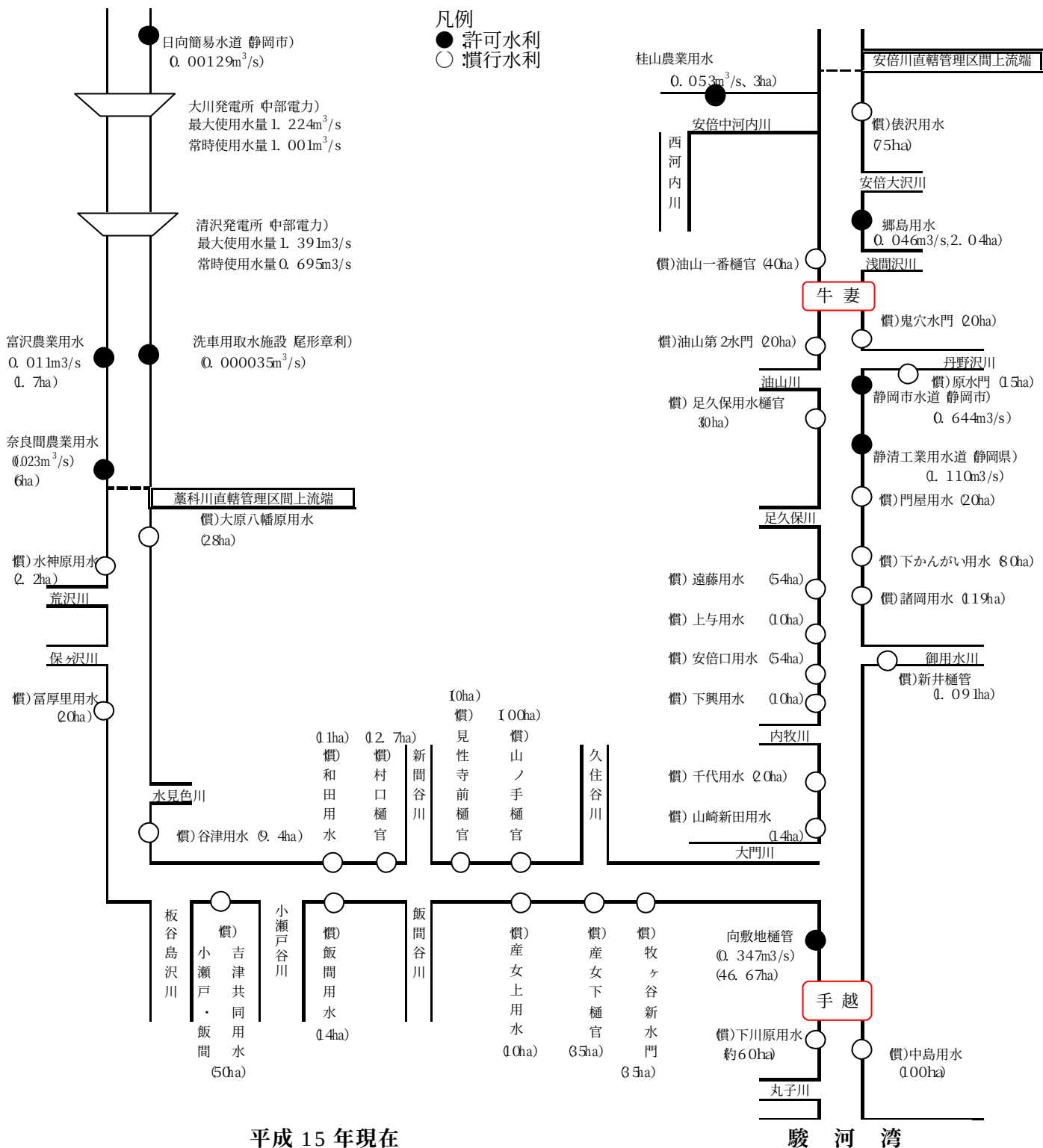
表－5.1 安倍川水系における水利権一覧表

No	項目	区分	件数	最大取水量(m ³ /s)	摘 要
①	発電用水	法	2	2.615	最大使用水量2.615m ³ /s(750kw) 常時使用水量1.696m ³ /s(425kw)
②	上水道用水	法	2	0.644	静岡市上水道 給水人口464,000人 (平成22年将来計画時点)
				0.00129	日向簡易水道 給水人口750人
③	工業用水	法	1	1.110	静清工業用水道(伏流水を取水)
④	農業用水	法	5	0.480	かんがい面積59.41ha
		慣	31	—	かんがい面積1049.69ha
⑤	雑用水	法	2	0.000035	洗車用

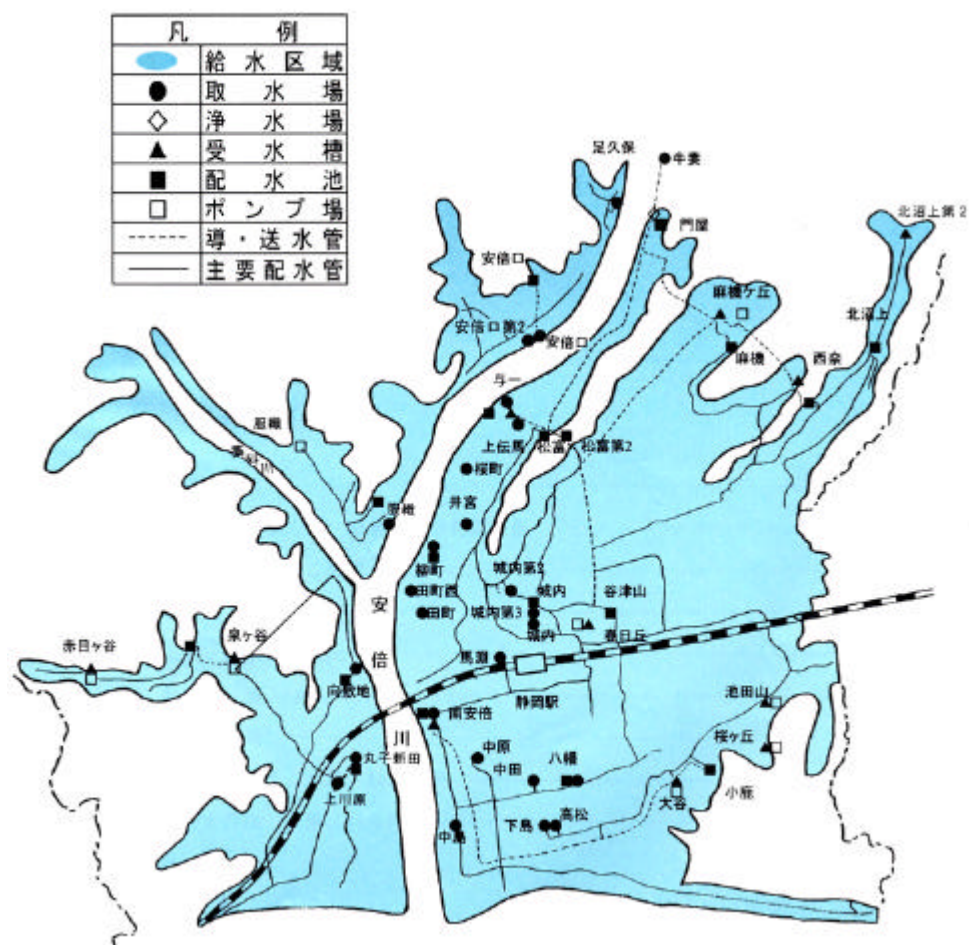
法：河川法第 23 条の許可を得たもの 慣：河川法施行前から存在する慣行水利

表－5.2 発電取水量及び発電力

		大川発電所	清沢発電所
使用水量	最大	1.224 m ³ /s	1.391 m ³ /s
	常時	1.001 m ³ /s	0.695 m ³ /s
発電力	最大	250 kw	500 kw
	常時	205 kw	220 kw



図一5.1 安倍川水利模式図



図－5.2 静岡市上水道施設平面図
(出典：「静岡市水道事業のあらまし」静岡市水道局)

表－5.3 静岡工業用水道事業計画概要

給 水 地 域		静岡市（旧清水市を含む）
給 水 能 力		96,000m ³ /日
給 水 開 始 年 月 日		昭和 16 年 4 月 1 日（旧施設） 昭和 34 年 4 月 1 日（第 1 期拡張） 昭和 42 年 4 月 1 日（第 2 期拡張）
工 期		昭和 14 年度～昭和 19 年度（旧施設） 昭和 27 年度～昭和 33 年度（第 1 期拡張） 昭和 36 年度～昭和 41 年度（第 2 期拡張） 昭和 58 年度～平成 15 年度（改築）
水 源	種 別	伏流水
	河 川 名	安倍川
	取 水 点	静岡市門屋地先
	計画取水量	96,000m ³ /日（1,110 m ³ /秒）
浄 水 方 式		沈砂池（原水供給）
水 質（10 年平均）		水温 15.7 濁度 0.5 PH7.4

出典：静岡県企業局富士川事務所パンフレット

静岡市上水道の計画概要

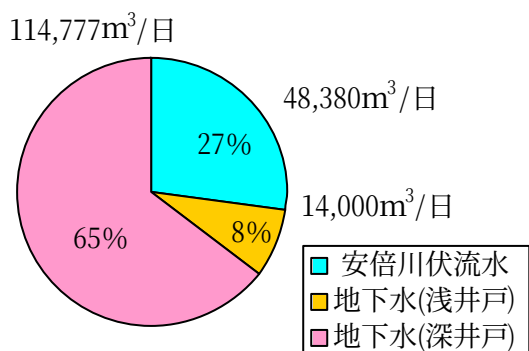
都道府県名 静岡県									
区 分	既 認 可 (現況)			既 認 可 (現況)			創 設 時 計 画		
	旧 静 岡 市			旧 清 水 市			静 岡 市		
計画目標年度	平成22年度 (平成13年度末)			平成22年度 (平成13年度末)			平成22年度		
計画給水区域	83.52km ² (83.52km ²)			56.08km ² (56.08km ²)			139.6km ²		
計画給水人口	464,000人 (435,947人)			233,000人 (233,868人)			697,000人		
計画一日最大給水量	221,000? /日 (176,500? /日)			118,600? /日 (108,757? /日)			339,600? /日		
一人一日最大給水量	476? /人/日 (405? /人/日)			509? /人/日 (468? /人/日)			487? /人/日		
水源の種類 及び取水量	水源名	種 別	計画1日最大取水量 (H13.7.23取水量)	水 源 名	種 別	計画1日最大取水量 (H13.6.27取水量)	水 源 名	種 別	計画1日最大取水量
	牛妻水源地	伏流水	55,600 (48,380)	清地・承元寺 小河内・吉原 布沢川	表流水 〃 〃(ダム水)	125,300(105,824) 600(522) 1,000(—)	牛妻水源地	伏流水	55,600
	浅井戸	地下水	16,000 (14,000)	浅井戸	地下水	10,000(4,787)	清地・承元寺	表流水	125,300
	深井戸	〃	150,000 (114,777)	深井戸	〃	8,500(3,509)	小河内・吉原	〃	600
	計		221,600(177,157)	その他(穴原)	湧 水	145(145)	布沢川	〃(ダム水)	1,000
				計		145,545(114,787)	浅井戸	地下水	26,000
							深井戸	〃	158,500
							その他(穴原)	湧 水	145
							合計		367,145
浄水方法	伏流水	→	緩速及び急速ろ過方式	表流水	→	緩速及び急速ろ過方式	伏流水	→	緩速及び急速ろ過方式
	地下水	→	次亜塩素処理方式	地下水	→	次亜塩素処理方式	表流水	→	緩速及び急速ろ過方式
				ダム水	→	急速ろ過方式	地下水	→	次亜塩素処理方式
							ダム水	→	急速ろ過方式

※ 清水市の現況(カッコ内)には、市営簡易水道を含む

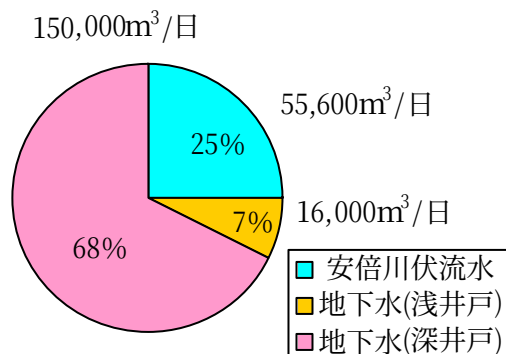
出典：静岡市水道事業経営認可申請書添付資料（静水第1号 平成15年4月1日）

静岡市上水道の水源別取水量割合

◆H13.7.23 実績取水量



◆計画1日最大取水量



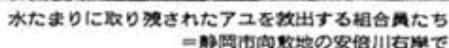
安倍川水系において過去に市民生活に影響を及ぼすような渇水は報告されていない。しかし、昭和 59 年 11 月の渇水時には、中流部の水枯れによってアユの産卵に影響が及んだことがあった。それ以外、地下水位低下はあるものの上水道用水、工業用水並びに農業用水の取水障害や地下水塩水化等の渇水被害は発生していない。

また、安倍川の特徴である水枯れは、近年において平成 6 年、平成 9 年、平成 11 年、平成 12 年に確認されており、さらに水枯れに至らないまでも濡筋が中央部に細々と流れている程度で表流水がほとんどなくなる状況は毎年のように確認されている。

(昭和 59 年 11 月 2 日静岡新聞：静岡新聞社編集局資料調査本部調査部許諾済)

責爭

固



では、産卵量にも影響が出かねない。

計画だ

[illegible]

た。投網やタモを使ってアユをつ

い」と心配した安部は、村川非出の
漁協（村上光司組合長）。「戦後
初めての経験」（村上組合長）と
いうこの作戦、四日まで行われる

同流路によると、大量のアニカを取り残されているのは安西橋から安倍川橋までの約二・五の間。表流水がとろとろで途切れるほど

かき、トランプで約三・五万
張の河口付近へ運搬。夕方までに
約五千匹を比較的低層のある本港
に放流した。

「アユは、秋になると産卵のために川を下って来る。現場一帯を占めた安西橋から南安西川橋の間には、重要な産卵の場所。十月十一日から保護区として十二月日まで禁漁になっている。」とこまで下ってきた？　かくのアユが、このままでは酸欠で死滅してしまう」と、救出作戦に乗り出した。

この日は、村上組会長をはじめ組合員二十五人が出勤。同市向敷地の安倍川右岸に出現した水たまりのひとつで、作戦を繰り広げ

まで行くことにしているが、心配なのは夜間の密偵者。十月三十一日の夜も、パトロール員が三人の用心不得者を見つけ、追跡劇を繰り広げた。「来季の好漁のための保護。規則は絶対に守ってほしい」と同僚警。この数日は、係員を増やして夜間パトロールを強化することにしている。

安倍川のアユ救え

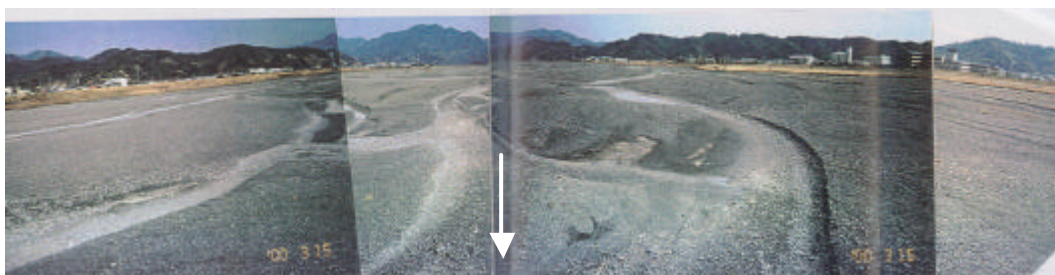
カラカラ天気
で渇水状態
地元漁協が
出動

65

平成 12 年 1 月～ 3 月の水枯れ状況



安倍川大橋左岸上流（全面枯渇）



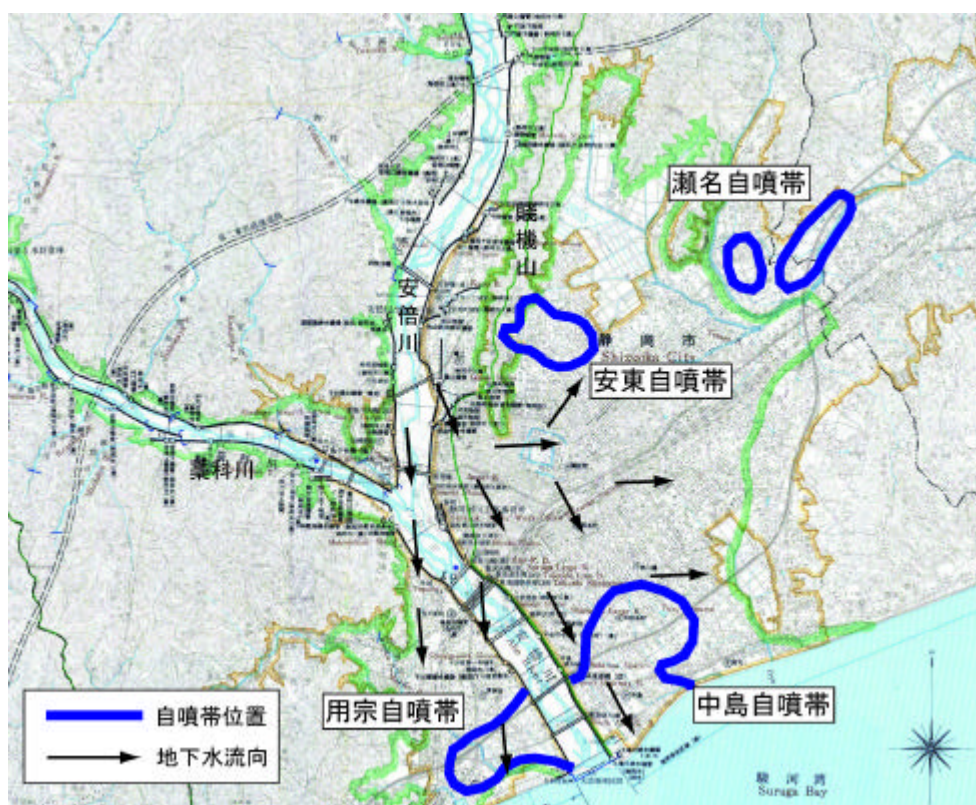
狩野橋上流（全面枯渇）



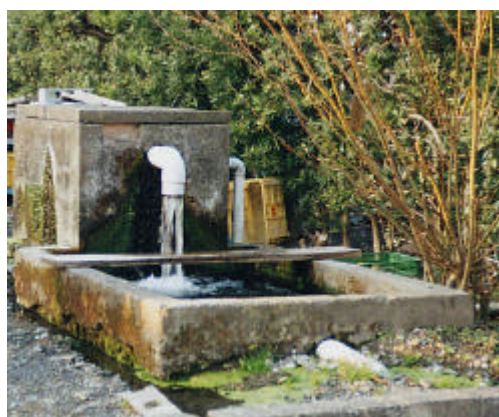
5-3 湧水の実態

扇状地が平野に変わり、地下水位が地表面より高くなる場所では、「湧水（わき水）」や「自噴水」が地表に現れる。湧水や自噴水は一般に水がきれいで、夏は冷たく冬は比較的暖かいという特性を持っている。

安倍川流域では、河口部には「中島自噴帯」、^{なかしま}「用宗自噴帯」があり、^{もちむね}「瀬名自噴帯」があり、^{わらしな}「安東自噴帯」がある。また、地下水の流向は、^{あんどう}「安東地区」には「^{あんどう}安東自噴帯」がある。また、地下水の流向は、^{しずはな}「賤機山」の南端付近から扇状地上を広がる方向を示している。



図－5.2 自噴帯位置図（出典：静岡市資料より転写）



図－5.3 中島自噴帯（西脇地区）
（出典：静岡県写真）

第6章 河川流況及び水質

6-1 河川流況

安倍川^{あべがわ}手越地点及び牛妻^{うしづま}地点の流況は、表－6.1～6.2 のようになっている。手越地点の過去 45 年間(S31～H12)の平均値は、豊水流量約 39.1m³/s、平水流量約 17.5m³/s、低水流量約 7.6m³/s、渇水流量約 1.5m³/s であり、牛妻地点の過去 31 年間(S45～H12)の平均値は、豊水流量約 23.3m³/s、平水流量約 13.7m³/s、低水流量約 8.5m³/s、渇水流量約 4.0m³/s となっている。

表－6.1 手越地点実績流況表

観測年	手越地点流況							
	流 量 (m ³ /s)							年総量 ×10 ⁶ m ³
	最大	豊水	平水	低水	渇水	最小	年平均	
1956 (昭和31年)	1047.00	46.76	15.12	9.28	0.14	0.00	49.93	1578.80
1957 (昭和32年)	773.12	51.85	14.58	6.70	0.00	0.00	43.07	1358.38
1958 (昭和33年)	2884.98	61.36	26.80	13.01	3.52	0.53	49.19	1551.22
1959 (昭和34年)	2608.99	139.09	60.66	13.67	0.81	0.00	97.91	3087.79
1960 (昭和35年)	4017.40	26.40	17.90	13.40	4.80	0.00	35.90	1135.97
1961 (昭和36年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1962 (昭和37年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1963 (昭和38年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1964 (昭和39年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1965 (昭和40年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1966 (昭和41年)	2341.58	36.06	26.78	8.84	2.21	0.72	58.03	1829.97
1967 (昭和42年)	1889.55	23.20	13.35	6.87	0.16	0.00	28.58	896.37
1968 (昭和43年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1969 (昭和44年)	2177.14	27.50	15.53	9.20	2.28	1.80	35.20	1110.03
1970 (昭和45年)	1056.96	28.53	13.34	5.47	1.15	0.46	27.81	877.17
1971 (昭和46年)	1952.65	19.06	10.90	6.01	0.27	0.00	32.76	1033.07
1972 (昭和47年)	1445.71	99.46	24.24	8.78	4.07	1.05	97.72	3090.32
1973 (昭和48年)	1220.22	24.06	12.20	7.03	1.07	0.00	57.98	1828.30
1974 (昭和49年)	3926.86	34.04	17.56	6.86	0.27	0.00	34.69	1093.96
1975 (昭和50年)	2420.23	28.60	16.53	10.29	4.83	1.39	34.74	1095.73
1976 (昭和51年)	784.74	49.16	19.76	7.30	1.82	1.29	42.33	1338.57
1977 (昭和52年)	1361.43	29.71	13.03	3.70	0.90	0.30	35.63	1123.74
1978 (昭和53年)	730.34	17.90	9.66	4.52	1.10	0.29	26.69	841.80
1979 (昭和54年)	4861.74	25.80	15.90	9.45	0.68	0.49	31.36	988.95
1980 (昭和55年)	1277.00	26.21	14.55	8.98	2.74	0.47	27.37	865.61
1981 (昭和56年)	1591.72	38.18	15.90	4.94	0.45	0.10	28.75	906.69
1982 (昭和57年)	3856.79	50.07	15.90	7.10	0.13	0.03	64.70	2040.30
1983 (昭和58年)	2980.91	38.20	18.44	6.25	1.50	0.21	49.46	1559.87
1984 (昭和59年)	786.13	9.86	4.11	0.76	0.00	0.00	14.27	451.22
1985 (昭和60年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1986 (昭和61年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1987 (昭和62年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1988 (昭和63年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1989 (平成元年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1990 (平成2年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1991 (平成3年)	2511.19	43.68	20.19	10.13	1.26	0.28	55.00	1734.43
1992 (平成4年)	601.57	38.97	21.75	9.24	2.93	0.25	30.62	968.22
1993 (平成5年)	594.06	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1994 (平成6年)	1773.69	15.26	8.79	4.21	0.46	0.02	18.29	576.71
1995 (平成7年)	476.38	25.42	8.08	2.42	0.38	0.03	25.02	789.01
1996 (平成8年)	400.57	欠測	欠測	欠測	欠測	0.72	欠測	欠測
1997 (平成9年)	1764.47	欠測	欠測	欠測	欠測	0.00	欠測	欠測
1998 (平成10年)	1927.54	欠測	欠測	欠測	欠測	0.00	欠測	欠測
1999 (平成11年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
2000 (平成12年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
過去10ヶ年平均	—	30.83	14.70	6.50	1.26	—	32.23	1017.09
累年平均	—	39.05	17.46	7.57	1.48	—	41.96	1324.16

出典：1956～1960、1966～2000年・・・流量年表 建設省河川局編 日本河川協会」

上記以外の年・・・年流量状況 静岡河川事務所」

- (注1) 平均流況は昭和31年～平成12年の欠測年を除いて算出した値を示す。
(注2) 10ヶ年平均流況は平成3年～平成12年の欠測年を除いて算出した値を示す。

表－6.2 牛妻地点実績流況表

観測年	牛 妻 地 点 流 況							
	流 量 (m ³ /s)							年総量 ×10 ⁶ m ³
	最大	豊水	平水	低水	渇水	最小	年平均	
1970 (昭和45年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1971 (昭和46年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1972 (昭和47年)	409.10	44.40	26.04	13.09	5.41	4.79	39.16	1238.33
1973 (昭和48年)	259.40	19.76	12.21	8.29	4.37	1.06	19.63	619.17
1974 (昭和49年)	2266.75	28.21	12.60	7.86	4.11	1.55	30.82	972.10
1975 (昭和50年)	1746.91	20.86	13.91	10.34	5.72	0.46	35.35	1114.82
1976 (昭和51年)	345.87	22.58	17.24	12.01	4.63	3.75	24.15	763.62
1977 (昭和52年)	776.06	23.32	11.62	7.28	4.70	3.95	22.62	713.51
1978 (昭和53年)	121.84	15.44	9.98	7.34	4.13	2.25	13.70	431.95
1979 (昭和54年)	3096.56	21.50	15.62	9.92	4.47	2.48	21.33	672.69
1980 (昭和55年)	1294.23	23.22	15.62	9.44	5.96	1.09	21.22	670.92
1981 (昭和56年)	581.77	26.52	11.10	6.66	3.19	2.37	21.06	664.19
1982 (昭和57年)	2393.50	26.17	16.73	11.82	4.05	2.28	31.44	991.51
1983 (昭和58年)	1480.24	24.72	12.93	6.77	3.40	2.29	27.09	854.22
1984 (昭和59年)	416.16	11.39	7.47	4.43	2.24	1.60	9.66	305.61
1985 (昭和60年)	1803.21	欠測	欠測	欠測	欠測	0.48	欠測	欠測
1986 (昭和61年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1987 (昭和62年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1988 (昭和63年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1989 (平成元年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1990 (平成2年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1991 (平成3年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1992 (平成4年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1993 (平成5年)	769.77	26.07	13.94	10.26	4.99	0.43	30.59	964.62
1994 (平成6年)	1331.62	欠測	欠測	欠測	欠測	1.79	欠測	欠測
1995 (平成7年)	288.31	15.70	9.37	5.04	1.19	0.38	15.35	484.12
1996 (平成8年)	159.01	欠測	欠測	欠測	欠測	3.36	欠測	欠測
1997 (平成9年)	1138.37	欠測	欠測	欠測	欠測	0.84	欠測	欠測
1998 (平成10年)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
1999 (平成11年)	1202.99	27.29	14.71	6.11	0.55	0.00	29.52	930.79
2000 (平成12年)	1407.96	19.24	12.36	7.54	4.22	3.71	27.03	854.68
過去10ヵ年平均	—	22.08	12.60	7.24	2.74	—	25.62	808.55
累年平均	—	23.32	13.73	8.48	3.96	—	24.69	779.23

出典：1970～1980、1997、1999、2000年・・・流量年表 建設省河川局編 日本河川協会」

上記以外の年・・・年流量状況 静岡河川事務所」

(注1) 平均流況は昭和45年～平成12年の欠測年を除いて算出した値を示す。

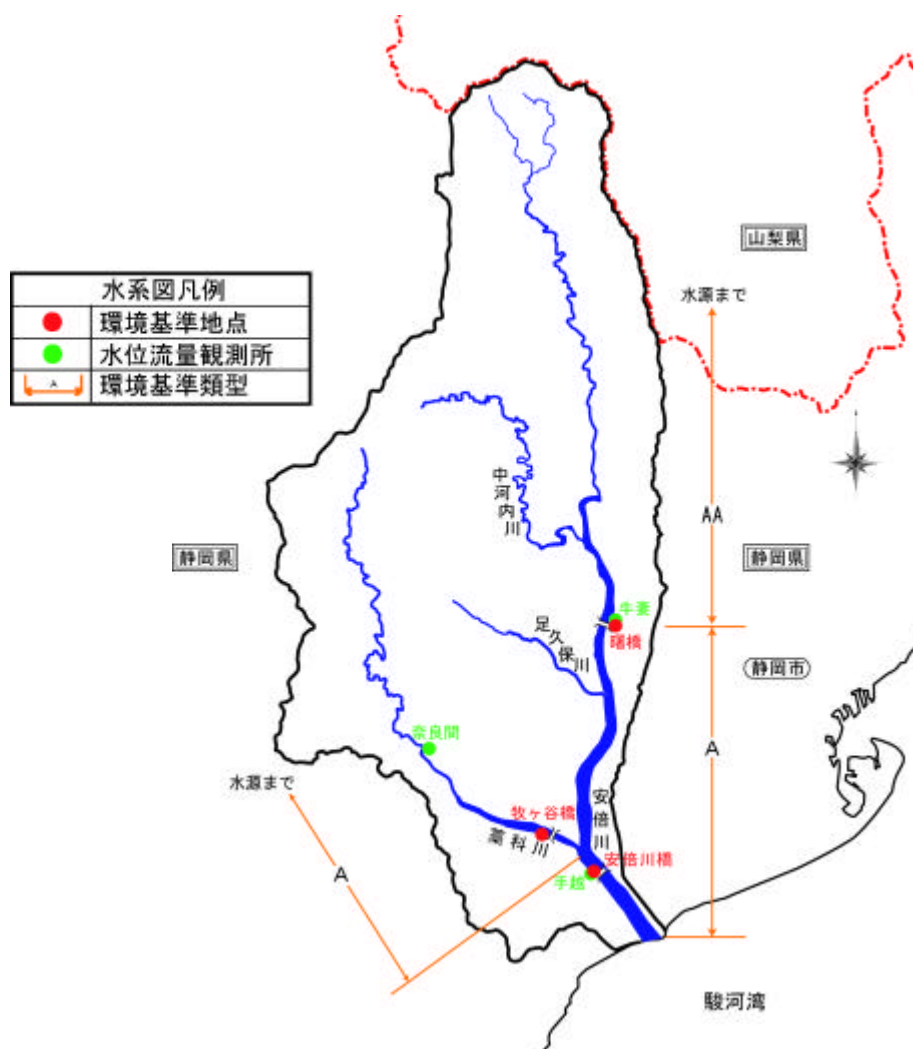
(注2) 10ヵ年平均流況は平成3年～平成12年の欠測年を除いて算出した値を示す。

6-2 河川水質

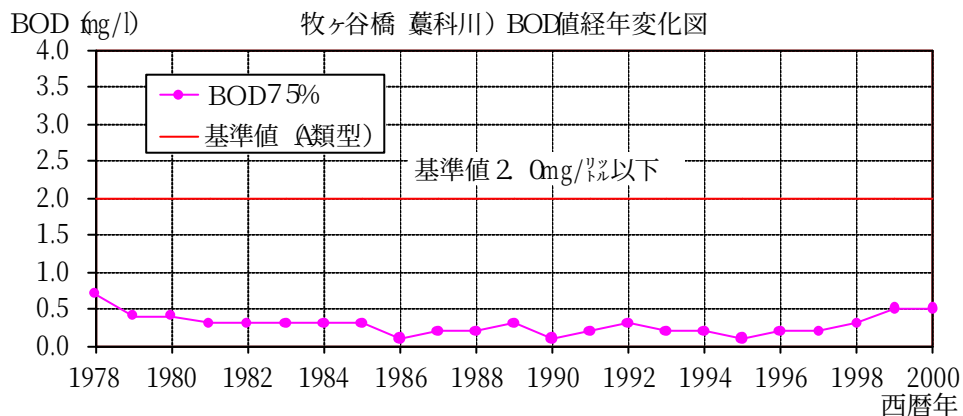
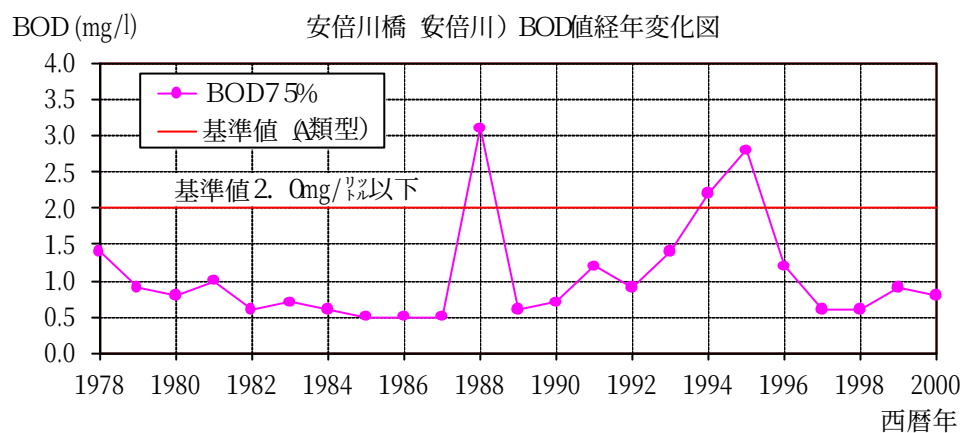
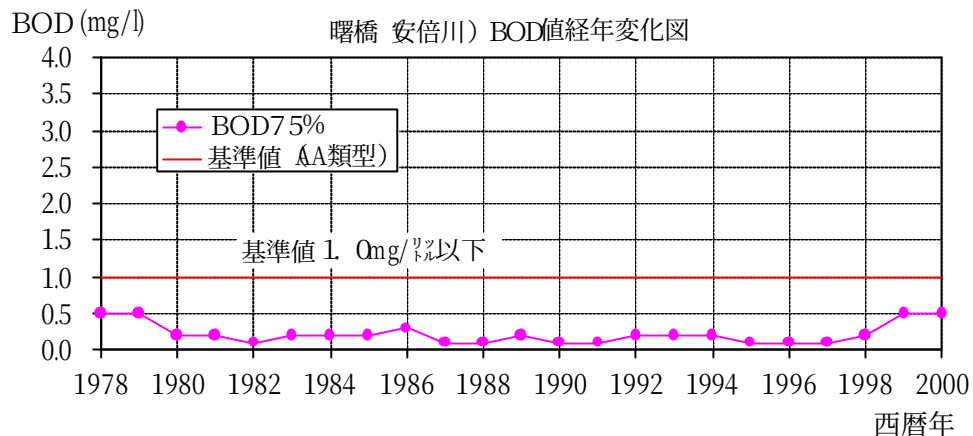
安倍川水系の水質基準は、「生活環境基準類型指定（静岡県）」でAA 類型及びA 類型となっている。近年約 20 ヶ年の水質経年変化をみると、BOD 平均値がほとんど基準値を下回っており、良好な水質を保持している。

水域の範囲	基準地点名	類型	達成期間	指定年月日	備考
安倍川上流（曙橋より上流）	曙橋	AA	イ	昭和48年 11月20日	静岡県告示
安倍川下流（曙橋より下流）	安倍川橋	A	イ		
藁科川（全域）	牧ヶ谷橋	A	イ		

＊）達成期間について イ：直ちに達成
ロ：5 年以内で可及的速やかに達成
ハ：5 年を超える期間で可及的速やかに達成



図－6.1 水質環境基準の類型指定



- ※) BOD：水中の比較的分解されやすい有機物が微生物によって分解される際に消費される酸素の量。BOD の数値が低いほど、水質がきれいと判断される。
- 75%値：年間の日間平均値の全データを水質の良いものから並べ、 $0.75 \times n$ (n はデータ数) の水質値。 $0.75 \times n$ が整数でない場合は小数点以下を切り上げた整数番目の値となる。仮に年間 12 回の BOD 測定値ならば、小さいものから 9 番目の値となる。

図－6.2 安倍川流域の水質経年変化図 (BOD)

第7章 河川空間の現状

7-1 河川敷等の利用の状況

安倍川の高水敷は、河口から 11 km 付近までが静清広域都市計画において安倍川緑地に指定されており、静岡市により公園・グラウンド等として整備されている。

高水敷の利用形態は、ほとんどが散策あるいはスポーツ等に利用されており、身近なレクリエーションを楽しめる場・憩いの場として重要な位置を占めている。

また、安倍川の広大な河川空間を利用した花火大会は毎年7月に行われ、広い高水敷は花火見物に利用されている。



安倍川花火大会

安倍川の花火大会は、江戸時代後半頃から既に駿府の夏の風物詩だったようである。安倍川の広大な河川空間を利用して行われ、広い桟敷席で見ることができる。

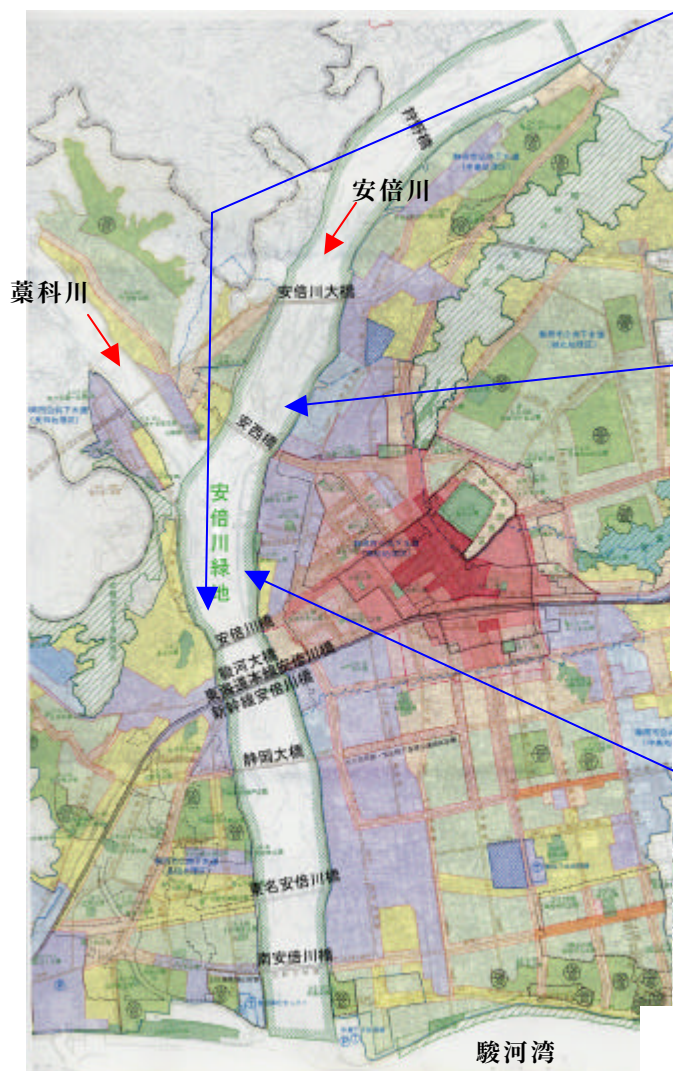


図-7.1 静清広域都市計画図
(平成13年3月：静岡市)



緊急用河川敷道路
(安倍川6.5k付近左岸)

震災時には、東西に走る鉄道や道路を南北に結ぶ緊急用道路として、人員や救援物資を円滑に運搬する。また、平常時には、地域住民の方がジョギングや散歩、サイクリング等で川に親しみのもてる空間を提供している。



親水公園（安倍川5.0k付近左岸）
高水敷上の親水公園は、流域内の人々が川と親しみ、憩いの場となっている。

7-2 河川の利用状況

安倍川、^{わらしな}藁科川直轄管理区間の高水敷で占用許可を受けている区域は130.3haであり、その構成は、公園・緑地(約52%)、運動場(約44%)、田畑(約4%)となっている。

利用形態は、スポーツ・散策等がそれぞれ4～5割程度を占め、水遊びや釣りは合わせて1割程度となっ

表-7.1 高水敷の占用許可面積

	公園・緑地	運動場	田畑	合計
面積 (ha)	67.7	57.7	4.9	130.3
割合 (%)	52.0	44.3	3.7	100.0

出典：「報告様式7 土地占用の処分に係る面積等報告」
(平成15年4月30日現在 中部地方整備局静岡河川事務所)

ている。利用場所としては、高水敷利用が6割以上の大部分を占めている。

また、安倍川の高水敷は、一次及び拠点避難地域として指定されており、いざという時に備え、「緊急用河川敷道路」の整備を行うなど、都市防災区間としての位置付けも高くなっている。

表-7.2 安倍川における年間の河川空間利用状況

区分	項目	年間利用者数 (千人)		年間利用状況の割合	
		平成9年度	平成12年度	平成9年度	平成12年度
利用形態別	スポーツ	871	886	散策等 49.3% スポーツ 38.6% 水遊び 7.5% 釣り 4.6%	散策等 50.7% スポーツ 35.8% 水遊び 7.8% 釣り 5.7%
	釣り	103	142		
	水遊び	170	192		
	散策等	1,114	1,257		
	合計	2,258	2,477		
利用場所別	水面	28	27	堤防 26.9% 水面 1.2% 水際 10.9% 高水敷 60.9%	堤防 21.1% 水面 1.1% 水際 12.4% 高水敷 65.4%
	水際	246	307		
	高水敷	1,376	1,620		
	堤防	608	523		
	合計	2,258	2,477		

※)出典：「河川空間利用実態調査報告書」

その他、安倍^{わらしな}藁科川内水面漁業共同組合による漁業権が設定されている。



水遊び (安倍川17.0k付近左岸)
水辺に近づきやすく水遊びの風景が見られる。



アユ釣り (安倍川4.0k付近右岸)
安倍川、藁科川では、市街地周辺で身近にアユ釣りが楽しめる。

第8章 河道特性

8-1 河道特性

安倍川は、静岡県と山梨県の県境大谷嶺(標高 2,000m)を源として南に向かって流れ、駿河湾に注ぐ流域面積 567km²、幹川流路延長 51km の一級河川である。

安倍川は、静岡市域を北から南にほぼ直線的に流れ、その流路延長は短く、かつ大谷嶺等の 2,000m 級の高山から一気に駿河湾に注いでいるために、河床勾配は中流部で約 1/150、河口付近で約 1/250 という急勾配を呈しており、我が国屈指の急流河川である。

安倍川上流部は、大谷崩を始めとする多くの崩壊地を抱えており、牛妻 (17.0k) より下流に至って谷底平野が出現し始め、さらに下流で扇状地の静岡平野が開け、この扇状地の上に静岡市街地が形成されている。牛妻より下流は砂礫の堆積が非常に多く、流路が固定されない網状河川であり、河口部には砂州が発達し広い静水域が形成されている。



安倍川上流部 (大谷崩)

宝永 4 年 (1707 年) の大地震により崩壊したもので、崩壊土砂量は 1 億 2000 万 m³ といわれている。現在も年間 2 ～ 3 万 m³ 程度の土砂が流出しているものと想定される。



安倍川中流部 (21k～22k 付近)

中流部から谷底平野が出現しはじめる。



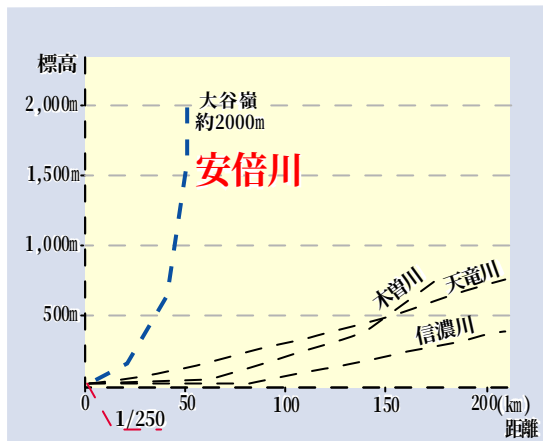
安倍川下流部 (12k～14k 付近)

下流部は扇状地性の静岡平野が開け、静岡市街地が形成されている。
河道は網状流路となっている。

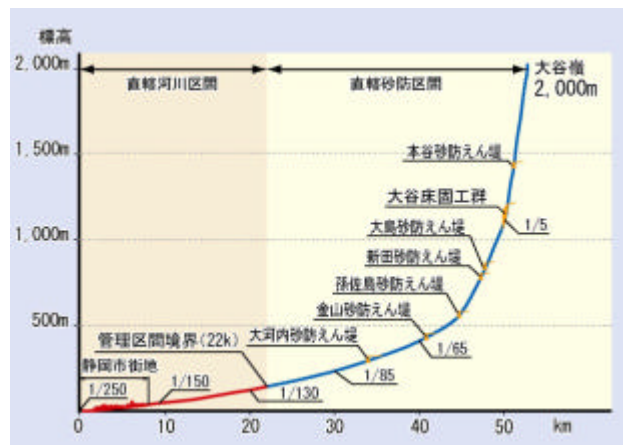


安倍川河口部

河口部は発達した砂州により広い汽水の静水域が形成されている。



図－8.1 安倍川縦断形状比較図



図－8.2 安倍川縦断面図

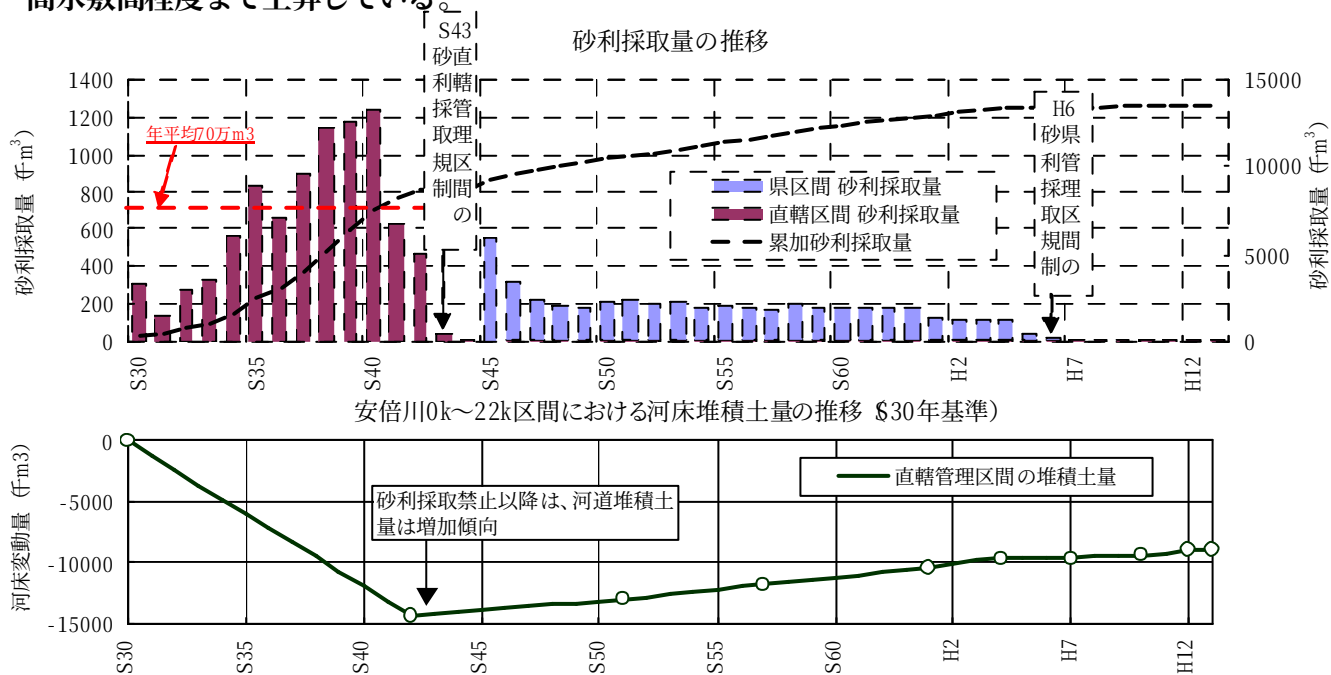
8-2 河床の経年変化

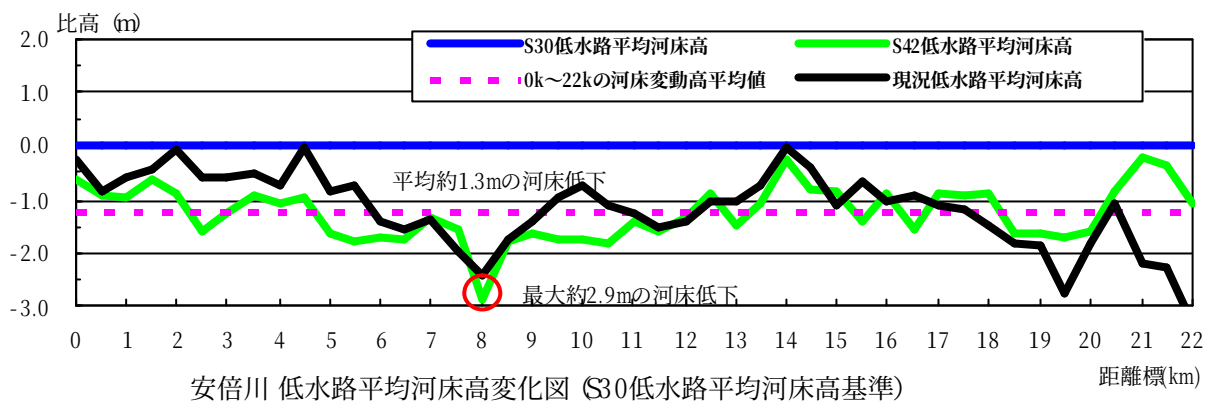
安倍川では明治時代から砂利採取が行われ、昭和 20 年代には大規模な機械が導入され、昭和 30 年代に入ると高度経済成長および東京オリンピックの開催に伴う建設ブームの影響により、砂利採取量は増加していった。

昭和 30 年代の高度経済成長期には、年間平均約 70 万 m^3 に及ぶ砂利採取が行われたことにより直轄管理区間の河床が最大約 2.9m、平均約 1.3m低下した。その結果、橋梁、護岸など構造物の被災が発生した。

このため、昭和 43 年度以降は直轄管理区間で砂利採取が規制され、平成 6 年度以降は県管理区間において砂利採取が規制された。

昭和 43 年度以降は、直轄管理区間の河床は上昇傾向へと転じ、最近では低水路の河床高が高水敷高程度まで上昇している。

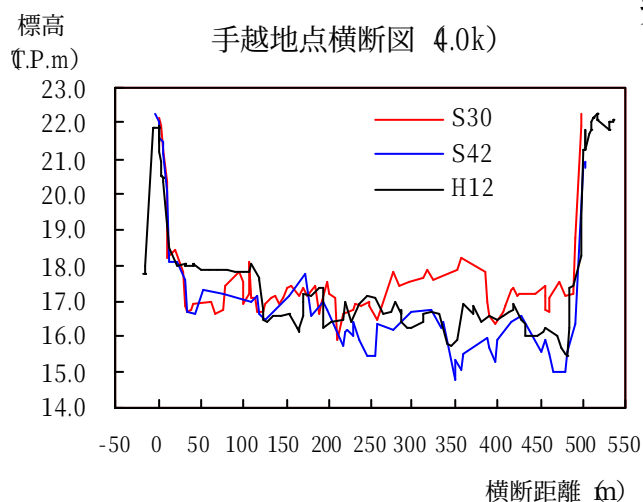




竜西橋陥没 (安倍川 19.5k 付近)
平成 13 年 8 月洪水、平成 14 年 7 洪水
では、昭和 10 年に建設された竜西橋が陥
没した。



安倍川橋陥没の新聞記事
(昭和 44 年 6 月 27 日静岡新聞：静岡新聞社編集局
資料調査本部調査部許諾済)

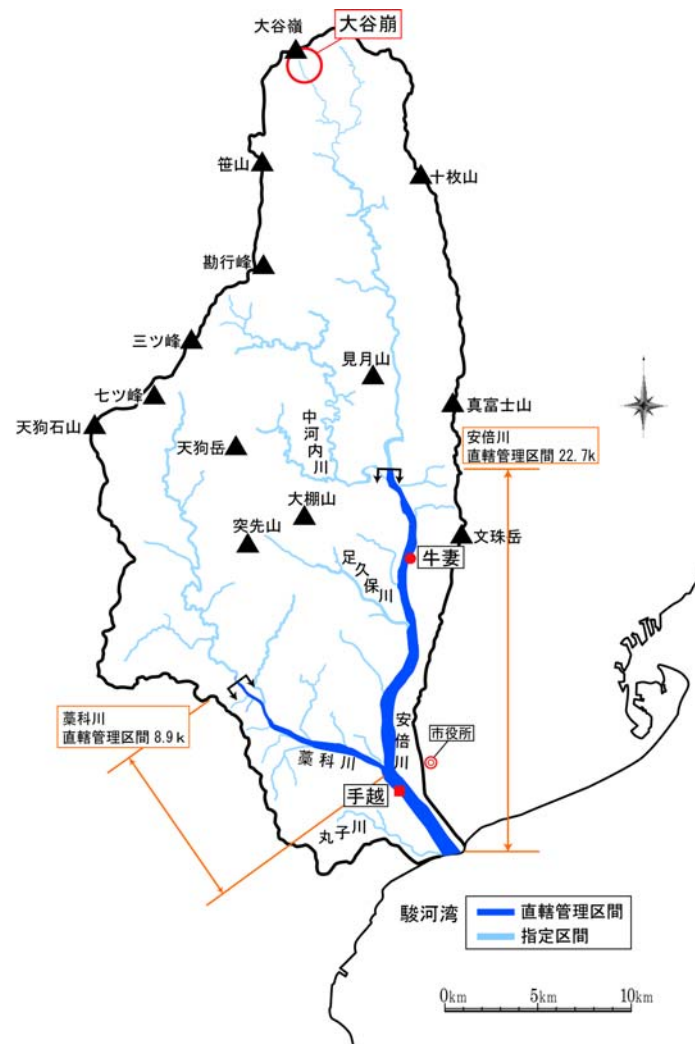


近年の河床上昇状況
(安倍川 7.25k 付近左岸)

第9章 河川管理の現状

安倍川においては、洪水や高潮等による災害の発生を防止し、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全の観点から日々の河川管理を行っている。

安倍川の直轄管理区間及び延長は、以下に示すようになっている。



表－9.1 管理区間延長

管理者	河川名（区間）	管理区間延長（km）
国土交通省	安倍川	22.7
	蘆科川	8.9
	直轄管理区間合計	31.6
静岡県	指定区間合計	169.1
合計		200.7

出典：「河川現況調査（調査基準年：平成7年度末）平成13年10月」

9-1 河川区域

直轄管理区間の河川区域面積は、以下のようになっている。低水路及び堤防敷は全て官有地であり、高水敷は約 1.5%の民有地を除いてほとんどが官有地となっている。

表－9.2 直轄管理区間の管理区域面積（単位：千 m^2 ）

	低水路（1号地）		堤防敷（2号地）		高水敷（3号地）		計	
	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地	官有地	民有地
指定 区間外	11,842.6	0	1,898.3	0	2,466.6	38.4	16,207.5	38.4
計	11,842.6		1,898.3		2,505.0		16,245.9	

出典：「河川区域内面積報告（国部静河占第 15 号 平成 15 年 4 月 30 日）」

9-2 河川管理施設

安倍川の河川管理施設は、堤防護岸等の他、水門 1 ヶ所、樋管 64 ヶ所、陸閘 13 ヶ所があり、これらの河川管理施設の状況を把握し、適切な処置を講じるため、河川の巡視、点検を行っている。なお、揚排水機場は設置していない。

表－9.3 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理 区間延長 (km)	堤 防 延 長 (km)					
	堤防定規 断面	暫 定 (暫々定 を含む)	未施工	小計	不必要 区間	合計
31.6	37.6	11.0	5.4	54.0	9.3	63.3
比率 (%)	69.6	20.4	10.0	100.0	—	—

(出典：「河川便覧」平成 14 年 3 月現在)

表－9.4 排水樋管等一覧表（直轄管理区間）

種 別	施設別	河川名	箇所数	計
水 門	直 轄	安倍川	1	1
	許 可	0	0	
樋管・樋門	直 轄	安倍川	8	64
	許 可	安倍川	39	
		藁科川	17	
揚排水機場	直 轄	0	0	0
	許 可	安倍川	0	
		藁科川	0	
陸 閘	直 轄	安倍川	6	13
		藁科川	2	
	許 可	安倍川	5	

*)出典：安倍川構造物台帳



丸子川水門（安倍川 0.0k 付近右岸）

大規模地震（東海地震等）の津波対策として平成元年に丸子川の流末に設置された水門である。

9-3 許可工作物

安倍川の許可工作物は、樋門樋管 56 ヶ所、橋梁 15 ヶ所、陸閘 5 ヶ所、鉄塔 2 ヶ所の計 78 施設にのぼる。(平成 14 年 3 月現在)

各構造物については、河川管理施設同様の維持管理水準を確保するよう、各施設管理者と協議し、適正な維持管理を行うよう指導している。

表－9.5 許可工作物一覧表（直轄管理区間）

施設名	数 量	備 考
樋管・樋門	56	安倍川 39、藁科川 17
揚排水機場	0	
堰	0	
伏せ越し	0	
橋梁	15	安倍川 12、藁科川 3
陸閘	5	安倍川 5
鉄塔	2	安倍川 2
計	78	

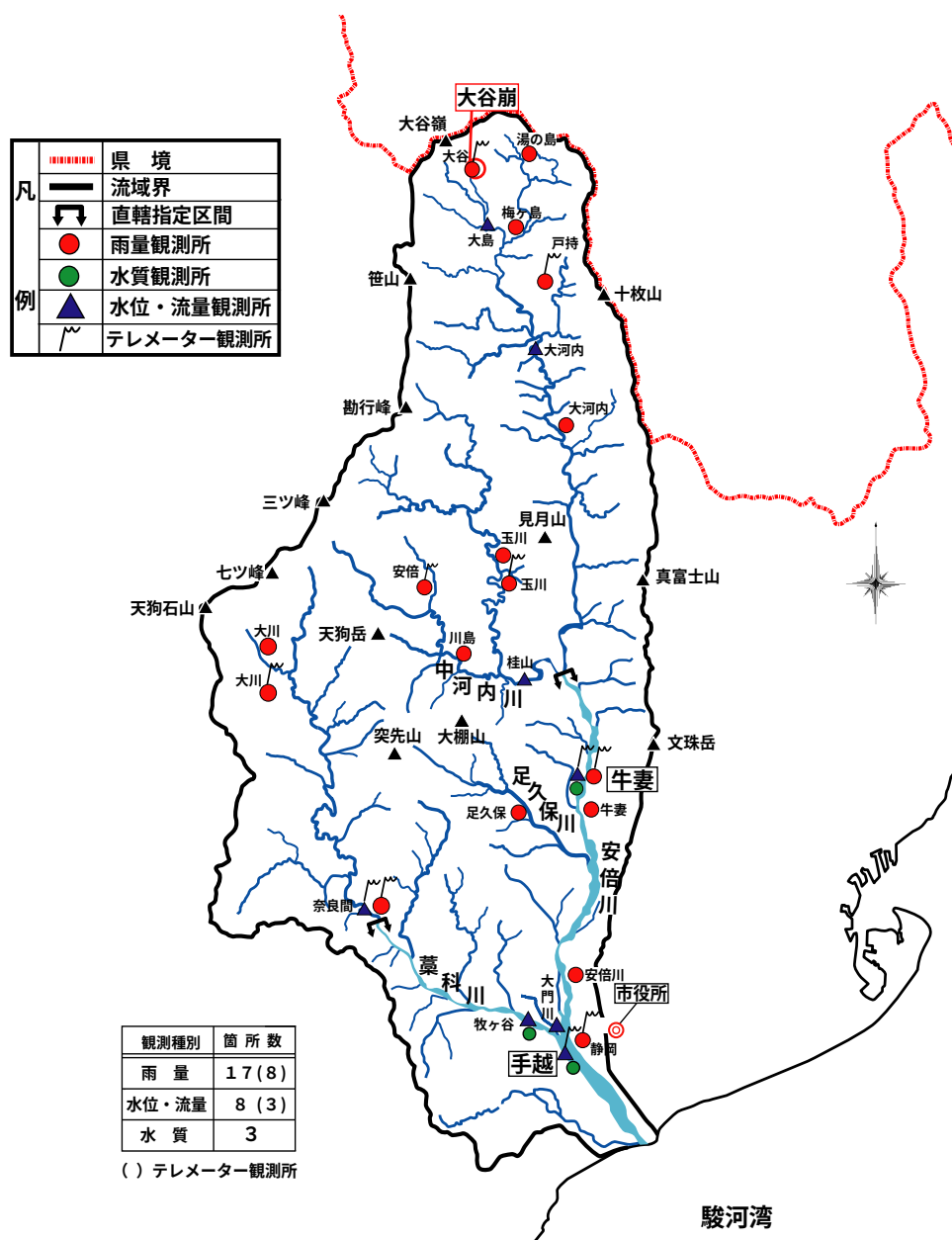
*)出典：安倍川構造物台帳

9-4 水防体制

(1) 河川情報の概要

安倍川流域では、平成 15 年 3 月現在、雨量観測所 17 箇所、水位・流量観測所 8 箇所を設置し、河川管理の重要な情報源となる雨量、水位・流量の観測を行っている。

各観測所から得られる情報は、洪水時の水位予測等河川管理上または水防上重要なものであるため、常に最適な状態で観測を行えるように保守点検・整備を実施している。



図－9.2 安倍川水系雨量・水位・流量観測所設置位置図

(2) 水防警報の概要

安倍川において洪水による災害が起こりうる可能性があるとは認められたときには、水防警報を発令し、水防団や近隣町村の関係機関と協働して洪水被害の軽減に努めるよう、体制を組んでいる。

(3) 洪水予報河川の指定

安倍川では、水防法第10条及び気象業務法第14条に基づき、平成9年度に洪水予報指定河川に指定され、静岡气象台と共同で洪水予報・警報の発表を行い、周辺の住民への適切な情報提供を実施している。

表－9.6 安倍川水防対象観測所

【水防対象観測所】			
手越 ^{てこし} 水位観測所			
危険水位	4.82m	警戒水位	2.40m 指定水位 1.50m
牛妻水位観測所			
危険水位	4.50m	警戒水位	3.00m 指定水位 2.20m

9-5 危機管理への取り組み

(1) 水防連絡会との連携

安倍川では、洪水・高潮による被害に発生を防止または軽減するため、国及び地方自治体の関係機関が連携し、重要水防箇所等の河川巡視や水防資器材の整備、水防に関わる広報宣伝等を行っている。

表－9.7 安倍川水防組織

機 関 名	
国土交通省	静岡河川事務所
静岡県	静岡土木事務所
静岡市	静岡市総務部防災課

(2) 水質事故対策の実施

①水質事故の実態

安倍川における近年の水質事故発生状況は、表－9.9 のとおりであり、事故による油等の流出や魚類のへい死などの水質事故がしばしば発生している。

表－9.9 安倍川における水質事故の発生状況

年	水質事故の種類		計
	事故による油等の流出	魚類のへい死	
平成9年	1	2	3
平成10年	2	1	3
平成11年	4	0	4
平成12年	3	11	14
平成13年	3	5	8
平成14年	2	3	5
合 計	15	22	37

②水質汚濁対策連絡協議会との連携

安倍川では、河川及び水路に関わる水質汚濁対策に関する各関係機関相互の連絡調整を図ることを目的に、「安倍川・大井川水系水質汚濁対策連絡協議会」を設置し、水質の監視や水質事故発生防止に努めている。協議会では、水質の常時観測や資料収集、緊急時の連絡調整、水質汚濁対策の推進、水質に関する知識の普及・広報活動等を図っている。

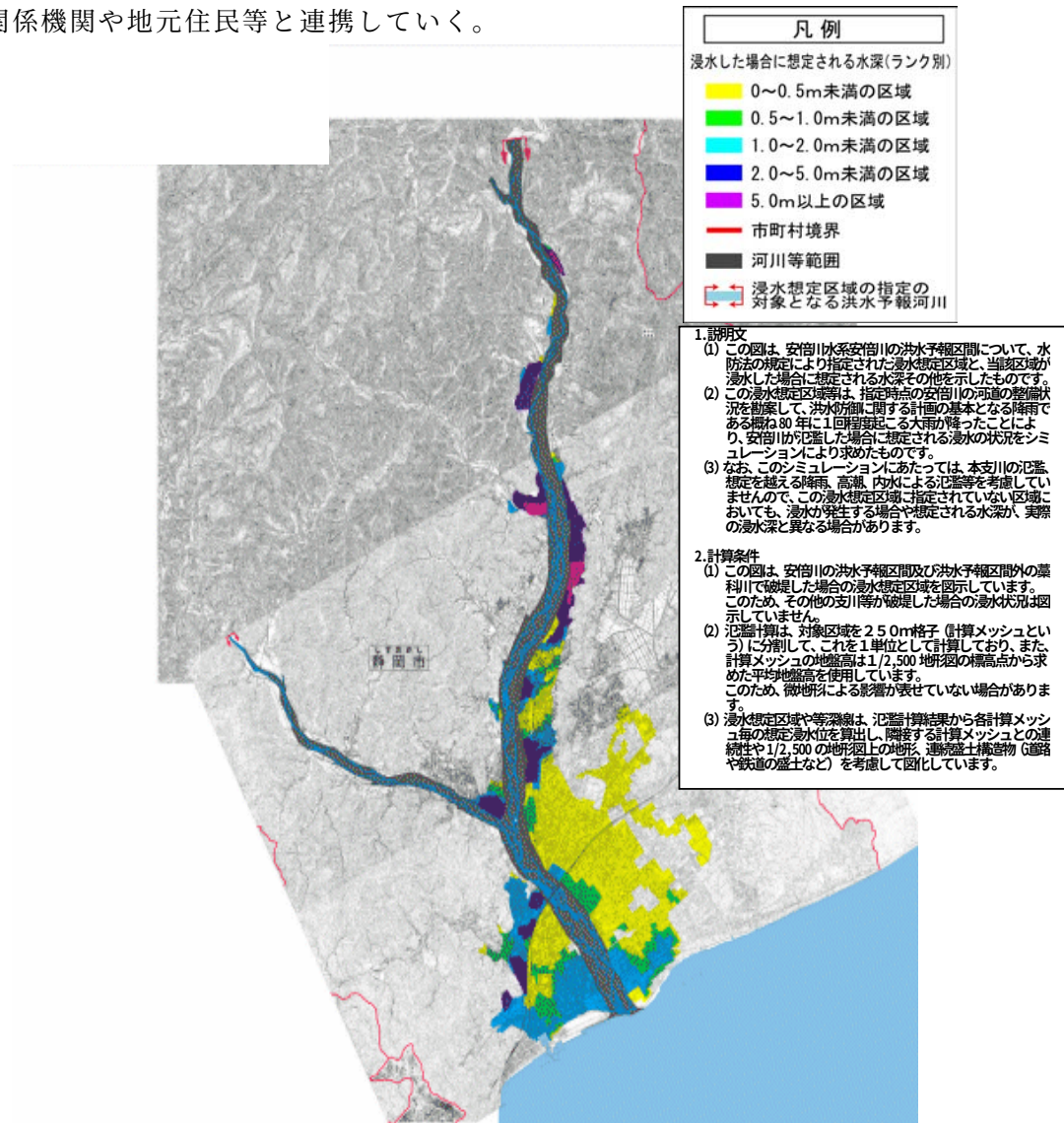
表－9.10 安倍川・大井川水系水質汚濁対策連絡協議会の構成機関

機 関 名
国土交通省中部地方整備局
静岡県
静岡市
島田市
藤枝市
大井川町
吉田町
金谷町
川根町
中川根町
本川根町

(3) 洪水危機管理への取り組み

安倍川では、周辺住民の洪水に対する知識・意識を高めることを目的として、平成 14 年度に浸水想定区域の告示、公表を行い、自分の住んでいる地域の洪水氾濫による浸水の可能性と浸水の程度について情報提供を行っている。

今後、静岡市ではハザードマップを作成することが予定されており、作成を支援するなど、関係機関や地元住民等と連携していく。



図－9.3 安倍川 浸水想定区域図（平成 15 年 3 月公表）

また、想定氾濫区域における面積、人口等は次のとおりである。

表－9.11 想定氾濫区域の諸元

面 積	人 口	資 産 額	出 荷 額
67.0 km ²	38.1 万人	55,405 億円	8,493 億円

(出典：河川現況調査 平成 13 年 10 月(平成 7 年末調査))

(4) 地震等の対策の取り組み

警戒宣言が発令されたとき、河川管理施設及び許可工作物に関する情報連絡体制を整えるとともに事前点検及び資機材配備等の確認を行い、地震発生時における敏速且つ確実な災害応急対策のための準備を図る。

9-6 地域との連携

安倍川は、釣り場・キャンプ場等のレクリエーション施設が多くみられ、各種イベントを通じて水と緑のオープンスペースとして地域住民のいこいの場として利用されている。

民間の河川愛護団体である安倍川フォーラムでは、「川に親しみ、さかなと泳ごう」等のイベントが開催され、安倍川の魅力を体験し、環境保全について考えていく活動が行われている。

また、小中学校の教育課程における「総合学習」や小中学校の指導充実に向けて研究会等の教育の場として利用されている。

安倍川・藁科川の環境保全の取り組みとしては、地域住民と協働管理を目指す「安倍川・藁科川クリーン大作戦」が静岡市や市農協青壮年部、連合町内会等で実施されている。

さらに、安倍川下流の手越及び中島では、緑と花があふれる川、人びとが集う憩いの川を目指して、地域住民の協力による「ラブリバー活動」が行われている。



ラブリバーキャンペーンの開催状況



ラブリバーキャンペーンの開催状況